

H30年度前期児童教育学科シラバス目次

共通科目

科目名	担当者	ページ	科目名	担当者	ページ
英語Ⅰ	宮城	1	経済と生活	野原	12
英語Ⅰ(前半)	大城(浩)	2	沖縄と文化	仲原	13
英語Ⅰ(後半)	大城(浩)	3	数と統計	稲福(純)	14
英語Ⅰ	又吉	4	生活と芸術	玉城	15
中国語Ⅰ	水間	6	女性と法律	福里	16
外国語コミュニケーション	赤嶺	8	健康と運動の科学	石垣	17
教養演習	濱比嘉 他	9	健康・運動実技	山入端	18
教養演習	稲福(純)	10	健康・運動実技	石垣	19
茶道とマナー	佐久間		健康・運動実技	喜屋武	20
社会と情報	平田(諭)	11	日本国憲法	山内	22

専門科目

科目名	担当者	ページ	科目名	担当者	ページ
保育の表現技術(音楽)Ⅰ	大宜見 他	24	ゼミナール	桃原	58
保育の表現技術(体育)Ⅰ	石垣	26	ゼミナール	玉城	59
保育内容研究Ⅰ	大田 他	28	ゼミナール	小波津	60
保育・教育インターシップⅠ	新垣 他	29	ゼミナール	柳生	
保育内容 総論	平田(美)	30	ゼミナール	廣瀬	62
保育内容 健康	喜屋武	32	ゼミナール	砂川	64
保育内容 人間関係	柳生	34	ゼミナール	上原(勝)	65
保育内容 環境	村吉	35	特別支援教育概論	嘉数	66
保育実習指導ⅠB(施)	上原(建)	36	特別活動の指導法	仲西	68
保育実習指導Ⅱ(保)	柳生 他		教育制度論	上原(勝)	69
保育実習指導Ⅲ(児)	玉城	38	家庭支援論	垣花	70
保育原理	廣瀬 他	39	児童家庭福祉	宮本	71
教育原理	濱比嘉	40	児童家庭福祉	竹藤	72
教育原理	又吉	41	児童家庭福祉	垣花	73
教育課程総論	濱比嘉	42	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	長若	74
教育機器演習	新川	43	社会福祉	上原(建)	75
教育機器演習	新垣 他	45	社会的養護	砂川	77
教育実習指導	桃原	46	教科専門 音楽	小波津	78
教育実習指導	新垣 他	47	教科専門 図工	玉城	80
教育心理学	渡名喜	48	教科専門 体育	山入端 他	81
発達心理学	渡名喜	49	教科専門 体育	仲西	82
子ども理解の心理学	柳生	50	教科専門 家庭	新垣	83
子どもの保健ⅠA	大城 他	51	障がい児保育Ⅰ	羽地	84
子どもの保健ⅠB	大城 他	52	乳児保育Ⅰ	大石 他	86
ゼミナール	新垣	54	教材研究 国語	桃原	88
ゼミナール	稲福(純)	55	教材研究 算数	濱比嘉 他	89
ゼミナール	上原(建)	56	教材研究 社会	上原(勝)	90
ゼミナール	渡名喜		教材研究 音楽	小波津	91
ゼミナール	濱比嘉	57	教師論	桃原	93

科目区分	共通	科目名	英語 I	担当者	宮城	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士専必						
卒業要件との関連	郷土に誇りを持ちながら、国際性豊かな教養を身につけて、その知識・技能を実生活で実践する。								
授業の到達目標	英語の文章を、「読んで理解する力」と「書いて表現する力」と同時に、運用能力である「聴いて理解する力」と自分の意志を「話して伝える力」を、向上させることを目標とする。								
授業概要	高校までに学んだ文法を基礎に、ストーリーを精読しながら英語を楽しく学ぶ。各章ごとの易しい語句で書かれた英文の短いストーリーの意味を理解しながら、基本的な表現をいろいろな会話シーンに適用して、英語の運用能力を高める訓練を実践していく。語学学習の基本である発音やイントネーションなどにも注意して授業を進める。 小学校での外国語教育を充実させるためには、やはり教師自身の能力向上が必須条件であり繰り返し訓練を行って、いかに運用能力を高めていくのかを考えながら学習する。								
授業計画及び時間外学習（時間）	1回	講義内容、教科書等説明、及び自己紹介							
	2回	Lesson 1 Faster than You (Reading) 自己紹介、予習復習は最低2時間程度が望まれる							
	3回	Lesson 1 Faster than You (Exercise) ” ”							
	4回	Lesson 1 Faster than You (Exercise)、 ”							
	5回	Lesson 2 Wonderful Medicine (Reading)、 ”							
	6回	Lesson 2 Wonderful Medicine (Exercise)、 ”							
	7回	Lesson 2 Wonderful Medicine (Exercise)、 ”							
	8回	Lesson 3 The Polite Waitress (Reading)、 ”							
	9回	Lesson 3 The Polite Waitress (Exercise)、 ”							
	10回	Lesson 3 The Polite Waitress (Exercise)、 ”							
	11回	Lesson 4 An Absent-minded Professor (Reading)、 ”							
	12回	Lesson 4 An Absent-minded Professor (Exercise)、 ”							
	13回	Lesson 4 An Absent-minded Professor (Exercise) 、 ”							
	14回	Lesson 5 Sweat and Tears (Reading) 、 ”							
	15回	Lesson 5 Sweat and Tears (Exercise) 、 ”							
	16回	Lesson 5 Sweat and Tears (Exercise)、 ”							
	17回	復習、調整日、 ”							
	18回	Lesson 6 The Wrong Puzzle (Reading)、 ”							
	19回	Lesson 6 The Wrong Puzzle (Exercise)、 ”							
	20回	Lesson 6 The Wrong Puzzle (Exercise)、 ”							
	21回	Lesson 7 Beautiful Money! (Reading)、 ”							
	22回	Lesson 7 Beautiful Money! (Exercise)、 ”							
	23回	Lesson 7 Beautiful Money! (Exercise)、 ”							
	24回	Lesson 8 Finding Opportunities (Reading)、 ”							
	25回	Lesson 8 Finding Opportunities (Exercise)、 ”							
	26回	Lesson 8 Finding Opportunities (Exercise)、 ”							
	27回	Lesson 9 Lost Again! (Reading)、 ”							
	28回	Lesson 9 Lost Again! (Exercise)、 ”							
	29回	Lesson 9 Lost Again! (Exercise)、 ”							
	30回	復習、調整日、 ”							
	31回	期末試験							
テキスト	ストーリーから学ぶ総合英語 “TWENTY TALES” 著者：L. A. HILL・安藤賢一 発行所：成美堂								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 講義で適宜紹介していくが絵本、新聞雑誌、インターネット記事などのニュース情報も随時取り上げたい。								
授業の評価方法・基準	評価は授業への参加度が30%、学期を通しての課題レポートが15%、随時のクイズが15%、期末試験が40%で総合評価する。レポート、クイズや期末試験のフィードバックにも時間をあてる。								
履修条件	特になし								
関連科目、次のステージ	後期の「英語 II」を引き続き受講し、日常生活では常に卒業要件を意識しながら、授業や予習復習で学んだことを実践していく。								
オフィスアワー	授業の前々								
受講生へのメッセージ	前述の授業への参加はただ出席するだけではなく、能動的な授業への参加、間違いを怖れず声を出して演習問題に取り組むことの参加度ということで、語学学習には欠かせないことなのでその心構えを常にもってほしい。課題への取り組みも学期初めから始め、まとめ方に注意し提出期限を厳守することを望む。								

科目区分	共通	科目名	英語Ⅰ（前半）	担当者	大城浩	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選必	免許・資格要件等	保育士選必						
卒業要件との関連性	グローバル社会における保育活動に即応するため自己表現力と英語コミュニケーション力（話す、聞く、書く、読む）に係る技能を習得する								
授業の到達目標	(1) 保育士、幼稚園教諭に必要な英語の基本表現・専門用語を身に付ける (2) 多様な考え方を学びながら自己表現力とコミュニケーションスキル（話す、聞く、書く、調べる等）を身に付ける (3) 生涯学び続ける「自立した学習者」を育む態度を身に付ける								
授業概要	(1) 多様な題材（保育の英会話、5行エッセイ、音読、演説等）から自分の考えを伝える自己表現力を育む基礎を学ぶ (2) ペア・グループ活動を通し問題解決能力や主体的なコミュニケーション能力を育む基礎を学ぶ								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション				事前：授業の進め方及び配布資料の説明・確認 事後：自己紹介文の作成・発表			
	2回	保育の英会話①				事前：First step to childcare English 事後：ペア・グループ活動			
	3回	5行エッセイ①				事前：5-line essay① 事後：ペア・グループ活動			
	4回	音読①				事前：Gestures talk 事後：トレーニング活動			
	5回	NHK テレビ①				事前：シンガポール① 事後：ペア・グループ活動			
	6回	演説①				事前：マララ国連演説 事後：ペア・グループ活動			
	7回	保育の英会話②				事前：Welcome to YONABARU N.S 事後：ペア・グループ活動			
	8回	5行エッセイ②				事前：5-line essay② 事後：ペア・グループ活動			
	9回	音読②				事前：John Manjiro 事後：トレーニング活動			
	10回	NHK テレビ②				事前：シンガポール② 事後：ペア・グループ活動			
	11回	演説②				事前：キング牧師スピーチ 事後：ペア・グループ活動			
	12回	保育の英会話③				事前：Time and number 事後：ペア・グループ活動			
	13回	5行エッセイ③				事前：5-line essay③ 事後：ペア・グループ活動			
	14回	各パート総復習①				事前：定期試験範囲の確認 事後：ペア・グループ発表大会①			
	15回	各パート総復習②				ペア・グループ発表大会②			
	16回	試験				事前：筆記テスト 事後：口頭テスト			
テキスト	(1) 指定図書なし (2) 講義で資料を配布する								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 (1) 保育の英会話（赤松直子・久富陽子著、崩文書林、2000 円） (2) ハーバード式英語学習法（青野仲達著、秀和システム 1000 円） (3) 音読入門編（国弘正雄著、講談社、1200 円） (4) おとなの基礎英語（松本茂監修、主婦の友社、1900 円） (5) 英語で聴く世界を変えた感動の名スピーチ（平野次郎著、中経出版、1600 円）								
授業の評価方法・基準	テスト（筆記 60%、スピーチ 20%）、課題提出(10%)、ペア・グループワーク(10%)								
履修条件	(1)Everyone should “listen, speak,read,write and move.” (2)Don’ t’ be afraid of making mistakes. (3)Say “thank you” when your friends do something for you. (4)受講マナー（遅刻・無届欠席・私語・居眠り・携帯電話常）厳守								
関連科目・次のステージ	語学は実践練習が不可欠です。授業では可能な限り 4 技能（話す、聞く、書く、読む）をフル活用し、授業以外でも自分にあった練習を心がけること								
オフィスアワー	1 C：月曜日・水曜日の 13:10～14:00。1 B：月曜日・水曜日の 2:30～3:40								
受講生へのメッセージ	保育園や幼稚園でも外国人が入園する時代です。外国人である相手を理解し、自分の考えを伝えるコミュニケーションスキルを共に創りだしましょう。								

科目区分	共通	科目名	英語Ⅰ（後半）	担当者	大城浩	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選必	免許・資格要件等	保育士選必						
卒業要件との関連性	グローバル社会における保育活動に即応するため自己表現力と英語コミュニケーション力（話す、聞く、書く、読む）に係る技能を習得する								
授業の到達目標	(1) 保育士、幼稚園教諭に必要な英語の基本表現・専門用語を身に付ける (2) 多様な考え方を学びながら自己表現力とコミュニケーションスキル（話す、聞く、書く、調べる等）を身に付ける (3) 生涯学び続ける「自立した学習者」を育む態度を身に付ける								
授業概要	(1) 多様な題材（保育の英会話、5行エッセイ、音読、演説等）から自分の考えを伝える自己表現力を育む基礎を学ぶ (2) ペア・グループ活動を通し問題解決能力や主体的なコミュニケーション能力を育む基礎を学ぶ								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション				事前：授業の進め方及び配布資料の説明・確認 事後：自己紹介文の作成・発表			
	2回	保育の英会話④				事前：Directions 事後：ペア・グループ活動			
	3回	5行エッセイ④				事前：5-line essay④ 事後：ペア・グループ活動			
	4回	音読③				事前：The Haiku 事後：トレーニング活動			
	5回	NHK ドラマ③				事前：シンガポール③ 事後：ペア・グループ活動			
	6回	名言①				事前：名言① 事後：ペア・グループ活動			
	7回	保育の英会話⑤				事前：登園と降園 事後：ペア・グループ活動			
	8回	5行エッセイ⑤				事前：5-line essay⑤ 事後：ペア・グループ活動			
	9回	音読④				事前：Welcome Aboard 事後： トレーニング活動			
	10回	NHK ドラマ④				事前：シンガポール④ 事後：ペア・グループ活動			
	11回	名言②				事前：名言② 事後：ペア・グループ活動			
	12回	保育の英会話⑥				事前：子供の遊び・遊具 事後：ペア・グループ活動			
	13回	5行エッセイ⑥				事前：5-line essay③ 事後：ペア・グループ活動			
	14回	各パート総復習①				事前：定期試験範囲の確認 事後：ペア・グループ発表大会①			
	15回	各パート総復習②				ペア・グループ発表大会②			
	16回	試験				事前：筆記テスト 事後：口頭テスト			
テキスト	(1) 指定図書なし (2) 講義で資料を配布する								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 (1) 保育の英会話（赤松直子・久富陽子著、崩文書林、2000 円） (2) ハーバード式英語学習法（青野仲達著、秀和システム 1000 円） (3) 音読入門編（国弘正雄著、講談社、1200 円） (4) おとなの基礎英語（松本茂監修、主婦の友社、1900 円） (5) 英語で聴く世界を変えた感動の名スピーチ（平野次郎著、中経出版、1600 円）								
授業の評価方法・基準	テスト（筆記 60%、スピーチ 20%）、課題提出(10%)、ペア・グループワーク(10%)								
履修条件	(1)Everyone should “listen, speak, read, write and move.” (2)Don’ t be afraid of making mistakes. (3)Say “thank you” when your friends do something for you. (4)受講マナー（遅刻・無届欠席・私語・居眠り・携帯電話等）厳守								
関連科目・次のステージ	語学は実践練習が不可欠です。授業では可能な限り 4 技能（話す、聞く、書く、読む）をフル活用し、授業以外でも自分にあった練習を心がけること								
オフィスアワー	1 C：月曜日・水曜日の 13:10～14:00。1 B：月曜日・水曜日の 2:30～3:40								
受講生へのメッセージ	保育園や幼稚園でも外国人が入園する時代です。外国人である相手を理解し、自分の考えを伝えるコミュニケーションスキルを共に創りだしましょう。								

科目区分	共通	科目名	英語 I	担当者	又吉 斎	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選必	免許・資格要件等	保育士選必						
卒業要件との関連性	グローバル社会に対応できる社会人としてのコミュニケーション能力（外国語を含む）を身につけ、協働できる力を身につける。								
授業の到達目標	あいさつや自己紹介、海外渡航先での基本会話など、いわゆる日常会話の学習に留まらず、外国人に地元の地域文化について簡単な英語を用いて説明できる程度の英語表現力を習得している。また、国際化に伴う異文化間の相互理解を目指す上で必要とされる異文化コミュニケーション能力を磨き、国際人として必要な教養を身につけている。更に、保育士、幼稚園教諭に必要な基本表現・専門用語を学習しながら、実践的な英語コミュニケーション能力を有している。								
授業概要	毎回ユニークな慣用表現（熟語）や映像（洋画・洋楽）を通した英語表現を中心に学習しながら、特に口頭での実践練習を通して主体的に物事を考え、英語を用いて積極的に自己を表現する姿勢を身につける。また、相手を理解しようとする積極的な態度を養うために、ペアやグループ・ワークを通して、協働して学ぶことの大切さを理解すると同時に、保育の現場で必要とされる基本的な英語コミュニケーション能力を磨く。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1 回	はじめに「コミュニケーション能力とは」			事後：コミュニケーション能力の定義を再確認する。（1h）				
	2 回	自己紹介① 英文作成・口頭発表練習			事前：自己紹介の英文を作成し、口頭発表の練習をする。（1h） 事後：学習した単語・表現を復習する。（1h）				
	3 回	自己紹介② 口頭発表（前半グループ）			事前：前回発表した内容のブラッシュアップを図る。（1h） 事後：他者の発表で登場した新出語句を復習する。（1h）				
	4 回	自己紹介③ 口頭発表（後半グループ）			事前：前回学んだ新出語句を復習する。（1h） 事後：関連する内容の類義語や反意語を調べる。（1h）				
	5 回	映画に見る自己紹介の表現			事前：インターネット等を参考に情報を収集する。（1h） 事後：学習した単語・表現を復習する。（1h）				
	6 回	他者紹介 ① ペアワーク（インタビュー）			事前：インタビューの内容と表現を整理する。（1h） 事後：インタビューした結果をまとめ、口頭で練習する。（1h）				
	7 回	他者紹介 ② 口頭発表（前半グループ）			事前：他者紹介の発表に向けて口頭練習を行う。（1h） 事後：他者の発表で登場した新出語句を復習する。（1h）				
	8 回	他者紹介 ③ 口頭発表（後半グループ）			事前：他者紹介の口頭練習を再度行う。（1h） 事後：既習の語句を整理し、復習する。（1h）				
	9 回	英語で地域を紹介（沖縄県の概要）			事前：沖縄県の概要について日本語で収集し、整理する。（1h） 事後：当該テーマに関連する単語・表現を確認する。（1h）				
	10 回	英語の早口ことばにチャレンジ!!			事前：日英の代表的な早口言葉を調べる。（1h） 事後：学習した早口言葉を口頭で練習する。（1h）				
	11 回	大きな数字の読み方 ①（基本ポイント）			事前：数字の読み方を整理しておく。（1h） 事後：学習のポイントを復習し、表現を口頭練習する。（1h）				
	12 回	大きな数字の読み方 ②（練習問題）			事前：学習した単語・表現を確認し、暗記する。（1h） 事後：実際に目につく様々な数字を英語で表現する。（1h）				
	13 回	Tea Break（映画鑑賞：「家族愛」）前篇			事前：作品について、英語サイトなどで内容を確認する。（1h） 事後：作品中に登場する語句の意味を調べる。（1h）				
	14 回	Tea Break（映画鑑賞：感想発表）後編			事前：前回意味を調べた語句を復習し、覚える。（1h） 事後：鑑賞を終えての感想（短文）を英語で表現する。（1h）				
	15 回	道案内の英語 ①（表現・発音チェック）			事前：道案内に必要な表現・関連語句を調べる。（1h） 事後：学習した語句を復習し、覚える。（1h）				
	16 回	道案内の英語 ②（理解度チェック）			事前：前回学習した語句を復習し、定着させる。（1h） 事後：実際に道案内を想定して口頭で練習する。（1h）				
	17 回	海外での英会話 ①（入国審査）			事前：入国審査の流れについて調べる。（1h） 事後：入国審査に関する語句を覚える。（1h）				
	18 回	海外での英会話 ②（レストラン）			事前：レストランでの会話表現を調べる。（1h） 事後：学習した語句を復習し、覚える。（1h）				
	19 回	海外での英会話 ③（ファストフード店）			事前：ファストフード店での会話表現を調べる。（1h） 事後：学習した語句を復習し、覚える。（1h）				
	20 回	海外での英会話 ④（ショッピング）			事前：ショッピングでの会話表現を調べる。（1h） 事後：学習した語句を復習し、覚える。（1h）				

21 回	海外での英会話 ⑤ (スーパー)	事前：スーパーでの会話表現を調べる。(1h) 事後：学習した語句を復習し、覚える。(1h)
22 回	保育の英会話 ① (基本表現)	事前：保育現場での基本表現を調べる。(1h) 事後：学習した語句を復習し、覚える。(1h)
23 回	保育の英会話 ② (チャンツ・遊び)	事前：代表的なチャンツや遊びについて調べる。(1h) 事後：学習した語句を復習し、覚える。(1h)
24 回	保育の英会話 ③ (英語絵本の読み聞かせ)	事前：好きな英語の絵本について調べてみる。(1h) 事後：作品の内容や登場する新出語句を調べる。(1h)
25 回	保育の英会話 ④ (年間行事の案内)	事前：保育に関する身近な行事について英語で調べる。(1h) 事後：学習した語句を復習し、覚える。(1h)
26 回	英語で地域文化を紹介 ①：練習	事前：自分自身の地元の文化について調べてみる。(1h) 事後：地域文化に関する語句を調べる。(1h)
27 回	英語で地域文化を紹介 ②：発表	事前：地域文化の口頭発表に向けて練習する。(1h) 事後：学習した語句を復習し、覚える。(1h)
28 回	Tea Break (映画鑑賞：「友情」) 前篇	事前：作品について、英語サイトなどで内容を確認する。(1h) 事後：作品中に登場する語句の意味を調べる。(1h)
29 回	Tea Break (映画鑑賞：感想発表) 後編	事前：前回意味を調べた語句を復習し、覚える。(1h) 事後：鑑賞を終えての感想(短文)を英語で表現する。(1h)
30 回	学期末テスト	事前：学期末テストに向けて既習内容を復習する。(2h)
31 回	テスト返却(解答・解説)、フィードバックとまとめ	事後：学期末テストの結果を振り返る。(1h)
テキスト	指定図書なし ※ 適宜、配布資料を用意します。	
参考資料等	【購入を必須としないもの】 「起きてから寝るまで 子育て英語表現 600：完全改訂版」吉田研作(監) [株式会社アルク：2014] ¥1,600(税抜き)	
授業の評価 方法・基準	①テスト 60% ②口述試験又は口頭発表 30% ③受講態度 10% の割合で総合的に評価する	
履修条件	受講マナー(遅刻・欠席・私語・居眠り等)に注意し、授業では積極的に参加する態度で臨むこと	
関連科目・次の ステージ	「外国語コミュニケーション」同様、基礎的な英語の科目です。必要に応じて、英検や TOEIC などの資格試験に向けた自主学習や英会話の学習に積極的に取り組みましょう。	
オフィスアワー	火曜日 3 講目以降 (13:00~17:50)	
受講生への メッセージ	普段から様々な英語に触れる機会を作りましょう。また、授業に関する質問や要望等があれば遠慮なく声をかけて下さい。 連絡先：matayoshi-i@owjc.ac.jp	

科目区分	共通	科目名	中国語Ⅰ	担当者	水間 八重	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択必修	免許・資格要件等		保育士選必修					
卒業要件との関連性	社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につけるとともに、社会人としてのコミュニケーション能力を身につけ、協働できる力を身につける。								
授業の到達目標	ローマ字による発音表記(ピンイン)と発音に慣れ、基礎的かつ実用的な表現を習得します。また中国語圏の文化や習慣について、いくつか例をあげて他者に紹介できることを目指します。視野を広げ、異なる価値観を受入れる態度を身につけます。								
授業概要	この講座では、言語の習得に加え、言葉の背景にある歴史や文化についても学びます。とりわけ中国と沖縄の歴史的な往来や共通する文化について理解するとともに、国や地域によって習慣やマナーに違いがあることも学びます。また、現在の私たちの暮らしと中国との関係についても理解を深めます。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	講義概要／中国と中国語について／中国式の発音表記／母音と声調の発音／あいさつと基本表現1(こんにちは)				事後：配付資料の読み直し、重要表現の確認、本文の書写・暗唱、関連図書の閲覧やニュースなどの視聴（1H）			
	2回	中国の地理について／母音が二つ三つ重なった「複合母音」の発音／あいさつと基本表現2(どうぞ)				事後：各回共通（1H） 重要表現の確認、本文の書写・暗唱、関連図書の閲覧やニュースなどの視聴			
	3回	中国と沖縄について／ふたつの「ん」～[n]と[ng]がついた「鼻母音」の発音／あいさつと基本表現3(どういたしまして)							
	4回	台湾・香港について／子音 [b,p,m,f] の発音／あいさつと基本表現4(ありますか、いりますか)							
	5回	子音 [d,t,n,l] の発音／あいさつと基本表現5(お元気ですか)							
	6回	子音 [g,k,h] の発音／自分の名前を中国語で発音してみよう				事後：重要表現の確認、関連図書の閲覧やニュースなどの視聴（1H）			
	7回	中国語音声でアニメーションを観て、あいさつや基本表現を聴きとってみよう				事後：これまでの学習内容の確認（1H）			
	8回	子音 [j,q,x] の発音／教科書第1課① 自己紹介～名前を伝える				事前：教科書第1課 CD 音声を聴き、本文を朗読（0.25H） 事後①：各学習単元 1 回目共通（0.75H） 重要表現や練習問題の確認、本文の書写、関連図書の閲覧やニュースなどの視聴			
	9回	子音 [zh,ch,sh] の発音／教科書第1課② 自己紹介～国籍や身分、所属を表現する				事前：教科書第1課 CD 音声を聴き、本文を朗読（0.25H） 事後②：各学習単元 2 回目共通（0.75H） 重要表現や練習問題の確認、本文の書写・暗唱、関連図書の閲覧やニュースなどの視聴（0.75H）			
	10回	子音 [z,c,s] の発音／発音のまとめと習熟度チェック				事後：重要表現や練習問題の確認、関連図書の閲覧やニュースなどの視聴（0.5H）			
	11回	わたしたちの暮らしと中国(食品編) 身近な食を通して中国との関わりを知る				事前：課題（1H） 事後：配付資料や提示資料を読んで理解を深める（0.5H）			
	12回	教科書第2課① これは～ですか(疑問を表わす「吗」と指示代名詞)				事前：教科書第2課 CD 音声を聴き、本文を朗読（0.25H） 事後①：（0.75H）			
	13回	教科書第2課② これはなんですか(疑問詞「什么」1)				事前：教科書第2課 CD 音声を聴き、本文を朗読（0.25H） 事後②：（0.75H）			
	14回	教科書第3課① これはよい、あれはきれい(形容詞述語文)				事前：教科書第3課 CD 音声を聴き、本文を朗読（0.25H） 事後①：（0.75H）			
	15回	教科書第3課② これはいかがですか、あれはどうですか(疑問詞「怎么样」)				事前：教科書第3課 CD 音声を聴き、本文を朗読（0.25H） 事後②：（0.75H）			
	16回	中間テスト(リーディングまたは口頭試問)／数をかぞえる				事前：試験範囲の確認（0.5H） 事後：これまでに習った重要表現の確認、0～10 までの数を中国語で暗唱（0.5H）			
	17回	教科書第4課① いくらですか？(中国の通貨について/価格の表現)				事前：教科書第4課 CD 音声を聴き、本文を朗読（0.25H） 事後①：（0.75H）			
	18回	教科書第4課② 二個買います(数詞と量詞の使い方)				事前：教科書第4課 CD 音声を聴き、本文を朗読（0.25H） 事後②：（0.75H）			
	19回	教科書第5課① どこにありますか(所在を表す「在」)				事前：教科書第5課 CD 音声を聴き、本文を朗読（0.25H） 事後①：（0.75H）			
	20回	教科書第5課② ～したい(助動詞「想」)				事前：教科書第5課 CD 音声を聴き、本文を朗読（0.25H） 事後②：（0.75H）			
	21回	中国の習慣・文化理解Ⅰ(中国映画の鑑賞と解説)				事後：配付資料や提示資料の閲覧・視聴を通して中国の習慣や文化について理解を深める（2H）			
	22回								
	23回	教科書第6課① ～はありますか、もっていますか(所有を表す「有」)				事前：教科書第6課 CD 音声を聴き、本文を朗読（0.25H） 事後①：（0.75H）			
	24回	教科書第6課② なんの～、どんな～(疑問詞「什么」2)				事前：教科書第6課 CD 音声を聴き、本文を朗読（0.25H） 事後②：（0.75H）			

	25 回	プリント教材 ～が好き、～を好む(動詞「喜欢」)	事後:重要表現や練習問題の確認、本文の書写・暗唱、関連図書の閲読やニュースなどの視聴(1H)
	26 回	教科書第7課① ～しました(完了を表す「了」)	事前:教科書第7課CD音声を聴き、本文を朗読(0.25H) 事後①:(0.75H)
	27 回	教科書第7課② Aにしますか、それともBにしますか(選択疑問文「A还是B」)	事前:教科書第7課CD音声を聴き、本文を朗読(0.25H) 事後②:(0.75H)
	28 回	教科書第8課① 何時ですか(時刻の表現)	事前:教科書第8課CD音声を聴き、本文を朗読(0.25H) 事後①:(0.75H)
	29 回	教科書第8課② ～したことがあります(経験を表す「过」)	事前:教科書第8課CD音声を聴き、本文を朗読(0.25H) 事後:重要表現や練習問題の確認、本文の書写・暗唱、定期試験の範囲の確認(0.75H)
	30 回	期末テスト(リスニング&筆記)	
	31 回	中国の習慣・文化理解Ⅱ／期末テストの解説／総括	事後:後期の授業(中国語Ⅱ)に向けて、テストの見直し、全講義内容の再確認(1H)
テキスト	『<最新版> 1年生のコミュニケーション中国語』塚本慶一監修 劉穎著 白水社(2200円+税) その他、適宜資料を配布します。		
参考資料等	【購入を必須としないもの】 『中日辞典』『日中辞典』ともに小学館 ※授業中に辞書を使用することはありませんが、購入予定者にはこの辞書を薦めます。 その他、適宜授業で紹介しします。		
授業の評価 方法・基準	各種課題・中間テスト・受講態度+小テスト 各20%、期末テスト 40%		
履修条件	外国語科目は必修です。中国語か英語のどちらかを履修してください。 授業では発音練習や会話練習を多く行います。積極的に参加してください。		
関連科目・次の ステージ	前期に「中国語Ⅰ」を履修した人は、後期に「中国語Ⅱ」を履修してください。 学習したことを実践できる機会を積極的に活かすこと。		
オフィスワー	授業の前後		
受講生への メッセージ	アルバイト先などで実際に中国語圏からの観光客と接する機会が増えていると思います。「こんな場面で困りました。」「こんなとき、どう言えばいいの?」など、教科書にはない疑問・質問についても気軽に声をかけください。現場で使える中国語と一緒に楽しく学びましょう! また、中国・台湾関連のニュースや話題には、日頃から意識を向けるよう心がけてください。課題については各自まじめに取り組み、期限を守って提出すること。		

科目区分	共通	科目名	外国語コミュニケーション		担当者	赤嶺ゆかり	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	必修	免許・資格要件等		保育士資格選必、幼児、小免必修						
卒業要件との関連性	社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身に着ける。									
授業の到達目標	あいさつ、自己紹介、他者紹介、招待について尋ねる英語を理解し話せるようになる。英語のエッセイやニュース、インタビューなどの映像から情報や考えなどを的確に理解し適切に内容について自分の意見を他者へ伝えることができる。群読を通して効果的な英語の読み聞かせを習得する。生涯学習への一歩として自律的学習法としての英語音読術を身につける。									
授業概要	コミュニケーション能力の向上を目指すために、ペアワークやグループワークを通して、１）他者を受容し多様な価値観を受容する。２）共に思考し、協力・協働し、課題解決に取り組む。３）何度も英語を声にだすことを繰り返すし、英文が読めるよう（話せるよう）になる。５）状況に応じた会話や意見交換を習得する。									
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション ①音読学習方法				事後：音読を３回以上行う。意味を再確認する。内容を理解する。				
	2回	English as International Language				事前：単語・熟語調べ、音読 事後：音読と意味と内容理解				
	3回	Getting to know each other(ワーク) Gestures, Body Language, コミュニケーション				事前：単語・熟語調べ、音読 事後：音読と意味と内容理解				
	4回	Icebreaking / Who am I? (自己紹介)				事前：単語・熟語調べ、音読 事後：音読と意味と内容理解				
	5回	Icebreaking (自己紹介)				事前：単語・熟語調べ、音読 事後：音読と意味と内容理解				
	6回	Describing People (Character) (自己・他者紹介)				事前：単語・熟語調べ、音読 事後：音読と意味と内容理解				
	7回	Describing the People(Appearance) (自己・他者紹介)				事前：単語・熟語調べ、音読 事後：音読と意味と内容理解				
	8回	異文化理解 graduation / commencement /卒業				事前：単語・熟語調べ、音読 事後：音読と意味と内容理解				
	9回	Inviting People (招待)				事前：単語・熟語調べ、音読 事後：音読と意味と内容理解				
	10回	Reading Theater: Practice & Preparation 練習とグループ分け				事前：単語・熟語調べ、音読 事後：音読と意味と内容理解				
	11回	Reading Theater: Practice & Rehearsal 練習とリハーサル				事前：単語・熟語調べ、音読 事後：音読と意味と内容理解				
	12回	Reading Theater Presentation & Evaluation 発表と相互評価				事前：単語・熟語調べ、音読 事後：音読と意味と内容理解				
	13回	Reading Theater: Presentation & Evaluation 発表と相互評価				事前：単語・熟語調べ、音読 事後：音読と意味と内容理解				
	14回	Review for the Final Examination テスト対策				事前：13回までの資料をすべて音読 事後：対策プリントの復習				
	15回	Final Examination 期末テスト (Listening & Reading Test)				なし				
	16回	テスト返却、これからの英語学習方法について for your future career								
テキスト	講義にて資料配布しますので、保存用のA4ファイル（クリアファイルであれば40ポケット以上の多めのもの）の準備をお願いします。									
参考資料等	【購入を必須としないもの】 適宜、講義において紹介します。									
授業の評価方法・基準	期末テスト30％ Reading Theater 読み聞かせ音読・群読（自己評価、相互評価、教員評価 4回提出） 30％ ペアワーク・グループワークによるコミュニケーション活動への参加（ワークシート8回提出）40％									
履修条件	A4ファイル用意できること。ペアワークやグループワークに対して積極的かつ協力的であること。英語学習に対してポジティブであること。音読練習を楽しむこと。声だしができること。									
関連科目・次のステージ	「英語プレゼンテーション」「異文化理解」「比較教育学」等。									
オフィスワー	月曜日のお昼時間（要予約）メールで受け付けます。メール：yukari.akamine@gmail.com									
受講生へのメッセージ	コミュニケーションを楽しみながら世界に通じる英語力と度胸を身につけましょう。									

科目区分	教養	科目名	教養演習	担当者	濱比嘉宗隆、上原勝晴	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	小学校教諭二種免許状選択						
卒業要件との関連性	・教育者としての専門知識・価値・技術を身に付ける。								
授業の到達目標	教員を志望する学生に対して、教員として、社会人として必要な資質・能力を身に付けさせるとともに、学級経営や授業づくりに必要な実践的指導力を身に付けさせる。また、インターンシップ、教育実習、各科目の学習及び教員採用に向けての取組に生かせるようにする。								
授業概要	教員としての魅力や本県で求められる教師像、学級経営、児童観、各教科等の授業づくりなどを通して、実践的指導力を身に付けさせたい。次期学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」についての理解を図るとともに、グループ討論、個別指導及び先輩教員から学ぶ場を設定し、教員志望に向けての計画的な取組を支援して行きたい。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション	(濱比嘉、上原)	事後：シラバスの確認、次回の予習(2H)					
	2回	教師の魅力、教師の使命、教職員としての職務	(濱比嘉、上原)	事前：授業内容に関する発表等の準備(2H) 事後：配布資料での確認と復習(2H)					
	3回	幼児・児童・生徒の発達	(上原)	事前：子どもの発達に関する予習(2H) 事後：配布資料等での復習(2H)					
	4回	社会人としてのマナー、接遇	(上原)	事前：授業内容に関する予習(2H) 事後：配布資料の読み返しと復習(2H)					
	5回	個別指導と「課題テーマ学習」(1)	(濱比嘉、上原)	事前：「相談シート」の作成と準備(2H) 事後：授業の振り返り(2H)					
	6回	個別指導と「課題テーマ学習」(2)	(濱比嘉、上原)	事前：「相談シート」の作成と準備(2H) 事後：授業の振り返り(2H)					
	7回	個別指導と「課題テーマ学習」(3)	(濱比嘉、上原)	事前：「相談シート」の作成と準備(2H) 事後：授業の振り返り(2H)					
	8回	学級経営の意義と学級づくり	(濱比嘉)	事前：授業内容に関する予習(2H) 事後：配布資料の読み返しと復習(2H))					
	9回	「先輩教員に学ぶ」(※ゲストスピーカー)	(濱比嘉、上原)	事前：先輩教師への質問等の準備(2H) 事後：授業の振り返り(2H)					
	10回	読書の意義、平和教育・情報社会への対応	(上原)	事前：授業内容に関する予習(2H) 事後：配布資料の読み返しと復習(2H)					
	11回	本県教育の課題(1)(いじめ、不登校、生活習慣)	(濱比嘉)	事前：授業内容に関する予習(2H) 事後：配布資料の読み返しと復習(2H)					
	12回	本県教育の課題(2)(学力向上、健康・体力)	(上原)	事前：授業内容に関する予習(2H) 事後：配布資料の読み返しと復習(2H)					
	13回	ワークショップ(1)志望達成に向けての「PDCA」	(上原)	事前：ワークショップの準備(2H) 事後：ワークショップの振り返り(2H)					
	14回	本県教育の課題(3)(地域における教育の力)	(濱比嘉、上原)	事前：授業内容に関する予習(2H) 事後：復習と学習成果の発表の準備(2H)					
	15回	学習の振り返り、学習成果の発表	(上原)	事前：授業内容に関する予習(2H) 事後：発表の振り返りと試験に向けての準備(2H)					
	16回	試験	(上原)	なし					
テキスト	特になし。適時資料を配布する。								
参考資料等	【購入を必須としないもの】小学校学習指導要領解説 総則編(文部科学省) 「学校教育における指導の努力点」、「学力向上推進プロジェクト」(沖縄県教育員会)								
授業の評価方法・基準	定期試験 60%、課題レポート(発表、まとめ) 40%								
履修条件	学習指導要領、国・県教育委員会の施策の理解に努めること、教員採用に向けての自主的な学びを計画的に行うこと。								
関連科目・次のステージ	教師論、教育課程総論及び各科目の授業と関連があるので、日々の授業を大切にすること。また、インターンシップや教育実習に生かすこと。								
オフィスアワー	金曜日の14:00～17:00、水曜日15:00～17:00 その他必要に応じて設定する。事前にアポイントをとること。								
受講生へのメッセージ	教員採用に向け、計画的に学習しよう。また、教育実践研究支援センターの講座等を積極的に受講しよう。								

科目区分		科目名	教養演習	担当者	稲福純夫	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等							
卒業要件との 関連性									
授業の到達 目標	短期大学で学ぶ上で基礎となる読み書き話すなどを中心とした演習で社会人基礎力をつけ、レポート作成や プレゼン等の学習に必要な基礎・基本を身につけ自己教育力を高めて学習に活かすことができる。								
授業概要	大学で学ぶ上で基礎的な知識及び文章力をつけるとともに記録・保存利活用の方法について学び、身近な話 題から論説文まで活用できる方法を概説する。								
授業計画及 び時間外学 習	1回	社会と大学 大学における学び 授業のキーワード				事前学習第3回までに思い出の絵本			
	2回	図書館の利用 レポート課題について 書き方				図書館で思い出の絵本を借りまとめる			
	3回	読む力 教科書を読む・図書館のリファレンス利用				図書館のリファレンス活用			
	4回	話す力 まとめる力をつける				演習プリント作成終えて提出			
	5回	ノートテイク・資料のまとめ方				ノート・資料の保存・活用			
	6回	保育の論文に親しみ参考資料を検索する				課題図書を借り演習プリントにまとめる			
	7回	課題演習1 課題図書(思い出の絵本)読む力				・図書館のリファレンス利用			
	8回	課題演習2 思い出の絵本グループ討論 聞く力				レポート課題 テーマ設定・動機を書く			
	9回	課題演習3 思い出の絵本書く力・まとめる力				レポート作成の動機をプリントに記入			
	10回	レポートの書き方・文章力をつける 起承転結				漢字熟語700題200題までチャレンジ			
	11回	レポート作成 構成8序論本論結論)・概要・動機				漢字熟語700題 プリント提出			
	12回	漢字熟語700題チャレンジによる文章力養成				グループごとに発表に向けてまとめ			
	13回	グループ発表前半発表時間3分質疑2分				演習プリント提出 レポート作成			
	14回	グループ発表後半発表時間3分質疑2分				レポート提出に向けてまとめておく			
	15回	レポートチェック・個別書き方指導				レポートの参考文献をチェックをする			
	16回	試験(レポート課題提出・演習課題提出)				レポート提出・			
テキスト	幼稚園教育要領 保育所保育指針								
参考資料等	倉橋惣三作品 児童憲章								
授業の評価 方法・基準	演習プリント40% 発表30% 演習レポート30% 保育の論文読解・漢字熟語700の演習で文章力をつける。								
履修条件	予習で次の回の演習プリントを書く・復習の時間								
関連科目・次 のステージ	保育の論文に触れ課題を各自設定する・。保育5領域学習の基礎となる社会人基礎力をつけ、レポート作成、 実習に向けて課題設定等や課題の調べ方・参考文献の引用等及び論文の書き方を身につける。								
オフィスアワ	授業時の前後2時間								
メッセージ	配布プリントはファイルしててください。								

科目区分	一般教養	科目名	社会と情報	担当者	平田 論作	授業形態	講義	単位	2
卒業要件	選択	免許・資格要件		保育士選必					
卒業要件との関連性	社会に溢れる情報の特性や問題について理解し、新聞や報道などの実例を交え検証することにより、これまでの社会と情報に対する向き合い方をグローバル的に考え、異なる文化や社会の状況を考察し、異文化コミュニケーションも含め学習する。また、必要なパソコンの操作法を覚え、自分で描いた図、取り込んだ写真、表やグラフなどを含む文章を異文化を持つ者にも理解できるよう作成してみる。								
授業概要	社会を取り巻く情報は、情報通信機器の進歩によりグローバル的に多種多様となり、生活も仕事も便利になった反面、多くの問題を抱えるようになってきた。本講義では、その問題をいくつか取り上げながら社会のメカニズムと情報が及ぼす影響を学習していく。特に、情報化社会が人間形成にどのように影響し、将来の保育及び教育に携わる者がいかに「社会と情報」を理解し、溢れる情報にどう向き合えば良いのか学ぶ。「社会と情報」では、異文化を含むコミュニケーションの重要性も大きな役割を担っており、人と人との関わり合い方の大切さも検証したい。また、急増するインバウンドによる異文化コミュニケーション力の必要性が求められる現状社会を紹介し、現在進行中の与那原町にある中城湾港マリントウン地区に計画されている沖縄県のMICE計画についても紹介する。演習では、パソコンを使った文章作成や図表の作成方法を習得しながら異文化コミュニケーションを学ぶ。								
授業計画及び時間外学習（時間）	1回	オリエンテーション、情報について、社会について、コミュニケーションについて				事後：配布質問等への回答0.5H			
	2回	情報とコミュニケーション。				事前：前講義の回答について0.5H 事後：コミュニケーションメモ0.5H			
	3回	コミュニケーション及びプレゼンテーション。				事前：前講義のメモについて0.5H 事後：プレゼンメモ0.5H			
	4回	キーボードの打ち方				事前：プレゼンメモについて0.5H 事後：指位置確認0.5H			
	5回	ワードの使い方				事前：指位置確認とタイピング0.5H 事後：ワードの機能0.5H			
	6回	ワードを使って文章作成				事前：ワード機能のおさらい0.5H 事後：作成文書提出0.4H			
	7回	エクセルの使い方				事前：エクセル基本機能0.5H 事後：エクセル計算機能0.5H			
	8回	表とグラフ				事前：表やグラフの種類紹介0.5H 事後：パワーポイント機能0.5H			
	9回	パワーポイントの使い方				事前：スライドショー種類0.5H 事後：アニメーション種類0.5H			
	10回	プレゼンテーション用の資料を作成				事前：図形挿入0.5H 事後：プレゼンテーション仕上0.5H			
	11回	情報概念の水準をエネルギー、データ、コミュニケーションの対比から				事前：情報概念0.5H 事後：情報種類0.5H			
	12回	情報概念の水準、情報の分類				事前：情報の選別・選択0.5H 事後：情報分析0.5H			
	13回	情報化の価値、情報伝達の問題				事前：情報の価値とは0.5H 事後：情報伝達と方法0.5H			
	14回	情報化政策の段階、情報政策関連の問題点				事前：社会における情報0.5H 事後：現代社会と情報戦略0.5H			
	15回	テスト							
	16回	テスト解説・総括				事前：総括 事後：今後の展望0.5H			
テキスト	適宜資料配布する。								
参考資料等	森川信男 『森川ワールド（全6巻）』 学文社 2005年～2011年								
授業の評価方法・基準	受講態度 20%、各演習での提出物 40%、テスト 40% により評価する。								
履修条件	特になし								
関連科目・次のステージ	人前でのプレゼンテーションや研究レポートを作成する機会が増えるため、更に深く情報の収集、比較及び選択、そして、最終判断または結論付けができるよう心掛けてもらいたい。								
オフィスワーク	講義終了後								
受講生へのメッセージ	専用のノートを準備し、講義を丁寧にノートしてください。								

科目区分	共通	科目名	経済と生活	担当者	野原 寿加子	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士選必						
卒業要件との関連性	お金に関する基本的な知識を身につけ、社会人基礎力を備える。								
授業の到達目標	お金の使い方や管理の仕方を身につける。								
授業概要	社会人になって自分でお金を稼ぐようになると、限られた収入の中で支出をコントロールし、収入の範囲で生活しなくてはならなくなる。この授業では家計管理、貯蓄、仕事とお金、結婚、住まい、保険、老後資金、投資など、お金に関して社会人が知っておきたい基本的な知識を幅広く学んでいく。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション				事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	2回	お金とは				事前：教科書第一章 予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	3回	貯蓄				事前：教科書第二章 予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	4回	仕事とお金				事前：教科書第三章 予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	5回	結婚とお金				事前：教科書第四章 予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	6回	家や車を購入する				事前：教科書第五章 予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	7回	保険				事前：教科書第六章 予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	8回	老後資金について				事前：教科書第七章 予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	9回	投資について考える				事前：教科書第八章 予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	10回	ディスカッション				事前：配布資料 予習 (1H)			
	11回	ニュースの中のお金①				事後：配布資料 予習 (1H)			
	12回	ニュースの中のお金②				事後：配布資料 予習 (1H)			
	13回	ニュースの中のお金③				事後：配布資料 予習 (1H)			
	14回	ディスカッション				事前：配布資料 予習 (1H)			
	15回	まとめ				事後：まとめ (0.5H)			
	16回	試験							
テキスト	「お金の基本」丸田 潔 新星出版社 ¥1,000+税								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 もしドラえものの「ひみつ道具」が実現したら								
授業の評価方法・基準	期末試験 70%、提出課題 20%、授業・ディスカッションへの参加度 10%								
履修条件									
関連科目・次のステージ									
オフィスアワー	授業の前後								
受講生へのメッセージ	毎日、ニュースと新聞に目を通すように意識することを心掛けてください								

科目区分	共通	科目名	沖縄と文化		担当者	仲原伸子		授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選必	免許・資格要件等		保育士選必							
卒業要件との関連性	郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身につける。										
授業の到達目標	沖縄の歴史・文化を理解するために必要な文献・資料を探し出し、活用することができる。 調査したことをレポートにまとめ、みんなの前で分かりやすく発表することができる。										
授業概要	沖縄の歴史・文化を学ぶことで郷土を愛する保育者、教育者としての心を育てる。 沖縄各地に伝わる昔話や歌謡などを取り上げ、その歴史・背景・意味などについて様々な文献・資料を活用して調べる。 みんなの前で発表し、質疑応答する。発表の成果をふまえ、完成レポートにして提出する。										
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	講義内容の説明				事後：配付資料の読み返し (0.5H)					
	2回	発表担当の割り振り				事後：発表内容の確認 (0.5H)					
	3回	参考文献・資料の紹介、利用方法について				事後：配付資料の読み返し (0.5H)					
	4回	講義 沖縄の文学について (文学概説)				事後：配付資料の読み返し (0.5H)					
	5回	講義 沖縄の歌謡について (歌謡概説)				事後：配付資料の読み返し (0.5H)					
	6回	講義 沖縄の説話について (説話概説)				事後：配付資料の読み返し (0.5H)					
	7回	課題発表				事前：課題の調査 (1H) 事後：課題の調査、およびレポートのまとめ (1H)					
	8回	課題発表				事前：課題の調査 (1H) 事後：課題の調査、およびレポートのまとめ (1H)					
	9回	課題発表				事前：課題の調査 (1H) 事後：課題の調査、およびレポートのまとめ (1H)					
	10回	課題発表				事前：課題の調査 (1H) 事後：課題の調査、およびレポートのまとめ (1H)					
	11回	課題発表				事前：課題の調査 (1H) 事後：課題の調査、およびレポートのまとめ (1H)					
	12回	課題発表				事前：課題の調査 (1H) 事後：課題の調査、およびレポートのまとめ (1H)					
	13回	課題発表				事前：課題の調査 (1H) 事後：課題の調査、およびレポートのまとめ (1H)					
	14回	課題発表				事前：課題の調査 (1H) 事後：課題の調査、およびレポートのまとめ (1H)					
	15回	課題発表				事前：課題の調査 (1H) 事後：課題の調査、およびレポートのまとめ (1H)					
	16回	レポート提出				事前：課題の調査 (1H) 事後：課題の調査、およびレポートのまとめ (1H)					
テキスト	なし										
参考資料等	【購入を必須としないもの】 授業で適宜提示する。										
授業の評価方法・基準	授業への参加姿勢 10%、発表 40%、レポート 50%。										
履修条件	日常的に沖縄の歴史・文化に関心をもつこと。										
関連科目・次のステージ											
オフィスアワー	授業終了後										
受講生へのメッセージ	発表者は発表期日を守ること。										

科目区分	共通	科目名	数と統計	担当者	稲福純夫	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	資格との関連:保育士選必								
卒業要件との関連性									
授業の到達目標	身近な生活の中の数理事項について理解し活用できる。 人間の数の概念獲得について学んだことを保育現場や学校で活用できる。								
授業概要	日常生活の中の単位や度量衡と幼児期の数の理解や数量の理解について概説する。								
授業計画及び時間外学習	1 回	人間の数の歴史 文字から数字・コンピュータ				身近な数について調べておく。			
	2 回	10 進数の世界から 2 進数の世界への旅				2 進数の世界 予習復習 90 分			
	3 回	度量衡と日常生活の長さや重さ容積の概念				度量衡について調べておく。			
	4 回	単位系の意義 S I 単位系 誘導単位系ナノの世界				マイクロなナノの世界について調べる			
	5 回	象を 100 分の一にしたら、蟻を 100 倍したら 比較				身近の犬や蝶で予想してください。			
	6 回	放射線 シーベルト 日常生活の放射線量				年間の被ばく線量について調べる。			
	7 回	スポーツや日常生活での使用メートルヤード、ポンド kg				単位について調べ学習			
	8 回	2 進数の加減法 ビット反転 1 の補数 4 進数 8 進数				演習プリントによる数の仕組み演習			
	9 回	歴史の中での数の使用と少数、分数の考え方				数がなかったらどのような世界になる			
	10 回	折り紙遊びで学ぶ形の理解				折紙でいろいろな形を作ってみる。			
	11 回	大きな濃度と少量を表す濃度単位				身近なものの濃度を調べてみる。			
	12 回	背比べと幼稚園の身体測定 直接比較と間接比較				幼稚園の身体測定の日を考える			
	13 回	関数の利用 ハンバーガーをたくさん買ったら安くなる？				商品の値段について調べ学習			
	14 回	1 対1対応 幼稚園児が入場者の整理券を集める				幼稚園児ができることを考えてみよう			
	15 回	よく耳にするマグニチュード 震度 デシベル pH				防災のために何ができるか調べる			
	16 回	試験							
テキスト	幼稚園教育要領								
参考資料等	小学校算数教科書 理科の自然・いきもの図鑑								
授業の評価方法・基準	定期試験 50% レポート30% 演習課題20%								
履修条件	日常生活野中の数の仕組みに興味画あるひ人 主体的に課題を持って取り組む人								
関連科目・次のステージ	小学校の算数や理科の数や単位の学習、幼稚園教育要領「環境」の数図形、記号の理解に結びつく数概念や日常生活のしくみと関係します。								
オフィスアワー	授業の日の前後 2 時間								
メッセージ	授業時に課題の提出方法やレポート提出について伝えます。配布プリントはファイルしてください。								

科目区分	専門	科目名	生活と芸術	担当者	玉城哲人	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等							
卒業要件との関連性	保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身に付ける。								
授業の到達目標	様々な経験や体験を通して自己の“感性”を磨き豊かにしていくことは、人生を歩む上で大切にしていきたいことである。この授業では、デッサンや色彩の実技演習と基礎的なデザインの知識や技能を学ぶことで、主体的に学び続ける力を身につける。								
授業概要	② 参考資料等を基に視ることの意味やデザインを理解する。 ②デッサンや色彩構成等の制作を行い、造形表現の技能を身につける。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	リエンション： 授業の進め方 ・「手のデッサン」				事後：課題制作 (1H)			
	2回	視覚の原理				事前：配布資料の予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	3回	「立体図形を描く」① 立方体・円柱				事後：課題制作 (1H)			
	4回	「立体図形を描く」② 円錐・球体				事後：課題制作 (1H)			
	5回	「写真の人物を描く」				事後：課題制作 (1H)			
	6回	デザインとは・視覚デザインの歴史				事前：配布資料の予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	7回	「〇〇をデザインして描く」				事後：課題制作 (1H)			
	8回	「心のかたち」①				事後：課題制作 (1H)			
	9回	「心のかたち」②				事後：課題制作 (1H)			
	10回	「綺麗な色水コップをならべよう」				事後：			
	11回	色についての知識				事前：配布資料の予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	12回	「色えんぴつで描いてみよう」				事後：課題制作 (1H)			
	13回	「混色と顔」				事後：課題制作 (1H)			
	14回	「花のデッサンと色塗り」①				事後：課題制作 (1H)			
	15回	「花のデッサンと色塗り」②				事後：課題制作 (1H)			
	16回	実技テスト まとめ							
テキスト	特になし 授業の中で適宜配布する								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 視覚デザイン (ワークスコーポレーション)								
授業の評価方法・基準	提出物 (制作作品 70 点)、実技テスト 20 点、授業態度 10 点								
履修条件	特になし								
関連科目・次のステージ	特になし								
オフィスアワー	月曜日 3校時、金曜日 5校時、プレイルーム、又は、玉城研究室								
受講生へのメッセージ	近年の保育現場では、子ども達の「感性」を豊かに育てることを大事にしています。子どもの感性に寄り添うには保育者自身の感性も大事です。授業の中では、描いたり、作ったり、することでみなさんの「感性」を磨いてください。進度によっては、内容を変更することもあります。								

科目区分	共通	科目名	女性と法律	担当者	福里 芝人	授業形態	講義	単位数	2 単位
卒業要件	選択	免許・資格要件等							
卒業要件との関連性	常に問題意識を持ち、課題発見力や解決方法を探し、自分の考えを順序立てて説明できる能力を習得する。								
授業の到達目標	女性が生活していく上で関わるであろう、様々な法律についてわかりやすく学ぶ。そのことによって、知性と強い心を兼ね備えた、ひとりの自立した人として生きていくことのできる力を身につける。								
授業概要	女性が生活していく上で、様々な法律に関わります。たとえば、就職、結婚、妊娠、出産、あるいはDV など。そこで、そのような様々な法律について学ぶことによって、自分で考えて行動できる知性と強い心を習得する。また、女性に関わる法律であっても、その多くは男女に共通する法律なので、男女で学ぶことによって、男女共同参画社会の形成を深める。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1 回	オリエンテーション。授業の概要など。				後：女性と法律について (2H)			
	2 回	赤ちゃんができた(胎児と母親の権利)。生殖補助医療とは？				前：権利能力その他 (2H)、後：生殖補助医療について (2H)			
	3 回	赤ちゃんが生まれた(実子と養子)。				前：親子について (2H)、後：特別養子縁組について (2H)			
	4 回	未成年者の犯罪と契約。				前：未成年者について (2H)、後：成年年齢引き下げ (2H)			
	5 回	保育園・幼稚園でケガをした。				前：不法行為・債務不履行 (2H)、後：事故の防止 (2H)			
	6 回	彼ができた。でも、彼以外の男性と話すと、彼がキレる！				前：デートDVの態様 (4H)			
	7 回	彼がキレるのは、私のことをそれだけ愛している証拠？				後：デートDVの救済 (4H)			
	8 回	就職が決まった(雇用と法律、セクシャルハラスメント)。				前：雇用契約 (2H)、後：セクハラ (2H)			
	9 回	初めての一人暮らし。敷金・礼金ってなに？				前：賃貸借契約 (2H)、後：アパートを借りる (2H)			
	10 回	アパートを訪ねてきた男性に無理やり浄水器を買わされた。				前：悪質商法事例 (2H)、後：消費者契約法 (2H)			
	11 回	付き合っていた彼から、「結婚しよう」ってプロポーズされた。				前：婚約の意義 (2H)、後：婚姻の効果など (2H)			
	12 回	幸せな結婚生活だったのに旦那が浮気。訴えてやる。				前：離婚とは (2H)、後：離婚の訴え (2H)			
	13 回	絶対に迷惑かけないようお願いされ、友達の前金の保証人に。				前：保証人とは (2H)、後：保証契約の怖さ (2H)			
	14 回	亡くなった父親の財産をめぐって、兄弟姉妹間でケンカ。				前：相続とは (2H)、後：相続の具体的割合 (2H)			
	15 回	遺言を発見。でも、どうすればいいの？				前：遺言とは (2H)、後：遺言の種類 (2H)			
	16 回	試験				前：試験対策 (2H)			
テキスト									
参考資料等	【購入を必須としないもの】 毎回、授業のプリントを配ります。								
授業の評価方法・基準	レポート 30%、平常点(受講態度、授業への参加意欲) 20%、試験 50%。 試験の解説を行う。								
履修条件	特になし。								
関連科目・次のステージ	民法Ⅰ・Ⅱ、日本国憲法、消費者心理と悪質商法などについて学びを深めるとよい。								
オフィスアワー	金 3 限目								
受講生へのメッセージ	様々な法律について学ぶので、しっかりと予習・復習をして授業に臨んで欲しい。								

科目区分	共通	科目名	健康と運動の科学	担当者	石垣愛一郎	授業形態	講義	単位数	1
卒業要件	選択必修	免許・資格要件等	小学校教諭二種免許状・幼稚園教諭二種免許状						
卒業要件との関連性	教育者をめざすにあたって自分自身を見つめ直し、内的向上を前提に自己成長につながる実践具方法論を習得する。								
授業の到達目標	スポーツ心理学を中心としたメンタル技法の応用を講義、実技を通して理解する。受講者の自己を見つめる機会を設け、内的向上につながる様々な方法の学び、実践を目的とする。								
授業概要	教室で行う講義および体育館等で行う実践を通して自分自身を知り、成長し続けるための様々なヒントを考える。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	授業内容説明 自己紹介				事後：人前に堂々と話すことができたかを振り返り、自分とクラスメイトを把握する。(1H)			
	2回	目標設定と「動機づけ」の関係について				事後：授業でゲームを通して学んだ自分自身の「やる気」について振り返り、考える。(1H)			
	3回	リラックスと奮起のバランスについて				事後：実践を通して学んだリラックス法を振り返る。(1H)			
	4回	セルフトークについて ～自分の声に耳を傾ける～				事後：自分の内なる声の存在を認識し、今後に活かすための振り返りを行う。(1H)			
	5回	集中力を考える ～「今、ここで」～				事後：配布資料及び映画のワンシーンを通じて学んだ内容を振り返り、自身の生活にへ活かすか考える。(1H)			
	6回	セルフイメージについて ～自分は自分をどうみているのか～				事後：授業で学んだテーマについて資料を振り返り、今後の自身の人生へどう当てはめていくかを考える。(1H)			
	7回	コミュニケーション 解決思考アプローチの実践				事後：授業で学んだコミュニケーションの取り方を振り返り、自身のコミュニケーションの活かし方を振り返る。(1H)			
	8回	情動・感情をコントロールする まとめ				事後：授業内容を自分に当てはめて振り返り、これまでの学びを総合的にまとめて、最終レポートのテーマ・内容を決定する。(1H)			
	9回								
	10回								
	11回								
	12回								
	13回								
	14回								
	15回								
	16回								
テキスト	なし								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 参考資料の配布								
授業の評価方法・基準	授業に対する積極的態度 40% 課題の提出：配布資料から出される課題の提出 40% リポート提出：授業を通して学んだこと及び実践した体験談をまとめる 20%								
履修条件	授業内で学んだことを実践することで自分自身の内的向上に前向きに取り組むことに興味をもつこと。								
関連科目・次のステージ	「こういう教師になりたい」というイメージを明確にしてそれに近づく努力をすることで2年間の全ての授業につながる。								
オフィスアワー	事前に打ち合わせをした上で、空いている時間すべてをオフィスアワーとする。 石垣研究室:5階 13番 研究室								
受講生へのメッセージ	自分自身の内側と楽しく向き合い、学びを深め、今後の学生生活に活かしましょう！								

科目区分	共 通	科目名	健康・運動実技	担当者	山入端 恵子	授業形態	実 技	単位数	1
卒業要件	選 必	免許・資格要件等	小学校二種必修・幼稚園二種必修・保育士必修						
卒業要件との関連性	保育活動に即応できる知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人格の形成を図る。								
授業の到達目標	仲間とともに、工夫した活動を主体的に行うことにより、保育所保育指針並びに幼稚園教育要領に掲げられた幼児の健康・安全や人間関係などの指導に携わる際の視点や基本的姿勢を身につける。また、保育士として、幼児が安心感をもって明るく伸び伸びと行動することの援助ができる体力を養う。								
授業概要	バドミントン・バレーボール・バスケットボールの技能や工夫した楽しみ方を学ぶ。また、グループワークを中心に活動することによって協調性を身につける。本授業において実践した「楽しい運動・工夫した活動・積極的な参加・仲間とともに力を合わせた活動が、自分の体を十分に動かし進んで運動のできる幼児を育てる力となるように体験を深める。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション				事後：授業の目標や流れを読み返し、今後の授業をイメージする			
	2回	バドミントン① グループ編成・簡易ゲーム(シングル)				事後：自分の弱点の克服に必要な練習方法を調べる			
	3回	バドミントン② 弱点の練習・簡易ゲーム(シングル)				事後：自分の弱点の克服に必要な練習方法を調べる			
	4回	バドミントン③ グループ再編成・ゲーム(ダブルス)				事後：ペアーとともに互いの効果的な動きを話し合う			
	5回	バドミントン④ 弱点の練習・グループ内リーグ戦(ダブルス)				事後：グループのメンバーでペアーを決める			
	6回	バドミントン⑤ 弱点の練習・グループ対抗リーグ戦(ダブルス)				事後：グループのメンバーで新たなペアーを決める			
	7回	バドミントン⑥ 弱点の練習・グループ対抗リーグ戦(ダブルス)				事後：次時のバレーボールの楽しみ方やメンバー編成について全員で話し合う			
	8回	バレーボール① グループ編成・ゲーム・グループ再編成				事後：グループの弱点の克服に必要な練習方法やポジションを考える			
	9回	バレーボール② 弱点の練習・グループ対抗リーグ戦				事後：グループの弱点の克服に必要な練習方法を考える			
	10回	バレーボール③ 弱点の練習・グループ対抗リーグ戦				事後：グループの弱点の克服に必要な練習方法を考える			
	11回	バレーボール④ 弱点の練習・グループ対抗トーナメント戦				事後：次時のバスケットボールの楽しみ方やメンバー編成について全員で話し合う			
	12回	バスケットボール① グループ編成・ゲーム・グループ再編成				事後：グループの弱点の克服に必要な練習方法やオフェンスを考える			
	13回	バスケットボール② 弱点の練習・グループ対抗リーグ戦				事後：グループの弱点の克服に必要な練習方法やディフェンスを考える			
	14回	バスケットボール③ 弱点の練習・グループ対抗リーグ戦				事後：グループの弱点の克服に必要な練習方法を考える			
	15回	バスケットボール④ 弱点の練習・グループ対抗トーナメント戦				事後：球技大会に必要な役員、審判、対戦方法などの計画をする			
	16回	テスト・授業のまとめ(球技大会)				事前：球技大会に必要な役員、審判、対戦方法などの計画をする			
テキスト	なし								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 適宜プリントを配布または提示する。								
授業の評価方法・基準	安全・衛生への配慮；15％ 授業への参加態度(授業環境への配慮・積極性)；15％ 個人カードの記入；20％ グループワークへの参加度；20％ 技能の向上度；30％								
履修条件	日常より運動に親しむこと。								
関連科目・次のステージ	日常的に幼児の活動に関心を持ち、あらゆる場で幼児の発達段階や身体活動を観察すること。また、運動習慣を身につけること。								
オフィスアワー	授業後の時間に体育館で応じます。事前に連絡があれば他の時間でも設定可能です。								
受講生へのメッセージ	幼児はめまぐるしく動き回ります。興味関心も旺盛で観察力にも優れたものがあります。幼児の活動をしっかりと援助できるような体力と配慮のある保育士をめざして、ともに楽しい授業をつくっていきましょう。								

科目区分	共通科目	科目名	健康と運動の実技	担当者	石垣愛一郎	授業形態	実技	単位数	1
卒業要件	必修	免許・資格要件等		保育士資格、幼稚園教諭二種免許状					
卒業要件との関連性	運動することを自ら楽しみ、他者と共に参加し、企画・運営するまでを経験することで保育活動、教育活動全般につながる活動を円滑なコミュニケーションを通して習得する。								
授業の到達目標	様々な競技種目を通して、身体運動に対する興味を促す事を目標とする。生涯を通じて参加する生涯スポーツの位置づけについて実践、指導する立場・役割までを考え、習得する。								
授業概要	スポーツが持つ特性を通して、身体を動かすことの「楽しさ」、「協力」、「自らに挑戦する」ことについて考え、実践する。また運動会を企画・運営することで、参加者としてだけでなく、運営する側の役割・立場・視点を体験し養う。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	バレーボール　オリエンテーション、ルール解説、基本練習			事後：オリエンテーション(シラバス)の確認　ルールの振り返り (0, 5H)				
	2回	バレーボール　チーム分け、練習試合			事前：ルールの振り返り、体育着の確認 (0, 5H) 事後：基本練習の振り返り (0, 5H)				
	3回	バレーボール　リーグ戦# 1			事前：チーム内役割(ポジション)確認 (0, 5H) 事後：チーム内向上を目指した振り返り (0, 5H)				
	4回	バレーボール　リーグ戦# 2			事前：チーム内役割(ポジション)確認 (0, 5H) 事後：チーム内向上を目指した振り返り (0, 5H)				
	5回	バレーボール　トーナメント試合# 1			事前：チーム内役割。戦術確認 (0, 5H) 事後：試合後ミーティングと振り返り (0, 5H)				
	6回	バドミントン・卓球　ルール解説、基本練習			事後：ルールの確認 (0, 5H)				
	7回	バドミントン・卓球　チーム分け、練習試合			事前：ルールの確認、役割分担(選手・審判) (0, 5H) 事後：基本練習の振り返り (0, 5H)				
	8回	バドミントン・卓球　リーグ戦# 1			事前：ペア内役割(ポジション)確認 (0, 5H) 事後：ペア内向上を目指した振り返り (0, 5H)				
	9回	バドミントン・卓球　リーグ戦# 2			事前：ペア内役割(ポジション)確認 (0, 5H) 事後：ペア内向上を目指した振り返り (0, 5H)				
	10回	バドミントン・卓球　トーナメント試合# 1			事前：ペア内役割。戦術確認 (0, 5H) 事後：試合後ミーティングと振り返り (0, 5H)				
	11回	バスケットボール　ルール解説、基本練習			事後：ルールの確認 (0, 5H)				
	12回	バスケットボール　チーム分け、練習試合			事前：ルールの確認、役割分担(選手・審判) (0, 5H) 事後：基本練習の振り返り (0, 5H)				
	13回	バスケットボール　リーグ戦# 1			事前：チーム内役割(ポジション)確認 (0, 5H) 事後：チーム内向上を目指した振り返り (0, 5H)				
	14回	バスケットボール　リーグ戦# 2			事前：チーム内役割(ポジション)確認 (0, 5H) 事後：チーム内向上を目指した振り返り (0, 5H)				
	15回	バスケットボール　トーナメント# 1			事前：チーム内役割。戦術確認 (0, 5H) 事後：試合後ミーティングと振り返り (0, 5H)				
	16回	運動会(企画・運営・実行)を役割分担して実行する。			事前：運動会メニューの決定・準備 (1H) 事後：運営の振り返り (0, 5H)				
テキスト	なし								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 適宜参考資料を配布								
授業の評価方法・基準	参加者として、また運営者として最後の運動会運営・企画・実行までを含め、積極的かつ創意工夫の態度・協力体制を総合的に評価する。								
履修条件	確実に出席した上で、個々の身体能力に関わらず、「少し頑張れば出来ること」にこだわり、さらに「もっと楽しく上手く」を日々目標に実行・実践する。								
関連科目・次のステージ	各実習関連授業また実習へ向けての体力・知力を養成する。								
オフィスアワー	事前に打ち合わせをした上で、空いている時間をオフィスアワーとする。石垣研究室:5階　13番　研究室								
受講生へのメッセージ	積極的に授業参加し、コミュニケーションをとりつつ、楽しく運動しよう！								

科目区分	共	科目名	健康・運動実技	担当者	喜屋武 享	授業形態	講義・演習	単位数	1
卒業要件	必	免許・資格要件等		保育士、幼児必修					
卒業要件との関連性	① 日本発祥のスポーツなどにふれることで、郷土への理解と、心豊かな感性を身につける。 ② スポーツ大会の企画運営を通して、保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ③ 取り扱うスポーツの技能獲得に向けた練習を通して、主体的に学び続ける力を身につける。 ④ チームプレーを通して、社会人としてのコミュニケーション能力や協働できる力を身につける ※各番号は、ディプロマ・ポリシーと対応								
授業の到達目標	1. 各種競技のルールや特性を理解し、自らの技能レベルに合った実技能力を習得できる。 2. 多様なスポーツへの関わり方ができる。 3. チームメイト同士の協力や、マナーを身につけ、健全な人間関係を築くことができる。								
授業概要	生涯を通じてスポーツに親しむ資質と能力を育むために、種々のスポーツ体験を通して各種競技の運動技能を身につけ、主体的にスポーツに参画する態度を養うとともに、スポーツの楽しさや社会的意義を理解する。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1 回	オリエンテーション、アイスブレイキング			特になし				
	2 回	【体づくり運動】 体ほぐし運動・体力を高める運動			事前・事後：動作法を授業外で実践する。(1 時間)				
	3 回	【体づくり運動】 体ほぐし運動・体力を高める運動			事前・事後：動作法を授業外で実践する。(1 時間)				
	4 回	【体づくり運動】 体ほぐし運動・体力を高める運動			事前・事後：動作法を授業外で実践する。(1 時間)				
	5 回	【様々なドッチボール】 基本練習、試しのゲーム			事前：学習している競技について調べる。(0.5 時間) 事後：学習している競技を、自らの課題に合わせ授業外で練習する(0.5 時間)				
	6 回	【ドッジビー】 基本練習、ゲームの運営・実施			事前：学習している競技について調べる。(0.5 時間) 事後：学習している競技を、自らの課題に合わせ授業外で練習する(0.5 時間)				
	7 回	【ドッジビー】 基本練習、ゲームの運営・実施			事前：学習している競技について調べる。(0.5 時間) 事後：学習している競技を、自らの課題に合わせ授業外で練習する(0.5 時間)				
	8 回	【アルティメット】 基本練習、ゲームの運営・実施			事前：学習している競技について調べる。(0.5 時間) 事後：学習している競技を、自らの課題に合わせ授業外で練習する(0.5 時間)				
	9 回	【アルティメット】 基本練習、ゲームの運営・実施			事前：学習している競技について調べる。(0.5 時間) 事後：学習している競技を、自らの課題に合わせ授業外で練習する(0.5 時間)				
	10 回	【インディアカの紹介】 基本練習、試しのゲーム			事前：学習している競技について調べる。(0.5 時間) 事後：学習している競技を、自らの課題に合わせ授業外で練習する(0.5 時間)				
	11 回	【インディアカ】 基本練習、ゲームの運営・実施			事前：学習している競技について調べる。(0.5 時間) 事後：学習している競技を、自らの課題に合わせ授業				

			外で練習する(0.5時間)
	12回	【ソフトバレーボール】 基本練習、試しのゲーム	事前：学習している競技について調べる。(0.5時間) 事後：学習している競技を、自らの課題に合わせ授業外で練習する(0.5時間)
	13回	【バドミントン・卓球】 基本練習、試しのゲーム	事前：学習している競技について調べる。(0.5時間) 事後：学習している競技を、自らの課題に合わせ授業外で練習する(0.5時間)
	14回	【バドミントン・卓球】 基本練習、ゲームの運営・実施	事前・事後：学習している競技について調べる。(1時間)
	15回	【バドミントン・卓球】 基本練習、ゲームの運営・実施	事前・事後：学習している競技について調べる。(0.5時間) 事後：スポーツ大会の準備(1時間)
	16回	【スポーツ大会の運営・実施】	事後：スポーツ大会の準備(1時間)
テキスト	特に指定しない		
参考資料等	特に指定しない		
授業の評価方法・基準	授業態度 60% 毎時間の授業評価レポート 40%		
履修条件	運動着を着用し、体育館シューズを履くこと。 大学が実施する「定期健康診断」を受診していること。 学生教育研究災害障害保険等に参加していることが望ましい。		
関連科目・次ステージ	「健康と運動の科学」 生涯に渡って運動やスポーツに親しみを持ち、日常生活の中に運動を取り入れてほしい。		
オフィスアワー	授業終了後		
連絡・メッセージ	医師より運動制限をされている学生は事前に申し出てください。		

科目区分	共通	科目名	日本国憲法	担当者	山内彰	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択必修	免許・資格要件等	小学校教諭免許二種、幼稚園二種、保育士選択必修						
卒業要件との関連性	教諭および保育士として国の最高法規（憲法）を理解し自らが民主的社会人として自立できる力と実践的指導力を習得する。								
授業の到達目標	・日本国憲法を具体的事例で学び、その精神・意義を子ども目線に立って指導できるようになる。 ・実際例を基にして個人やグループで調べ、意味理解や問題解決ができるようになる。 ・学んだことが社会において実質的資質になり、民主的社会人として自立できる力と指導力をつける。								
授業概要	・日本国憲法の原則・意義、実際に学び、憲法を尊重しその精神を生かせるような授業形態を図る。 ・人権の条文を実例でワークして実際の意味を理解し、自らの問題、知性として習得する方法を図る。 ・本学の建学精神をふまえて、より豊かな感性、人間性、人間愛を培う授業の工夫を図る。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	「憲法ってなんだろう」―法を学ぶ意義を実例から習得する				事後：法の意義と授業の成果をまとめる（1ph）			
	2回	「日本国憲法の誕生」―憲法誕生と原則を講話と調べ学習で習得				事前：教科書序論の読解（1ph） 事後：本日のワーク（レポート）の整理（1ph）			
	3回	「憲法の基本原理」―三大原則の意義を調べ学習で習得する				事前：憲法の構成と三大原則の調べ（1ph） 事後：象徴天皇制と王位継承のまとめ（1ph）			
	4回	「9条と平和主義」―9条全文を読み解き、現在の動きを追及する 9条を暗唱朗読し意味内容を体得する				事前：第9条の読み取り・暗唱(1ph) 事後：憲法改正の動きの整理（1ph）			
	5回	「基本的人権の意義」―11条を中心にワークで理解し自分事にする				事前：教科書 p48～p55 を基に人権の予備知識(1ph) 事後：三大原則と 13 条の関連のまとめ(1ph)			
	6回	「幸福請求権」と「法の下での平等」―13条と 14 条を理解する				事前：教科書 p66～71 を基に 13 条と 14 条の予習問題(1ph) 事後：プライバシー権についてのレポート作成（1ph）			
	7回	「自由権とは何か」―自由権の実際を体得し実生活に生かす				事前：憲法 19 条～40 条の読み取りと整理(1ph) 事後：「自由を守る樹」の整理（1ph）			
	8回	「新聞から憲法を学ぶ」―新聞記者とのコラボで記事の見出しづけ				事前：新聞の閲読と記事内容のスクラップとコメント作成（1ph） 事後：ワーク問題の整理と提出(1ph)			
	9回	「社会権とは」―DVD「マカティ」から社会権と自己理解を図る				事前：教科書から 25 条とその具体的な権利を読み取り（1ph） 事後：DVD を視聴してのまとめ・提出（1ph）			
	10回	「国会のしくみと機能」―国会議員を基本に学び主権者意識を育む				事前：国会のしくみと国会議員について事前ワーク(1ph) 事後：国の政治のしくみについてワーク問題の演習(1ph)			
	11回	「行政権の意味と機能」―大臣の仕事を中心に行政機能を考える				事前：現内閣について調べて整理（1ph） 事後：69 条の内閣と国会の関係性についてのまとめ（1ph）			
	12回	「新聞から憲法を学ぶⅡ」―記事と憲法との関連性を考え討議する				事前：前回の授業をふまえて新聞の読み取りとスクラップ(1ph) 事後：ワークのまとめ・提出（1ph）			
	13回	「司法権の意味と実際」―実際の判例を基に判決を考え下す				事前：憲法 76 条～82 条の読み取り（1ph） 事後：実際の判例をグループで検討・判決準備（1ph）			
	14回	各グループで判例を考え発表して考察する				事前：実際の判決をグループでワーク（1ph） 事後：模擬裁判官としての省察・まとめ（1ph）			
	15回	「地方自治の意義」「憲法の心を幼児にも」―学んだことのまとめ				事前：自治の意義と実際についての調べ学習（1ph） 事後：「幼児にも憲法の精神を」のレポート作成(1.5ph)			
	16回	講義全体のまとめと考察と評価テスト				評価テスト			
テキスト	「はじめての憲法総論・人権」（尾崎哲夫著 自由国民社）（本体 1200 円＋税）								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 「はじめての憲法統治」（尾崎哲夫著 自由国民社）「日本国憲法を生んだ密室の九日間」（鈴木昭典 角川ワイド文庫）								
授業の評価方法・基準	個人やグループでのワーク・発表 30％ 課題の提出 20％ 評価テスト 50％								
履修条件	各授業の内容をまとめ、前向きに発表し、憲法を自身のこととして考え主権者意識をもって学びを高めるかと								
関連科目・次のステージ	憲法は「教育法規」やその他の教科との関連性が深いということを踏まえて発展的に学ぶようにする								

オフィスワーカー	金曜日の午後に必要に応じて対応する
受講生への メッセージ	日本国憲法は決して難しい内容ではないので、実践例を基に気軽な気持ちで学び、日常生活や仕事で生かせるように努めてほしい

科目区分	専門	科目名	保育表現技術 音楽Ⅱ	担当者	大宜味 阿波連 宮里	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	免許・資格要件等		保育士必修					
卒業要件との関連性	保育・教育活動の実際に即応する基礎知識と技能を習得する。								
授業の到達目標	「保育表現技術 音楽Ⅰ」で音楽の表現技術と保育表現の結びつきを修得し、ここでは保育の内容をさらに理解しながら、保育表現技術のさらなる向上を目指し、即戦力を身に付けることが出来るように子どもの発達と保育での音楽表現を学び、音楽の幅を広げ様々な表現活動とさらに結び付け理解する。								
授業概要	保育士に必要な音楽の知識と教養を深め、音楽的感受性と的確な保育技能を修得する為に、保育実習前に現場実践の力を付けるべく、ピアノ弾き歌いやうたあそび・リズム遊びを通して、実践実習を学習し保育表現技術をさらに深く学んで行く。								
授業計画	1回	講義計画の提示、初期訓練法の確認、今までの実習報告例(音楽)			事後：講義計画の内容復習と理解。 日々の初期訓練確認と練習。(0.5H)				
	2回	コード学習の再確認 (C. F. G.)			事前：コードの確認(0.5H) 事後：授業の振り返りとコードの理解(0.5H)				
	3回	生活のうた (あなたのおなまえは・おべんとう)			事前：基礎基本練習と生活の歌の予習(0.5H) 事後：授業の振り返りと子ども理解(0.5H)				
	4回	行事のうた (誕生日・七夕さま)			事前：基礎基本練習と行事の歌の予習(0.5H) 事後：授業の振り返りと理解(0.5H)				
	5回	自然のうた (うみ・あめふりくまのこ)			事前：基礎基本練習と自然の歌の予習(0.5H) 事後：授業の振り返りと理解(0.5H)				
	6回	季節のうた (どんぐりころころ・とんぼのめがね)			事前：基礎基本練習と季節の歌の予習(0.5H) 事後：授業の振り返りと理解(0.5H)				
	7回	リズム遊び① (おててさん・まねっこ遊び！)			事前：基礎基本練習とリズム遊びの予習(0.5H) 事後：授業の振り返りの理解(0.5H)				
	8回	リズム遊び② (とっくに友達)			事前：基礎基本練習とリズム遊び予習(0.5H) 事後：授業の振り返りと理解(0.5H)				
	9回	行進曲① (小犬のマーチ・あんぱんマンのマーチ)			事前：基礎基本練習と行進曲①の予習(0.5H) 事後：授業の振り返りと理解(0.5H)				
	10回	行進曲② (線路は続くよどこまでも・ともだち賛歌)			事前：基礎基本練習と行進曲②の予習(0.5H) 事後：授業の振り返りと理解(0.5H)				
	11回	合奏の取り組み① (もりの合奏)			事前：基礎基本練習と合奏楽器の予習(0.5H) 事後：授業の振り返りと理解(0.5H)				
	12回	合奏の取り組み② (沖縄バージョン)			事前：基礎基本練習と沖縄楽器理解の予習(0.5H) 事後：授業の振り返りと理解(0.5H)				
	13回	リズム遊び③ (子ぐまのコロタン・虹のコンサート)			事前：基礎基本練習とリズム遊び③の予習(0.5H) 事後：授業の振り返りと理解(0.5H)				
	14回	テスト							
	15回	テストの振り返りと総括			事前：テストの振り返りと見出し(0.5H) 事後：授業の振り返りと理解(0.5H)				

-24-

	16 回	実習へ向けての準備	事前：実習箇所の理解と予備練習(0.5H) 事後：授業の振り返りと理解(0.5H)
テキスト	うたえる！ひける！ピアノ曲集１・２		
参考資料等	【購入を必須としないもの】 ＊最新 保育園・幼稚園の実習 完全マニュアル（楽譜） ＊ラポールが築ける５０のうたあそび		
授業の評価 方法・基準	基礎技術の習得は、個人差もあるが、日々繰り返し練習と積極性が結果へと導かれる。 ９曲で単位取得(可) 10曲以上15曲以内(良) 16曲～19曲(優) 20曲以上(秀)		
履修条件	保育士・幼稚園教諭資格取得に向け、音楽を基本とした表現技術の向上と、常に子ども理解の上に立ち表現技術取得に意欲満々で、向上心にあふれていること。		
関連科目・次の ステージ	「教科専門図工」「教科専門体育」等の音・図・体の表現系科目の関係性について復讐すること。また、授業で学んだこと内容を日常生活で可能な限り実践すること。		
オフィスアワー	授業終了時又は授業の前後		
受講生への メッセージ	自分自身の感性に目覚め、自然に敏感であれ！ボランティアに積極的に係わり、常にチャイルドウォッチングを通し、子どもにとっての表現を肌で感じ取るような姿勢であれ！		

科目区分	専門	科目名	保育の表現技術【体育】Ⅰ		担当者	前嵩西珠世 石垣愛一郎	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	免許・資格要件等		保育士資格必						
卒業要件との関連性	前期授業「子どもと体育表現Ⅰ」を経験して、資格取得に必要な最初の実習に向けて保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につけるために主体的に学ぶ。									
授業の到達目標	幼児期における基礎的な身体能力を伸ばすための運動あそびを知る。さらに運動あそびを深めるために子どもの立場で考え、同時に先生役としての提供の仕方、場作り、安全確認等に必要な指導方法や知識・技能を意欲的に学び、理解する。									
授業概要	前半または後半の8週間で幼児期の発達の特性に即した各種の運動あそびや身体表現を展開し、理論と実技を学習する。最後はグループごとの体育あそび発表会でこれまで学んできたことを総合的に表現する。									
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	ダンスの基本動作・リズム体操【実践1】(前嵩西)				事後：子供向けリズム運動に使われる動きの理解を深める				
	2回	4つの基本運動スキル 運動あそびのねらいについて(前嵩西)				事前：テキストp.32-40 読む 事後：ワークシート復習、体力機能に関する用語を言えるようにする				
	3回	身体表現あそび【実践1】指導上の留意点(前嵩西)				事前：指導者による子どもへの言葉かけが果たす役割について考える 事後：ワークシート復習				
	4回	あそびの指導計画書作成【グループワーク】(前嵩西)				事前：グループ指導するあそびの題材を考えてくる 事後：グループ指導の予行演習				
	5回	ダンスの基本動作・リズム体操【実践2】(前嵩西)				事前：ダンスの基本動作【実践1】復習 事後：子供向けリズム運動に使われる動きの理解を深める				
	6回	身体表現あそび【実践2】(前嵩西)				事前：運動あそびの中の「表現」あそびの役割について考える 事後：ワークシート復習				
	7回	実技試験準備 実技試験(前嵩西)				事前：グループ指導準備 事後：展開したグループ指導の良かった点・改善すべき点から、実習にどのように活かしていくか、考えをまとめる				
	8回	幼児教育現場における振り付けの実践・発表およびまとめ【グループワーク】(前嵩西)				事前：ダンスの基本動作【実践1】【実践2】にて学んだステップを復習 事後：ダンス振り付けを幼児教育現場にてどのように活かしていくのか、考えをまとめる				
	9回	大型道具のあそび【マットあそび】(石垣)				大型遊具を使ったあそびの際の子どもたちへの「声かけ」の仕方実践を学び、振り返る				
	10回	大型遊具のあそび【跳び箱】(石垣)								
	11回	大型遊具のあそび【平均台】(石垣)								
	12回	大型遊具総合あそび【サーキットあそび】(石垣)				大型遊具の使い方を復習、試行錯誤を重ねて共同作業としてサーキットを完成させるイメージと事前話し合いをもつ				
	13回	小型遊具【身近な廃材】のあそび【新聞紙を使ったあそび】(石垣)				事前：新聞紙を使ったあそびを検索しておく (0,5H) 事後：実践したあそびや一つのあそびから次への流れを振り返り、実習に備える (0,5H)				
	14回	遊び発表会に向けてのグループ決め、発表内容、順番決め(石垣)				事前：これまでのまとめとして発表、実践したいあそびをこれまでの資料をもとに振り返る (0,5H)				
	15回	遊び発表会#1(石垣)				他のグループから学び、グループ発表後の反省を行い、実践に備える (0,5H)				
	16回	遊び発表会#2(石垣)				他のグループから学び、グループ発表後の反省を行い、実践に備える (0,5H)				
テキスト	「幼児体育」理論と実践 日本幼児体育学会 編 第5版									
参考資料等	【購入を必須としないもの】 「幼児体育」応用編 山口智之著 タイケン出版 「幼児期のためのティーボール遊び」 前橋明著 大学教育出版 その他									

授業の評価 方法・基準	記録ノートの提出、積極的かつ創意工夫の態度、協力体制を総合的に評価する。
履修条件	確実に出席した上で、個々の身体能力に関わらず、楽しみながら「少し頑張れば出来ること」にこだわり、さらに「もっと楽しくするためには、」という姿勢・態度を創造、実行につなげる。
関連科目・次の ステージ	「保育実習指導Ⅰ」につながる。また保育内容「表現」と併せて人前に立つ実践につなげる。
オフィスアワー	事前に打ち合わせをした上で、空いている時間すべてをオフィスアワーとする。 石垣研究室:5階 13番 研究室
受講生への メッセージ	共に楽しく、深く考え、学びましょう！

科目区分	専門	科目名	保育内容研究Ⅰ	担当者	大田 利津子・平田 千悦子	授業形態	講義・演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士選必						
卒業要件との関連性	保育活動の実際に即応する技能を習得する。								
授業の到達目標	前学年で習得した、各種児童文化財の種類、実技を活かし、保育現場での実践技術力向上を目標とする。沖縄の民話の特質現状を学び、語りの実践を通して、物語を素語りする力を習得する。								
授業概要	絵本の読みあいを通して、相手を意識した、絵本の選書、読み聞かせ方法を学ぶ。民話絵本を通して、物語の発生、絵本の発生を学ぶ。沖縄の民話を学び、沖縄の口承伝承話の中から話を選定、自分で語るまでの工程を学び、語りを実践する。子どもの為の伝承遊びを学び実践する。お話の小道具作りと、その実践方法を学ぶ。以上すべては、子どもの成長、発達を意識した実技・実践を学ぶ。								
	1回	子どもと絵本Ⅰ	(絵本の読みあい・実践)	事後：読みあいからみてきたことを整理する (0.5H)	大田				
	2回	子どもと絵本Ⅱ	(物語の力について考える)	事前：自分のこれまでの読み聞かせ体験を記録 (1H) 事後：テキスト第8章熟読する (0.5H)	大田				
	3回	民話と絵本		事前：世界・日本・沖縄の民話絵本 10 冊レポート作成 (2H) 事後：絵本の歴史プリント熟読(0.5H)	大田				
	4回	沖縄の民話	(種類・特質・話者の語りを聞く)	事前：テキスト第9章再読する (0.5H) 事後：語りテキスト「沖縄の昔話山本川恒翁の語り」を読む	大田				
	5回	沖縄の民話を語るⅠ	(話を選ぶ・再話をする)	事前：語りテキスト「沖縄の昔話山本川恒翁の語り」を読む 事後：再話をすすめる	大田				
	6回	沖縄の民話を語るⅡ	(再話・覚え方・語り方)	事前：再話をすすめる 事後：再話した話を覚え、語りの練習をする	大田				
	7回	沖縄の民話を語るⅢ	(覚えて語る、実践1)	事前：再話した話を覚え、語りの練習をする 事後：再話した話を覚え、語りの練習をする	大田				
	8回	沖縄の民話を語るⅣ	(覚えて語る、実践2、レポート)	事前：再話した話を覚え、語りの練習をする 事後：語りの練習を続け、実習に備える	大田				
	9回	伝承文化 (わらべうた・お手玉・あやとり遊び)		事前：お手玉、あやとり紐の準備。遊び方の予習 事後：講義で演習したことを、しっかり覚えるよう努力する	平田				
	10回	子どもと絵本Ⅲ		事前：「ワークで学ぶ児童文化」第2章、3章の予習 (0.5H) 事後：テキストのブックガイドの本を読む (1H)	平田				
	11回	子どもと遊び		事前：「ワークで学ぶ児童文化」第7章の予習 (0.5H) 事後：テキストのブックガイドの本を読む (1H)	平田				
	12回	小道具を使ったお話		事前：制作作品の準備 事後：制作物を実践する為のシナリオ作成、練習 (0.5H)	平田				
	13回	児童文化財制作・実践□		事前：制作する児童文化財について予習 (0.5H) 事後：作品を仕上げ、演じ方練習をする (0.5H)	平田				
	14回	児童文化財制作・実践□		事前：制作する児童文化財について予習 (0.5H) 事後：作品を仕上げ、演じ方練習をする (0.5H)	平田				
	15回	実技発表会 プログラム作成		事前：発表で使用する児童文化財の準備 事後：発表に向けてグループで練習 (0.5H)	平田				
	16回	実技発表会・テスト		事前：グループでの発表内容確認、練習 (0.5H) 事後：発表会の反省、感想をレポート提出	平田				
テキスト	『沖縄の昔ばなし 山本川恒翁の語り』NPO法人沖縄伝承話資料センター発行 随時プリントを配ります								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 『感じあう伝えあう・ワークで学ぶ児童文化』 村中李衣 編著 金子書房発行 (前学年で購入済) 『おはなしおばさんの小道具』 藤田浩子 著 一声社発行								
授業の評価方法・基準	作品制作、実技 50% グループワークへの参加度20% テスト30%								
履修条件	日常的に、保育に関する情報に関心をもつこと。グループ制作・発表が多いので、授業時間、時間外とも、メンバーとの丁寧な連絡体制を作る事。								
関連科目・次のステージ	授業で学んだ内容、実技を可能な限り実践すること。								
オフィスワーカー	授業終了後、事前にアポイントをとること。								
受講生へのメッセージ	授業で学んだことが、各種の実習に役立つことを目指して授業をすすめます。作品は必ず仕上げ、積極的に実技・実践に臨んでください。								

科目区分	専門	科目名	保育・教育支援インターンシップⅠ		担当者	新垣さき・桃原亮昌 渡名喜舞衣子・柳生崇志	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	免許・資格要件等								
卒業要件との関連性	保育者・教育者としての専門知識・技術を見につける。									
授業の到達目標	教育現場を実際に訪問し、教育活動を観察、補助することを通して、教職に対する学習意欲の向上へと繋げ、教職に対する自覚を高める。									
授業概要	保育・教育支援インターンシップにおいて実際に 教育現場 を訪問することに先立ち、 事前学習 においては社会人としてのマナー（服装、言葉づかい、交通マナー等）を含め、児童に関する守秘義務の 厳守等 の 事前確認 を行う。 事前学習 後、各自 学校教育現場 を選択し、実際に 教育現場 を訪問しどのような 教育活動 が展開されているかを 観察 する。また、 教育活動 に支障がない範囲で教育活動に参加する。その後、事後の振り返りとしてグループワークや報告会等を通して 教職 に対する知識を深め、実践力高める。									
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	【事前学習】				事前学習：社会人としてのマナーについて考え、教育現場の訪問前に必ず、各専門科目との関連を考え目標を設定すること。 事後学習：訪問後は、観察記録を記入し、振り返りを行い新たな課題を設定すること。				
	2回	社会人としてのマナー（服装、言葉づかい、交通マナー等）の 確認 、児童に関する守秘義務の 厳守等 について考える。								
	3回									
	4回									
	5回	【教育現場訪問】								
	6回	週に1回程度、訪問、 観察 をする。 教育現場 への訪問は 原則 として、受け入れ先との調整によって確定するため、回数は 変動 する。訪問場所については、県内の 教育現場 から選択し、 教員側 で 確認 し決定とする。 教育現場 の訪問後は、 観察記録 を記入し、担当 教員 に提出する。								
	7回									
	8回									
	9回									
	10回									
	11回									
	12回	【事後学習】								
	13回	前期、後期の終了前に事後学習を設定する。 観察記録 をもとにグループワークし、 教職 に対する知識を深め実践力を高める。後期の事後学習の際には報告会を設定し、学びを深める。								
	14回									
	15回									
	16回									
テキスト	各講義で使用しているテキストとし、課題に合わせ活用する									
参考資料等	【購入を必須としないもの】 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領									
授業の評価方法・基準	訪問先への参加 意欲 ・態度、 観察記録等 の提出物から 総合的に評価 する。									
履修条件	社会人としてのマナーを守り、保育・教育者としての自覚を持ち学ぶことができる。									
関連科目・次のステージ	これまで受講してきた科目と関連させ、理論と実践を結びつけ学びを深めましょう。教育実習、卒業後の実践につながります。									
オフィスアワー	月曜日の3講目									
受講生へのメッセージ	社会人として、保育・教育者としての自覚をもち、大学講義での学びと実践を結びつけ深い学びになるよう目標を持って取り組みましょう。									

科目区分	専門	科目名	保育内容総論	担当者	平 田 美 紀	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	必修	免許・資格要件等	保育士資格・幼稚園教諭二種免許状						
卒業要件との関連性	保育・幼児教育における専門的知識・技能等を理解し、強い実践力に即応する基盤となる考え方を習得する。								
授業の到達目標	1. 家庭保育とは異なる集団保育施設における保育内容について理解し、説明することができる。 2. 集団の中の一人一人の子どもの育ちを保障するという視点から、保育の歴史、社会情勢等も視野に入れ、保育内容は保育者が「創造」するということを総合的に理解する。								
授業概要	「保育内容」とは、保育所や幼稚園等において保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味することを理解し、子どもの発達の側面から示されている5領域を総合的に関連付けることを習得する。保育とは愛情と知性を兼ね合わせた「養護と教育が一体となった」営みであり、力強く・忍耐強く子どもとかかわり導く専門的行為であることを、ビデオ教材やディスカッション等を通して具体的にイメージしながら学ぶ。								
授業計画	1回	オリエンテーション 授業概要説明 プロローグ～子どもと保育への誘い～				事後:保育系科目の仕組み、テキストの「はしがき」をしっかり読み返す(0, 5H)			
	2回	現代社会における保育の課題① 少子化時代の保育、子育て支援と保育				事前: 次回の内容について、テキストの該当ページを予習し、疑問点等、意識をもって授業に臨む。(各 0,5H) 事後: 毎回、次週の授業までにノートに「自主学習」のページを設け、授業の振り返り及び「保育内容」に関連する内容の学習をする。(各 1H)			
	3回	現代社会における保育の課題② 認定こども園と保育、小学校への接続と保育							
	4回	遊びと保育内容① 保育の基本、遊びの特質							
	5回	遊びと保育内容② 遊びと学び 発達の課題と保育内容							
	6回	保育内容の歴史的変遷と社会状況の関連① 明治・大正・昭和初期				事前: テキストと配付資料等を読み保育の、歴史について理解を深め授業に臨む(0.5H)			
	7回	保育内容の歴史的変遷と社会状況の関連② 戦後(昭和 20 年)～現在の保育内容				事後: その時代の背景理解を含めて暗記できるよう復習する。(1, 5H)			
	8回	保育内容と計画				事前: テキスト該当ページを予習する。(1H)			
	9回	幼稚園で展開される生活と保育内容① 幼稚園の一日、地域の中の幼稚園				事前: テキスト該当ページを予習する。 幼稚園、保育所、認定こども園について調べ学習をする。(0, 5H) 事後: 毎回、学んだ施設について「自主学習」を通して理解を深める。また、乳幼児の発達について発達心理学、乳児保育、子どもの保健等の科目と関連付けて復習する。(1H)			
	10回	幼稚園で展開される生活と保育内容② 3 歳児の生活、4 歳児の生活、5 歳児の生活							
	11回	保育所で展開される生活と保育内容① 0 歳児～3 歳以上児の生活と保育内容							
	12回	保育所で展開される生活と保育内容② 保育所における保育の特性							
	13回	幼保連携型認定こども園で展開される生活と保育内容							
	14回	養成校で保育内容をアクティブに学ぶ				事前: これまでの振り返りをして臨む。(1H)			
	15回	これまでの学びの振り返り及び総括				事後: 試験に向けて総復習をする。(4H)			
	16回	試験							
テキスト	○『保育内容総論』 入江礼子・榎沢良彦編著 建帛社 2018 年 2 月 20 日改訂版発行 1,900 円 ○『幼稚園教育要領解説』(文部科学省) ○『保育所保育指針解説』(厚生労働省) ○『認定こども園保育・教育要領』(内閣府)								
参考資料等	○関連科目のテキスト(保育内容系、保育原理、子どもの保健等)他、授業の中で適宜提示する。								

-30-

授業の評価方法・基準	受講態度(毎回能動的に参加し、「わかる」ことを目指す態度)、課題、試験等総合的に行う。 課題(ノート作成)30%、受講態度(グループワークへの参加度等も含む)30%、試験 40%
履修条件	「子ども」と「保育」を探究する気持ちと意欲を持っている人、ともに学びましょう！
関連科目・次のステージ	○保育内容 5 領域との関連を常に意識して学ぶ。 ○日頃から「保育」に関わる記事、情報等に意識を持ち、ノートを整理し授業を振り返る。
オフィスアワー	○火曜日午前中 ○金曜日 4、5 校目 ※その他、授業や会議がない時間帯で調整可能。
連絡・メッセージ	ノートを一冊準備して下さい。「子どもと保育がわかるノート」を目指して作っていきましょう。

科目区分	専門	科目名	保育内容健康	担当者	喜屋武 享	授業形態	講義・演習	単位数	1
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士必修、幼児必修						
卒業要件との関連性	① 住んでいる地域の乳幼児に関する社会保障について学ぶことで、自らが受けてきた恩恵と今後の施策について関心を高め、郷土への理解と、心豊かな感性を身につける。 ② 講義を通して乳幼児の健康に対する理論と実践を学び、保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。 ③ 調べ学習を通して、社会の変化に対応するための情報リテラシーを学び、主体的に学び続ける力を身につける。 ④ 学生同士の話し合い活動や資料作成、学習成果を発表することで、社会人としてのコミュニケーション能力や協働できる力を身につける。 ※各番号は、ディプロマ・ポリシーと対応								
授業の到達目標	1. 日本の乳幼児期の社会保障システムを理解することができる。 2. 生児から幼児期に至るまでの発育発達を理解することができる。 3. 幼児期の運動あそびの意義と保育者の役割を理解し、実践することができる。 4. 幼児期に発生しやすいケガや疾患を理解し、その対処法と防止策について考えることができる。 5. クラスメイトと共同して調べ学習、資料作成、発表ができる。								
授業概要	新生児が生まれて安全で健康な生活をおくるための指針として領域「健康」に沿った子どもの心身の発達、及び発達段階に合わせた関わり方を理解する。また発達段階に応じた自立の促し方、生活習慣の確立、運動あそびの指導ポイントを総合的に学ぶ。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション				事後：[課題(宿題)]住んでいる市町村の乳幼児のヘルスケアシステムについて調べる(1時間)			
	2回	「健康とは」、領域「健康」がめざすもの				事前・事後：[課題(宿題)]住んでいる市町村の乳幼児のヘルスケアシステムについて調べる(1時間)			
	3回	幼児の健康、乳幼児のヘルスケアシステムについて				事前：[課題(宿題)]住んでいる市町村の乳幼児のヘルスケアシステムについて調べる(1時間)			
	4回	子どもの発育理解 「身体的発達」				事前：教科書「第3章 1節～3節」予習(0.5時間) 事後：配布資料の読み返しと用語の確認(0.5時間)			
	5回	子どもの発育理解 「運動機能の発達」 幼児の体格・運動能力測定法と評価				事前：教科書「第3章 4節」と「第7章」予習(0.5時間) 事後：配布資料の読み返しと用語の確認(0.5時間)			
	6回	子どもの発育理解 「心の発達と健康」「人間関係・社会性の発達と健康」				事前：教科書「第3章 5節、6節」予習(0.5時間) 事後：配布資料の読み返しと用語の確認(0.5時間)			
	7回	幼児の生活スタイルの現状と問題点				事前：教科書「第6章」予習(0.5時間) 事後：配布資料の読み返しと用語の確認(0.5時間)			
	8回	運動あそび、身体活動の意義				事前：教科書「第4章」予習(0.5時間) 事後：配布資料の読み返しと用語の確認(0.5時間)			
	9回								
	10回	運動あそびの探求(グループワーク：演習・発表)				事前・事後：運動あそびの実践計画を作成(3時間)			
	11回								
	12回	幼児に発生しやすいケガ・疾患				事前：[課題(宿題)]幼児に発生しやすいケガ・疾病の名称・症状・対処法について調べる(1時間)			
	13回	(グループワーク：調べ学習・発表)				事前・事後：幼児に発生しやすいケガ・疾病の名称・症状・対処法について調べ、まとめる(2時間)			
	14回								
	15回	安全管理と安全教育、応急処置法				事前：教科書「第8章、第9章」予習(0.5時間) 事後：配布資料の読み返しと用語の確認(0.5時間)			
	16回	テスト・まとめ				事前：テスト範囲の見直し(1時間)			
テキスト	民集 言・穂丸武臣編著(2017年 初版第6刷)『新 保育ライブラリ 保育内容・方法を知る 保育内容健康[新版]』北大路書房								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 河邊貴子編著(2016年 第9刷)『演習 保育内容 健康』建帛社 前橋明編著(2016年 第5版第1刷)『日本幼児体育学会認定 幼児体育指導員養成テキスト 幼児体育-理論と実践-[初級]』大学教育出版 日本発育発達学会編著(2014年 第1版第1刷)『幼児期運動指針実践ガイド』杏林書院								
授業の評価方法・基準	グループワークへの参加態度 30%、課題レポート 20%、テスト 50%								

履修条件	特になし
関連科目・ 次ステージ	関連科目「保育の表現技術（体）Ⅰ」 健康の担い手としての保育者像を広げてほしい。
オフィスアワー	授業前後
受講生への メッセージ	健康の担い手としての保育者像を、ともに考えていきましょう。

科目区分	専門	科目名	保育内容人間関係	担当者	柳生崇志	授業形態		単位数	
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士必修、幼児必修						
卒業要件との関連性	児童教育学科のディプロマポリシーは4点掲げられているが、本科目はそのいずれにも関連する科目内容である。すなわち、人間関係のあり方や社会性発達の特徴について学びながら、心豊かな感性、保育者・教育者としての専門性、主体的に学び続ける力、コミュニケーション能力と協働、等について考察を深め、それぞれの力をつけることを目的とする。								
授業の到達目標	領域「人間関係」のねらいと内容の理解を深め、乳幼児期の人間関係の発達について考察する。同時に保育現場における「人間関係」の様々な指導のあり方を事例を通して話し合い、保育者自身の考え方、価値観の判断基準を身につける。								
授業概要	乳幼児期における「人間関係」を様々な視点から事例を通して考える。グループワークやディベートゲームを通して自身の考えを主張することと、他者の考えを理解することを基本的姿勢として、受講生自身が多様性を身につけ、自らの変容に気づけるような展開を試みる。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション(受講案内) 領域「人間関係」の位置付け			事前：なし 事後：配布資料を読み直し、内容を十分に整理・記憶する(1H)				
	2回	乳幼児期における人との関わりの発達① 0・1・2歳の関わり			第2回～第9回 事前：授業予定の内容について他科目テキストや「指針」「要領」を読む(0.5H) 事後：授業ノートの整理(0.5H)				
	3回	乳幼児期における人との関わりの発達① 3・4・5歳の関わり							
	4回	乳幼児期の「人間関係」をどう評価するか							
	5回	遊びを通じた社会性の発達							
	6回	個から集団へ							
	7回	乳幼児の認知と行動の特性を踏まえた保育の展開							
	8回	自己理解と他者理解							
	9回	「人間関係」の変容							
	10回	多様な体験から多様な他者を知る							
	11回	乳幼児の「人間関係」を理解し促進するための保育構想① 指導案を読み解く			事前：自分自身の対人関係の特徴を分析する(0.5H) 事後：授業中に行うワークの内容を十分に整理・記憶する(0.5H)				
	12回	乳幼児の「人間関係」を理解し促進するための保育構想② 指導案を作成する			事前：指導案の見方を整理する(0.5H) 事後：指導案の読みを深める(0.5H)				
	13回	他者理解と「人間関係」構築のデモンストレーション① 模擬保育の計画			事前：指導案の作成方を整理する(0.5H) 事後：作成した指導案をブラッシュアップする(0.5H)				
	14回	他者理解と「人間関係」構築のデモンストレーション② 模擬保育の実施・検証			事前：指導案のアイデア出し、下書き(0.5H) 事後：作成した指導案をブラッシュアップする(0.5H)				
	15回	子ども・保護者・保育者の「人間関係」を振り返る			事前：模擬保育の準備(0.5H) 事後：模擬保育の振り返り(0.5H)				
	16回	試験と講評			事前：前回までの授業内容を振り返る(0.5H) 事後：定期試験対策計画の立案(0.5H)				
テキスト	必要に応じて教場で資料を配布する								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、および各解説書								
授業の評価方法・基準	総合評価(成績) = 期末試験(50%) + 各種課題(複数合計40%) + 受講態度(10%)								
履修条件	資格取得に強い意志を持って授業に望むこと								
関連科目・次のステージ	保育内容の各領域、および心理学関連科目の内容とリンクさせること 子どもの社会性発達を支えるための知識や技能のみならず、自分自身の社会性発達の実現もめざすこと								
オフィスアワー	月曜午後、水曜午前。その他の時間は教場にて案内します								
受講生へのメッセージ	“Heaven helps those who help themselves.” E-mail: yagyu@owjc.ac.jp 柳生研究室：5階 5番研究室								

科目区分	専門	科目名	保育内容 環境	担当者	村吉和美	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士必修、幼稚園二種必修						
卒業要件との関連性	専門的知識・技能・倫理観を基に強い実践力の育成								
授業の到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された「環境による教育」とは何か 乳幼児にとって、環境とは何か、教師の意図性と子どもの育ちをキスト及び幼稚園教育要領・保育所保育指針、実践の様子を映したパワーポイント等で学び、グループワークを実施しながら、子どもが「もの・人・こと」にかかわる意味と保育の関係を知る								
授業概要	幼児教育は「環境を通して行う教育」である。幼児教育でいう環境とは何かを理解し、その環境に教師の意図を絡ませて行う保育の意味を探る。また、実際に自然環境を使って遊び、どのような環境構成をすれば幼児がさらに興味関心を高め継続的に遊べるか、また、そこから何が育つのか、その育ちが幼稚園教育要領・保育所保育指針でどのように表現されているかをグループ協議や発表などを通して理解を深める。 ※: (0.5H)								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	環境と領域「環境」について				事後：配布資料の読み込み (0.5H)			
	2回	領域「環境」の概要		教材：朝顔の種まき		事前：幼稚園教育要領総則に目を通す(0.5H)			
	3回	自然環境・人的環境・非認知能力を育む環境				事前：非認知能力とは何か用語の確認(0.5H)			
	4回	自然に親しむ①		教材：朝顔栽培の実際(苗の移植)		事前：栽培活動・小動物飼育の意義について考える (0.5H)			
	5回	子どもの発達と環境				事前：教科書第4章予習 (0.5H)			
	6回	子どもと環境の関わり				事前：幼稚園や保育園の遊具、教具の種類について調べよう※			
	7回	数量や文字などへの興味				事前：文字や数量の認識を促す遊びについて調べてみよう※			
	8回	生活と関係する行事・文化				事前：園行事にはどのようなものがあるか調べてみよう※			
	9回	指導計画と評価・・・「環境」の視点から				事前：教科書10章予習 (0.5H)			
	10回	自然に親しむ②				事前：自分が自然と関わった遊びについてまとめる (0.5H)			
	11回	0歳～2歳児の保育と環境				事前・事後：「乳幼児保育」・「発達心理」の教科書を参考に関係箇所を読み返す。(1H)			
	12回	3歳～6歳児の保育と環境							
	13回	自然に親しむ③				事前：朝顔を使ってどんな遊びができるか考える (0.5H)			
	14回	特別な支援を必要とする子どもと領域「環境」				事前：障害がある子どもとは (0.5H)			
	15回	小学校との連携				事前：教科書13章予習 (0.5H)			
	16回	まとめとテスト				事前：定期試験の範囲の確認 (0.5H)			
テキスト	コンパクト版 保育内容シリーズ 環境 谷田貝 公昭(監修) 大沢 裕・野末晃秀(編著) 出版社：一藝社								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 2017年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針 さあ、子どもたちの「未来」を話ませんか 著・汐見稔幸 小学館 2017年告示版 幼稚園教育要領ハンドブック 無藤 隆(監修) 学研								
授業の評価方法・基準	テスト(60%) 課題(振り返りシート・レポート)(30%) グループワークへの参加度(10%)								
履修条件	保育者を目指す目的意識をもち、主体的に授業に取り組むこと。								
関連科目・次のステージ	「保育課程総論」「保育原理」「発達心理学」「乳幼児保育」 教育課程総論との関連を見通す								
オフィスアワー	授業開始前 授業終了後 その他必要に応じて設定する。								
受講生へのメッセージ	前時の授業を復習し、疑問に思ったこと等を授業時または終了後に質問をする等、解決できるようにする 出席は授業開始時とする。(遅刻については、授業後各自申し出ること) ノートは必要に応じて提出するので、毎回日付を記載し、一冊にまとめておくこと								

科目区分	専門科目	科目名	保育実習指導ⅠB（施設）	担当者	上原 健二	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士資格 必修 児童厚生2級指導員資格 必修						
卒業要件との関連性	施設実習Ⅰに向けた事前事後指導であるこの授業では、子ども・利用者や職員、その他関連する方々と直接的にかかわる機会を得ることができることから、対人援助職である保育者・教育者の専門性の向上に資するとともに、その体験から得られる学びが社会の変化を理解し対応できる力を身につけることにつながる。								
授業の到達目標	保育士養成課程における施設実習Ⅰの位置づけを理解し、実習に向けて明確な課題意識を持ち、各実習先の概要や子ども・利用者理解に努めることを実習前の到達目標とする。実習後は観察・記録された実習日誌や現場からの評価票をもとに自己評価を行い、保育・支援の改善について事例を通して振り返る。これにより、保育士の専門性と職業倫理を養い、有資格者としての具体的な資質を身につける。								
授業概要	2年夏期に実施される「施設実習Ⅰ」に向けて、施設種別ごとに異なる利用者や職員、施設について理解することや実習日誌の書き方などの具体的な実習に向けたスキルを習得することで、事前オリエンテーションや実習開始に向けた具体的な準備を整える。実習後には利用者や職員とのかわりを通した学生個人の実習の学びを振り返る。施設実習Ⅰは様々な施設種別に分かれて実習が設定されていることから、多岐に渡る施設種別の学びを他の学生から相互に共有することによって、施設における保育士・支援員として求められる役割を理解し、卒業後につなげた見通しを深める。								
授業計画及び時間外学習（時間）	1回	施設実習Ⅰの目的及び全体的な概要の理解				事後：施設実習Ⅰの位置づけの再確認			
	2回	施設実習Ⅰ報告会（前年度の先輩からの情報）の振り返り、質疑応答など。希望調整の確認				事前：前年度の先輩の報告会の振り返りの見直し 事後：授業の振り返りとまとめ			
	3回	施設種別や法的根拠等について①（養護系を中心に）				事前：他の授業で学んだ養護系の施設の再確認 事後：外来講話に向けた質問事項などの整理			
	4回	福祉現場の職員から学ぶ①（児童相談所の職員による外来講話）				事前：外来講話に向けた質問事項などの整理 事後：授業の振り返りとまとめ			
	5回	施設種別や法的根拠等について②（障がい系を中心に）				事前：他の授業で学んだ障がい系の施設の再確認 事後：外来講話に向けた質問事項などの整理			
	6回	福祉現場の職員から学ぶ②（障がい系施設の職員による外来講話）				事前：外来講話に向けた質問事項などの整理 事後：授業の振り返りとまとめ			
	7回	施設実習Ⅰの配置先決定後の施設種別ごとの理解及び課題の整理、実習評価について				事前：自分の実習先の配置の確認 事後：具体的に配置決定後の施設の事前学習			
	8回	施設実習Ⅰの実習日誌の書き方（記入例等の資料を配付し、説明する）				事前：具体的に配置決定後の施設の事前学習 事後：授業の振り返りとまとめ			
	9回	配置された各実習先の理解の確認① 『実習を終えて』を通して、各実習先の生活の流れや利用者理解等を確認する）				事前：『実習を終えて』の施設実習Ⅰを読む。 事後：授業の振り返りとまとめ			
	10回	配置された各実習先の理解の確認② （施設種別毎のグループワークを通して、各実習先の生活の流れや利用者理解等を確認する）				事前：各実習先の個別の事前学習の整理 事後：授業の振り返りとまとめ			
	11回	各実習の直前指導・オリエンテーションなどの進捗状況の確認				事前：実習開始直前の確認・質問事項の整理 事後：授業の振り返りとまとめ			
	12回	各自の実習先・施設種別における施設実習Ⅰの振り返り				事前：各自の施設実習Ⅰの体験の振り返り 事後：各自の振り返りのワークシートの記入			
	13回	施設種別ごとのグループによる実習体験の振り返り作業				事前：各自の振り返りのワークシートの記入 事後：授業の振り返りとまとめ、実習報告会の準備			
	14回	実習経験の後輩への伝達（養護系施設編）／実習日誌の記述内容を通した振り返り				事前：施設実習Ⅰ報告会（養護系施設）の準備 事後：他の発表を聞いた振り返りとまとめ			
	15回	実習経験の後輩への伝達（障がい系施設編）／実習日誌の記述内容を通した振り返り				事前：施設実習Ⅰ報告会（障がい系施設）の準備 事後：他の発表を聞いた振り返りとまとめ			
	16回	施設実習Ⅰの事実の振り返り・自己課題の整理 （実習日誌の記述内容・実習生評価票を活用して）				事前：自己評価票や実習日誌の振り返り作業 事後：施設実習Ⅰ及び実習指導の振り返りとまとめ			
テキスト	・『実習のしおり』（各年版）（沖縄女子短期大学児童教育学科作成） ・『実習を終えて』（各年版）								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 授業で適宜配付する。								

授業の評価 方法・基準	受講態度（グループワーク等の参加状況なども含む）60%、各種提出物（実習に関連する必要書類、小レポートなど）40%
履修条件	この授業を登録する時点で施設実習Ⅰの実施が予定されている（実習配置の調整に含まれている）こと。
関連科目・ 次のステー ジ	保育所実習Ⅰ（1年次後期（2月））に続き、保育士資格取得の必修の実習である。選択必修（保育所実習Ⅱ・児童館実習）と同 時期である2年次夏期（7～8月）に向けての事前指導、実習終了後の事後指導、その他、実習の経験が前後の他の授業にも影響 することから、貴重な機会となっている。
オフィスア ワー	金曜日の5校目
受講生への メッセージ	他の各種実習と異なり、施設実習Ⅰでは各学生は様々な種類の施設にて実習を行うことになります。普段の生活では触れることの 少ない現場でそれぞれの学生が異なる経験を想定した実習となります。従って、事前学習は個々の取り組みが重要となることか ら、しっかりと目的意識を明確に取り組むことを心がけましょう。

科目区分	専門教育 科目	科目名	保育実習指導Ⅲ	担当者	玉城哲人・石垣愛一郎	授業形態	講義・演習	単位数	1
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士資格必・児童厚生員二級指導員必						
卒業要件との関連性	児童館の社会的及び地域的役割を経験を通して理解する。児童館実習前の事前準備から実習において専門知識や技術を学び、コミュニケーション能力を高め、協働する力を実習後の振り返りを含めて身につける。								
授業の到達目標	保育士資格及び児童厚生二級指導員資格の取得に必要な「施設実習Ⅱ(児童館を含む)」に向けて、児童館の役割や子どもの遊び支援・厚生員職の理解に努め、実習への明確な課題意識を踏まえて取り組むことを実習前の到達目標とする。実習後は実習日誌や現場からの評価票をもとに自己評価を行い、個々の課題や子どもへの支援の改善について振り返る。これにより、児童厚生員の専門性を養い、有資格者としての具体的な資質を身につける。								
授業概要	2年夏期に実施される「施設実習Ⅰ(児童館を含む)」に向けて、子どもの遊びや職員、施設について理解することや実習日誌・指導案の書き方などの具体的な実習に向けたスキルを習得することで、事前オリエンテーションや実習開始に向けた具体的な準備を整える。実習後には子どもや職員とのかかわりを通じた学生個人の実習の学びを振り返る。また、他の学生からの学びを相互に共有することによって、厚生員として求められる役割を理解し、卒業後につなげた見通しを深める。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション:児童厚生二級指導員資格取得のための実習体系、実習配置条件、実習の心得、実習指導の進め方について * 実習希望児童館の登録			事後：実習希望のための検索及びシラバスを通じた本授業の見通しを振り返る（1H）				
	2回	児童館実習の段階及び実習の一日の流れについて							
	3回	遊びの指導・援助の実際のポイント（様々な実習事例を通して）			* 途中、保育実習Ⅰの振り返りを本授業内に予定				
	4回	実習日誌の意義及び書き方、 個人票の書き方							
	5回	責任実習・実習指導計画・実習指導案の書き方について			「実習を終えて」を参考に児童館実習日誌を使った書き方				
	6回	実技補習①（運動遊び）			理解・責任実習に関しての考え方、準備の仕方、実践方				
	7回	実技補習②（制作遊び）			法、地域児童館・児童センターの1日体験を含めて総合的				
	8回	実習指導案立案			に学習する。				
	9回	実習前学習（実習先訪問）			事前・事後（30H）				
	10回	私の研究課題、 外来講師への質疑票記入							
	11回	児童館の現場職員から学ぶ（外来講話） 質疑応答 *変更あり							
	12回	直前指導・オリエンテーションなどの進捗状況の確認、お礼状、訪問教員への手紙など							
	13回	実習日誌の記述内容を通じた振り返り			*以下のスケジュールは実習後の振り返りとして後期に持ち越し				
	14回	グループによる実習体験の振り返り作業							
	15回	実習体験の後輩への伝達							
	16回	児童館実習の事実の振り返り・自己課題の整理							
テキスト	『実習を終えて』(各年版)、『実習のしおり』(各年版)（沖縄女子短期大学児童教育学科作成）								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 授業で適宜配付する。								
授業の評価方法・基準	授業・グループワークへの参画度、受講態度(出席状況含む)、レポートなどの提出状況などに基づいて、総合的に評価する。								
履修条件	児童館・児童センターの役割を実習を通して経験、理解すること								
関連科目・次のステージ	「児童館・放課後児童クラブの機能と運営」を同時期に学ぶことで実習に臨むための理解を深める。								
オフィスアワー	事前相談の上、担当教員の空き時間をオフィスアワーとする。								
受講生へのメッセージ	実習に関する「連絡、報告、相談」をしっかり行い、各実習が充実できるように取り組みましょう。								

科目区分	専門	科目名	保育原理	担当者	廣瀬真喜子・新島よし乃	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	必修	免許・資格要件等	幼稚園教諭2種免許 選択必修 保育士資格 必修						
卒業要件との関連性	保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける。								
授業の到達目標	保育所保育指針・幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要を把握し、保育の意義や保育の基本、保育の歴史等について他者に説明することができる。保育の現状と課題に関心をもち、幼児の姿をイメージしようとしながら学び続ける姿勢を身につける。								
授業概要	保育原理では、幼稚園教育要領・保育所保育指針等の趣旨をふまえ、主に保育の意義や保育の目的及び目標、保育の歴史などを理解して、保育の基礎的知識の習得を目的とする。さらに、保育の現状と課題を概観し、自ら課題意識をもち、「保育の本質」とは何かについて模索する。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション（履修登録・講義概要説明等）保育とは何か①			事前：教科書 第1章 復習（1H）				
	2回	保育とは何か② 「保育」と「養護」及び「教育」の関係、保育の専門性			事前：教科書 第1章「保育とは何か」 復習（1H） 事後：配付資料の読み返しと用語の確認（1H）				
	3回	保育の基盤としての子ども観・保育観			事前：配付資料を事前に読む（1H） 事後：教科書 第2章 復習（1H）				
	4回	子ども理解から出発する保育			事前：新聞から子どもに関する記述を読んで感想を書く（1H） 事後：倉橋惣三の育ての心をよむ（1H）				
	5回	子どもの発達をとらえるまなざし			事前：配付資料に目を通す（1H） 事後：教科書 第3章 子ども理解から出発する保育 復習（1H）				
	6回	子どもが育つ環境の理解			事前：自分が通っていた園の環境を書く（1H） 事後：教科書 第4章 子どもが育つ環境の理解 復習（1H）				
	7回	保育内容・方法の原理			事前：しつけについて自分の考えをまとめる（1H） 事後：教科書第5章をまとめる（1H）				
	8回	『保育所保育指針』について			事前：法令ハンドブックを読み、語句に線を引く（1H） 事後：配付資料を読んでまとめる（1H）				
	9回	『幼稚園教育要領』について			事前：法令ハンドブックを読み、語句に線を引く（1H） 事後：配付資料を読んでまとめる（1H）				
	10回	子どもの健康・障害のある子どもへの対応			事前：第7章健康・安全と障がいのある子への対応予習（1H） 事後：第7章復習（1H）				
	11回	集団保育施設の誕生と発展（西欧）			事前：保育の思想家について調べ学習をする（1H） 事後：配付資料等を使って復習をする（1H）				
	12回	集団保育施設の誕生と発展（日本）			事前：日本の保育の思想家について調べ学習をする（1H） 事後：配付資料等を使って復習をする（1H）				
	13回	保育者にめられるもの			事前：第9章保育者に求められるものを予習する（1H） 事後：保育者にめられるものについてまとめる（1H）				
	14回	保育の現状と課題 子育てを取り巻く社会の変化と保育の課題			事前：新聞等で保育に関する記事をまとめる（1H） 事後：第12章を復習する（1H）				
	15回	保育の現状と課題 海外の保育について			事前：海外の保育について調べる（1H） 事後：配付資料等をもとに海外の保育についてまとめる（1H）				
	16回	テスト及びまとめ			事前：テスト勉強をする（2H）				
テキスト	最新保育講座1 保育原理（第3版）森上史朗・小林紀子・若月芳浩編 ミネルヴァ書房 ¥2160 ここがポイント3法令ガイドブック 無藤隆 汐見俊幸 砂上史子著 フレーベル館 ¥1000 絵本カード・リング ¥500（書店ではなく授業時に直接販売します）								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 授業中に適宜提示する								
授業の評価方法・基準	毎時間の振り返りシート（35％）確認テスト（15％）試験（40％）授業態度（10％）で総合的に評価する。								
履修条件	保育について学びたいという積極的な心構え								
関連科目・次のステージ	「保育内容 総論」、「保育内容 健康」、「社会福祉」等の科目とも関連づけて復習をすること。また、日常生活の中で保育に関する情報に関心をもつこと。								
オフィスアワー	授業終了後及び木曜1校目（廣瀬）アポイントをとること。hirose-m@owjc.ac.jp（廣瀬）47066YOSI@city.naha.lg.jp（新島）								
受講生へのメッセージ	提出物の提出期限を遵守すること。日常的に保育に関する情報に関心を持ち、子どもとふれあえる機会があれば積極的に参加をして自らの学びと結びつけるようにすること。								

科目区分	専門	科目名	教育原理	担当者	濱比嘉宗隆	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	必修	免許・資格要件等	小学校教諭二種免許状 必修 幼稚園教諭二種免許状 選必						
卒業要件との関連性	教育者として教育の意義・歴史について知り、これからの時代に向かっの教師像を知り、実際に即応する力を養う								
授業の到達目標	- 教育の意義について理解し、教育の持つ様々な機能を知り、考察することができる。 - 学校教育の現状について知り、これからの教育の在り方を考えることができる。 - 期待される教師像（資質・能力）を知り、それに向かって努力することができる。								
授業概要	教育とは何だろう、教育の意義、学校教育の意義等、教師としての基礎的な機能・内容を中心に学習するとともに、これからの学校の在り方や、求められている教師の資質や能力について学習する。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	教育原理の意義や内容等について（ガイダンス）				事後 教育とはについて、自分との振り返りをするともに第1章を熟読し課題を持つ			
	2回	第1章 教育とは何か ①人間と学び ②発達への介入				事前 ①②を読み課題を持つ。 事後 まとめる			
	3回	③人間形成と教育 ④教育するとは				事前 ③④を読み課題を持つ 事後 まとめる			
	4回	第2章 学校とは何か ①学校の始まり ②近代の学校				事前 ①②を読み課題を持つ 事後 まとめる			
	5回	第3章 学校とは ③近代以前の日本の学校				事前 ③を読み課題を持つ 事後 まとめる			
	6回	④日本の近代化と学校教育				事前 ④を読み課題をもつ 事後 まとめる			
	7回	⑤戦後教育の歴史				事前 ⑤を読み課題を持つ 事後 まとめる			
	8回	第4章 こころと体を育てる ①学力とは				事前 ①を読み課題を持つ 事後 まとめる			
	9回	②こころを育てる				事前 ②を読み課題を持つ 事後 まとめる			
	10回	第5章 よりよく学ばせ・教えるために ①学習する意味				事前 ①を読み課題を持つ 事後 まとめる			
	11回	① 授業を改革するために				事前 ①を読み課題を持つ 事後 まとめる			
	12回	② 学校教育の可能性				事前 ②を読み課題を持つ 事後 まとめる			
	13回	第8章 教師とは ① 教師に求められる力				事前 ①を読み課題を持つ 事後 まとめる			
	14回	② 教師の力量とは				事前 ②を読み課題を持つ 事後 まとめる			
	15回	③ 授業をつくる教師				事前 ③を読み課題を持つ 事後 まとめる			
	16回	④ 評価について				事前 ④を読み課題を持つ 事後 まとめる			
テキスト	やさしい教育原理 「有斐閣」								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 学習指導要領 総則編								
授業の評価方法・基準	筆記試験（70％）提出物（15％）平常点（15％）								
履修条件	特になし								
関連科目・次のステージ	教育心理、児童心理、教育方法等との関連があり教師としての基礎知識として大切である								
オフィスアワー	月曜日の午後、金曜日の午前 事前にアポイントとること								
受講生へのメッセージ	教師になるための、とてもとても大切な科目です。予習復習をしっかり頑張ってください。								

科目区分	専門	科目名	教育原理	担当者	又吉 斎	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選必	免許・資格要件等	小学校二種免許状（必修科目）、幼稚園教諭二種免許状（選択必修科目）						
卒業要件との関連性	教育者としての専門知識・価値・技術を習得するとともに、社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
授業の到達目標	教育の基礎理論として教育の意義、目的、児童福祉との関連性、教育の歴史、教育の諸制度について理解しており、さらに今日的な教育の諸問題について主要な教育思想や基礎理論と結び付けて捉えることができる。								
授業概要	テキストを用いて教育の基本的概念を概観し、日本や諸外国の教育思想・歴史の変遷について比較考察する。また、現代社会の教育的諸課題について取り上げ、様々な教育実践や教育理論と関連させながら課題解決に向けた考察を行う。特にペアやグループでのディスカッションを通して論理的思考力や課題発見力、協調性などを涵養し、教育者としての資質を磨く。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	教育の意義—教育とはなにか			事後：教育の定義について整理する。（2h）				
	2回	教育の目的—教育理念・教育目的・教育目標			事前：当該テーマについて事前にリサーチして把握する。（2h） 事後：当該テーマについて概要を整理する。（2h）				
	3回	教育と児童福祉—児童福祉法・子ども家庭福祉・子ども子育て支援			事前：関連テーマについて考察し、考えをまとめる。（2h） 事後：他者の意見と自身の考えを比較し、まとめる。（2h）				
	4回	人間形成と家庭・地域社会			事前：テキストの関連項目に目を通して概要をつかむ。（2h） 事後：学習内容を整理する。（2h）				
	5回	諸外国の教育思想—コメニウス・ルソー・フレーベル・ペスタロッチーほか			事前：それぞれの教育思想のポイントを整理する。（2h） 事後：教員採用試験の関連する問題に取り組む。（2h）				
	6回	諸外国の教育の歴史			事前：テキストの関連項目に目を通して概要をつかむ。（2h） 事後：学習内容を整理する。（2h）				
	7回	日本の教育思想・歴史			事前：当該テーマについて情報を収集し、整理する。（2h） 事後：教員採用試験の関連する問題に取り組む。（2h）				
	8回	子ども観と教育観			事前：それぞれの観点のポイントについてまとめる。（2h） 事後：自身と他者との考えを比較し、整理する。（2h）				
	9回	教育制度の基本			事前：各制度について情報を収集し、整理する。（2h） 事後：各制度のポイントをまとめる。（2h）				
	10回	教育の法律（教育法規）と教育行政			事前：テキストの関連項目に目を通して概要をつかむ。（2h） 事後：関連する内容について情報を収集・整理する。（2h）				
	11回	諸外国の教育制度			事前：当該テーマについて情報を収集し、理解する。（2h） 事後：当該テーマについて概要を整理する。（2h）				
	12回	教育実践の基礎理論—内容・方法・計画・評価			事前：テキストの関連項目に目を通して概要をつかむ。（2h） 事後：関連する内容について情報を収集・整理する。（2h）				
	13回	教育実践の多様な取り組み ※ ゲストスピーカー招聘			事前：ゲストスピーカーに質問したい内容を検討する。（1h） 事後：分かった内容や更なる疑問点を整理する（1h）				
	14回	生涯学習社会と教育			事前：プレゼン資料を作成し、発表の練習を行う（2h） 事後：プレゼン資料・発表を振り返り、加筆修正する。（2h）				
	15回	現代の教育課題 ※ ゲストスピーカー招聘			事前：ゲストスピーカーに質問したい内容を検討する。（1h） 事後：分かった内容や更なる疑問点を整理する。（1h）				
	16回	学期末テスト			事前：学期末テストに向けて既習内容を復習する。（3h） 事後：学期末テストの結果を振り返る。（3h）				
テキスト	基本保育シリーズ「教育原理」公益財団法人 児童育成協会 矢藤・北野（編）〔中央法規：2016〕¥2,160								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 「やさしい教育原理（第三版）」田嶋・中野・福田・狩野（著）〔有斐閣アルマ：2016〕¥2,052								
授業の評価方法・基準	①テスト 50% ②課題 40% ③発表・態度 10% で評価する								
履修条件	受講マナー（遅刻・欠席・私語・居眠り等）に注意し、授業では積極的に参加する態度で臨むこと								
関連科目・次のステージ	関連科目「教育方法論」ほか、教育学全般にかかわる基礎的な科目です。講義と並行して、教員・公務員採用試験の受験対策に向けた自主学習にも積極的に取り組みましょう。								
オフィスアワー	火曜日3講目以降（13：00～17：50）								
受講生へのメッセージ	普段から教育関連のニュースや論文に目を向けましょう。また、授業に関する相談や要望等があれば遠慮なく声をかけて下さい。 連絡先：matayoshi-i@owjc.ac.jp								

科目区分	専門	科目名	教育課程総論	担当者	濱比嘉宗隆	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	小学校教諭二種免許、幼稚園教諭二種免許、保育士資格 必修						
卒業要件との関連性	教師として、日本国憲法、教育基本法に基づき、教育がなされていることを知り、新しい時代に求められる教育課題を知り、学校教育の目的や内容を総合的に学習する場である。								
授業の到達目標	1、教育課程の意義や変遷、編成の基本的事項等を学習し、より良い教育を目指す学校教育の在り方を理解する。 2、教育課程の内容編成上の留意点について、理解する。 3、地域の実態を踏まえた教育、これからの時代に求められる教育を理解する。								
授業概要	学校教育の目的や目標を達成するために児童の心身の発達に応じ、学習指導要領等の内容等を踏まえてその意義を知り各学校において教育課程が編成されることを理解する。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	教育課程の意義や理念・内容について			事後 学習とはについてまとめる				
	2回	学習指導要領について (1) 歴史的変遷と基本方針			事前 熟読し課題を持つ 事後 社会の変化と学習指導要領の基本方針をまとめる				
	3回	教育課程の編成の基本について			事前 編成の基本について課題を持つ 事後 編成の基本を知り まとめる				
	4回	教育課程と法制について			事前 指導要領と法制とを読み課題を持つ 事後 指導要領と法制についてまとめる				
	5回	教育課程の編成と実施について			事前 教育課程編成を読み課題を持つ 事後 課題等についてまとめる				
	6回	教育課程編成の要素について			事前 編成の要素について課題を持つ 事後 教育課程の編成の在り方をまとめる				
	7回	教育課程と学校経営について			事前 教育課程と学校経営を読み課題を持つ 事後 学校目標・経営との関係をまとめる				
	8回	教育課程と学習評価について			事前 学習内容と評価の在り方について課題を持つ 事後 評価の在り方についてまとめる				
	9回	新学習指導要領の学びについて			事前 学びにつて課題を持つ 事後 深い学びについてまとめる				
	10回	新学習指導要領における教育課程の編成・実施・評価			事前 編成・実施・評価について課題を持つ				
	11回	新学習指導要領における教育課程の編成・実施・評価			事後 編成・実施・評価についてまとめる				
	12回	複式教育の教育課程と実際			事前 複式教育の課題について課題を持つ				
	13回	複式教育の編成上の課題			事後 複式教育の課題等についてまとめる				
	14回	プログラミング教育の必要性			事前 プログラミングの必要性と課題を持つ 事後 プログラミングの在り方についてまとめる				
	15回	小学校におけるプログラミング			事前 簡単なプログラミングを作る 事後 全体で話し合う				
	16回	テスト							
テキスト	小学校学習指導要領 総則編 文科省								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 各教科・特活・道徳等の学習指導要領								
授業の評価方法・基準	筆記試験 70% 平常点 30% 発表・態度等で評価								
履修条件	特になし								
関連科目・次のステージ	各教科の指導法、生徒指導等の基本となる科目である								
オフィスアワー	月曜日の午後 金曜日の午前 アポイントを取ること								
受講生へのメッセージ	教師として児童に教科等を指導するときの基本となる授業であり、学習指導要領を熟読してほしい								

科目区分	専門	科目名	教育機器演習	担当者	新川 涼子	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	小学校二種必修、幼稚園二種必修、保育士選必						
卒業要件との関連性									
授業の到達目標	授業ツールとして、また様々な行事で活用するために Microsoft PowerPoint などのアプリケーションソフトの操作や、メディアの活用を身に付ける。具体的には、Microsoft PowerPoint を授業で活用できるように、基礎から応用までの操作を習得する。あわせて、CD から PC への楽曲の取込み、スマートフォンで撮影した画像の PC への取込み、Windows ムービーメーカーによる動画作成も習得する。また、素材を扱うに当たっての著作権の知識なども習得する。								
授業概要	・ Microsoft PowerPoint の基礎から応用までを、テキストの課題を作成することで学習します ・ Windows ムービーメーカーを利用して、スライドショームービーを作成します (CD に入っている楽曲や、自分のスマホの写真を取込んで利用します) ・ 自分の行ってみたい旅先について、インターネットを利用して情報を検索し、スライドにまとめ、発表します								
授業計画及び時間外学習(時間)	1 回	オリエンテーション、小学校における情報教育の事例紹介、Word の復習 (名札・時間割作成)				事後：タイピングに自信のない人は、タイピング練習サイトなどを活用して練習してください (4H)			
	2 回	PowerPoint2016 基本スライドの作成 (デザインの適用、文字の入力、画像の挿入)、総合問題 1				事前：1 年次に学んだ PowerPoint のテキストを復習 (1.0H) 事後：基本スライドの作成の復習 (3.0H)			
	3 回	表入りスライドの作成 (表の挿入、調整、スタイルの適用)、総合問題 3				事前：先週学習した部分をテキストで確認 (1.0H) 事後：表の作成の復習 (3.0H)			
	4 回	表入りスライドの応用 (表の復習)、Web 上で写真を画像検索してスライドに貼り付ける、合唱音源のダウンロード、スライドへの挿入				事前：先週学習した部分をテキストで確認 (1.0H) 事後：画像検索や音源検索をしてみる (3.0H)			
	5 回	スライドに挿入画像の調整、図形の挿入、調整。Smart Art グラフィックの挿入と調整。総合問題 2				事前：先週学習した部分をテキストで確認 (1.0H) 事後：Smart Art グラフィックの作成の復習 (3.0H)			
	6 回	画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 総合問題 4、総合問題 5				事前：先週学習した部分をテキストで確認 (1.0H) 事後：画面切り替え効果、アニメーションの設定の復習 (3.0H)			
	7 回	総合問題 5 の仕上げ CD から PC への楽曲の取込み。Google ドライブによるスマートフォンで作成した画像の取込み。Windows ムービーメーカーで取込んだ野心と画像を使って動画作成。				事前：スマートフォンで写真を撮影。Google ドライブへ写真をアップロードしておく (2.0H) 事後：Windows ムービーメーカーの操作の復習 (2.0H)			
	8 回	プレゼンテーションに必要な機材について紹介 応用課題 1 自分の行ってみたい旅先に関する情報をあつめる				事前：先週学習した部分をプリントで確認 (1.0H) 事後：自分の行ってみたい旅先に関する交通情報の収集 (1.6H)			
	9 回	応用課題 2 自分であつめた情報をもとに、自分の行ってみたい旅先を紹介するスライドを作成する				事前：これまでのスライド作成の復習、応用課題にどの部分を活用するか考える (1.0H) 事後：自分の行ってみたい旅先に関する観光情報の収集 (3.0H)			
	10 回	応用課題 3 スライド切り替え効果やアニメーションをつけてスライドを仕上げる。発表する際のメモの準備。リハーサル機能の活用。				事前：これまでのスライド作成の復習、応用課題にどの部分を活用するか考える (2.0H) 事後：発表会に向けてのリハーサル (2.0H)			
	11 回	自分の行ってみたい旅先紹介 発表会 1 人ずつ発表、自分以外の人の発表は審査員になって採点します				事前：発表会に向けてのリハーサル (1.0H) 事後：他の人の発表を見て、自分のスライドをよくするために、加えられそうな点を考える (3.0H)			
	12 回	授業で活用する素材に関する著作権について学習 今後導入されるプログラミン学習に関する事例紹介				事前：本、マンガ、楽曲、映画などの著作権について調べてみる (2.0H) 事後：身近な素材の著作権について、サイトでクイズに答えて知識の確認をする (2.0H)			
	13 回	プレゼンテーション作成検定 3 級問題の演習				事前：総合問題 4 などを復習する (2.0H) 事後：プレゼンテーション作成検定 3 級問題の復習 (2.0H)			
	14 回	プレゼンテーション作成検定 2 級問題の演習				事前：総合問題 5 などを復習する (2.0H) 事後：プレゼンテーション作成検定 2 級問題の復習 (2.0H)			

	15 回	スライド作成の総復習 (PowerPoint)	事前：テキスト、プリントの総復習 (2.0H) 事後：プレゼンテーション作成検定の復習 (2.0H)
	16 回	PowerPoint の実技試験	
テキスト	『よくわかる 初心者のための Microsoft PowerPoint 2016』、FOM 出版、1,296 円 (税込み)		
参考資料等	【購入を必須としないもの】 PowerPoint 以外のソフトの操作、その他に関しては適宜プリントを配布します		
授業の評価 方法・基準	課題作成 30%、スライドの発表 10%、実技試験 60%		
履修条件	タイピングはある程度できることが望ましい		
関連科目・次の ステージ	情報機器演習で学習した Word&Excel の基本操作をよく復習してください		
オフィスワーカー	授業の前後 (お昼休みなど)		
受講生への メッセージ	情報機器演習で学んだコンピュータの基本操作を元に、教育現場で実際に役立つコンピュータの活用方法を学びましょう。		

科目区分	専門	科目名	教育機器演習	担当者	新垣さき・又吉斎・ 眞喜志悦子	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	小学校二種免許必修、幼稚園二種免許必修、保育士資格選必						
卒業要件との関連性	基礎教養としての技能を習得する。								
授業の到達目標	教育・保育現場等におけるコンピュータ及び教育機器についての基本的な技能方法の習得をめざし、実践する力を身につける。								
授業概要	本講義では教育機器の基礎・基本を学び、PowerPoint を活用した教材作成、写真を取り込んだムービー作成等の実習を通し、教育現場・保育現場でのコンピュータ活用法を身につける。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1 回	教育機器の意義とその効率的な利用方法について				事後：タイピングの基本ポジションを予習しておく。(2h)			
	2 回	教育機器を活用した教材の作成について				事前：なし 事後：速く正確なタイピングができるよう練習する。(2h)			
	3 回	PowerPoint の基礎 文字入力・編集、クリップアートの挿入、スライドの保存				事前：テキスト第1章「プレゼンテーションの構成整える」を予習しておく。(2.5h) 事後：速く正確なタイピングができるよう練習する。(1h)			
	4 回	PowerPoint の基礎 ファイルの編集、アニメーションの設定、スライドショーの実行				事前：テキスト第2章「スライドのデザインを整える」を予習しておく。(2.5h) 事後：速く正確なタイピングができるよう練習する。(1h)			
	5 回	著作権について理解を深める				事前：どのようなものに著作権があるか調べる。(2h) 事後：速く正確なタイピングができるよう練習する。(1h)			
	6 回	PowerPoint を活用した教材制作① (教材のテーマ設定、教材のレイアウト作成)				事前：幼児向けの絵本や手遊び等を調べ教材制作のテーマを考える。(3h) 事後：速く正確なタイピングができるよう練習する。教材製作計画書の記入をし確認する。(2.5h)			
	7 回	PowerPoint を活用した教材制作② (イラストの作成、素材収集)				事前：テキスト第4章「写真や図表を挿入する」を予習しておく。(2.5h) 事後：速く正確なタイピングができるよう練習する。講義内で終わらなかったイラスト作成を行う(3h)			
	8 回	PowerPoint を活用した教材制作③ (教材作成、編集)				事前：テキスト第3章「表やグラフを挿入する」を予習しておく。(2.5h) 事後：速く正確なタイピングができるよう練習する。講義内で終わらなかったイラスト作成、画像の並びを整えておく。(3h)			
	9 回	PowerPoint を活用した教材制作④ (教材作成、編集)				事前：テキスト第6章「アニメーションを設定して動きを付ける」を予習しておく。(2h) 事後：速く正確なタイピングができるよう練習する。講義内で終わらなかったイラスト作成、画像の並びを整えておく。(3h)			
	10 回	PowerPoint を活用した教材制作⑤ (教材作成、編集、発表に向けてのリハーサル)				事前：テキスト第7章「スライドショーを実行する」を予習しておく。(2h) 事後：速く正確なタイピングができるよう練習する。教材アニメーションの確認をする。(3h)			
	11 回	教材発表、PowerPoint まとめ				事前：教材発表に向けて役割分担、確認をしておく。(3h) 事後：速く正確なタイピングができるよう練習する。(1h)			
	12 回	Word の活用・Excel の活用				事前：配布する Word と Excel の課題をする。(3h) 事後：速く正確なタイピングができるよう練習する。(1h)			
	13 回	ムービーの作成① (画像の取り込み、音楽の取り込み)				事前：ムービーで使用する写真素材の収集をする。(3h) 事後：速く正確なタイピングができるよう練習する。(1h)			
	14 回	ムービーの作成② (ムービー編集)				事前：ムービーの構成を考える。(2.5h) 事後：速く正確なタイピングができるよう練習する。(1h)			
	15 回	総論				事前：テキストを読み返し、苦手分野を確認しておく。(3h) 事後：タイピング練習、これまでの学習の総復習を行う。(2h)			
	16 回	試験							
テキスト	Power Point2016 基本マスターブック/株式会社インプレス/井上香緒里&できるシリーズ編集部								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 『30 時間でマスターWord&Excel2016』実教出版、ひと目でわかる PowerPoint2016/日経 B P 社								
授業の評価方法・基準	①テスト 50% ②課題 40% ③発表・態度 10% で評価する								
履修条件	情報機器操作で学習した Word や図形の挿入等について復習しておいてください。								
関連科目・次のステージ	情報機器操作で学んだ Word, Excel の基礎的技術の活用になります。講義後は復習を心がけ、レポートやゼミナール等でもパソコン活用を行い技能習得を目指しましょう。								
マイスター	新垣：火曜日の 5 講目 又吉：月曜日 3 講目 眞喜志：講義前後の時間								
受講生へのメッセージ	グループワークを取り入れながら楽しくパソコン技術が習得できるよう講義を心がけます。みなさんも積極的に講義に参加し保育・教育で活用できるパソコン技術を習得しましょう！								

科目区分	専門	科目名	教育実習指導	担当者	桃原亮昌	授業形態	講義	単位数	1
卒業要件	選泌	免許・資格要件等		小学校二種必修					
卒業要件との関連性									
授業の到達目標		教育実習のねらいを明確に把握し、教育実習の心構えや内容(観察・参加・授業)及び指導方法、服務等について具体的な事例を通して実践的に学び、教育実習の実践に備える。							
授業概要		教育実習に関する資料や先輩(本大学卒業生)の実践資料を有効活用し、教育実習について理解を深め、実践的指導力の向上を目指し、学生と教員の双方向で授業を展開する。							
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーションと教育実習のねらいの明確化			教育実習のねらいを調べまとめる				
	2回	教育実習に取り組むにあたって			教育実習前に学んでおくことをまとめる				
	3回	小学校教員の特性と教員のあり方			学校現場の教員の役割についてまとめる				
	4回	学校経営と運営組織			学校経営方針と学校組織を調べまとめる				
	5回	学級担任の仕事			学級担任の出勤から退勤までをまとめる				
	6回	学級経営案の立て方			学校教育目標と一貫性をもたせまとめる				
	7回	生徒指導と学校の危機管理			問題行動と危機管理体制を調べまとめる				
	8回	教育実習の内容(・(実習のしおり」配布)			教育実習のしおりを熟読し内容をまとめる				
	9回	教育実習の心構え			教育実習中のマナー等をまとめる				
	10回	観察実習と参加実習の仕方			実習記録簿				
	11回	授業実践を成功させるために			教育実習の諸課題対策についてまとめる				
	12回	教育実習録記録の仕方・(教育実習録配布)			実習記録簿の具体的記入方法をまとめる				
	13回	教育実習の実際・「先輩の体験」より学ぶ			教育実習体験者から成果等を聞きまとめる				
	14回	教育実習の実際・実践授業等の最終確認			実践授業を行う際のキーワードをまとめる				
	15回	教育実習の評価の視点			どう評価されるのか評価規準を基にまとめる				
	16回	まとめ・テスト、教育実習指導」のファイル提出							
テキスト		「実習のしおり」、「教育実習直前指導」、「教育実習録」							
参考資料等		「新教師をめざすための本」(明治図書)、「実習を終えて」(沖縄女子短期大学実践収録32・33号)							
授業の評価方法・規準		学習状況(10%)、テスト(70%)、レポート(10%)、学習ファイル(10%)等で評価する。							
履修条件		児童教育学科初等教育クラスで小学校教諭(幼稚園教諭)を希望する。							
関連科目・次のステージ		実習校についての事前調査 教職実践演習に繋げるようにする。							
オフィスアワー		授業中に紹介及び案内等を行う。							
連絡・メッセージ									

科目区分	専門	科目名	教育実習指導	担当者	渡名喜 舞衣子・ 新垣 さき	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	免許・資格要件等		幼稚園教諭二種免許状：必修					
卒業要件との関連性	幼稚園教育における専門的知識・技能について習得する。								
授業の到達目標	これまでに学んだ幼児教育に関する理論と技術を踏まえ、実際の幼稚園での実習においてどのようにそれを展開するのか考えることができる。また、幼稚園教諭の活動内容について理解を深め、教育実習についての心構えを自分なりに考え、持つことができる。								
授業概要	教育実習に臨むための理論と教育・内容について、現場での対応を考慮しながら学ぶ。また、実習生としての心構え、子どもたちとの関わり、職員の方との関わり方について学び、専門職としての自覚を持つことができるよう日常的に考える。								
授業計画	1 回	オリエンテーション			事後：幼稚園実習に向けての目標を立てる。(0.5h)				
	2 回	教育実習の意義と目的 形態と方法 沖縄県の幼稚園教育の現状			事前：幼稚園教育要領の解説の「序章第2節幼稚園の役割について」を読み予習する。(0.5h) 事後：沖縄県の幼稚園教育について資料を読み返す。(0.5h)				
	3 回	幼稚園教育実習に向けて① 幼稚園の役割・機能、幼稚園教育の理解			事前：幼稚園教育要領の解説の「第1章第1節幼稚園教育の基本」を読み予習する。(0.5h) 事後：配布資料を読み返しポイントを整理する。(0.5h)				
	4 回	幼稚園教育実習に向けて② 一日の流れ 保育内容の理解			事前：ワークシート課題を通し予習する。(0.5h) 事後：配布資料を読み返し一日の保育の流れを押さえる。(0.5h)				
	5 回	幼稚園教育実習に向けて③ 責任実習について			事前：ワークシート課題を通し予習する。(0.5h) 事後：配布資料を読み返し責任実習について復習する。(0.5h)				
	6 回	幼稚園教育実習に向けて④ 指導計画・指導案について			事前：ワークシート課題を通し予習する。(0.5h) 事後：配布資料を読み返し指導計画・指導案のポイントを整理する。(0.5h)				
	7 回	幼稚園教育実習に向けて⑤ 実習の準備(指導案作成)			事前：配布資料をもとに指導案作成をする。(1h) 事後：作成した指導案の振り返りを行い修正版の指導案を作成する。(1h)				
	8 回	幼稚園教育実習に向けて⑥ 実習の準備(模擬保育)			事前：実習で活用できる手遊びやゲーム、製作を調べる。(1h) 事後：講義の振り返りと配布資料を読み返し、配慮事項について考える。(0.5h)				
	9 回	実習課題の意義と課題の持ち方、実習の抱負			事前：実習の目標を立てる。(0.5h) 事後：実習課題を再度確認する。(0.5h)				
	10 回	日誌の書き方と実際			事前：ワークシート課題をもとに日誌の書き方を予習する。(0.5h) 事後：日誌の書き方についてポイントを整理する。(0.5h)				
	11 回	実習事前学習 ※日程調整中(6月中旬までに実施)			事前：事前学習の視点を確認し目標を立てる。(0.5h) 事後：ワークシートにエピソード記録を行う。(1h)				
	12 回	総合まとめの日誌の書き方と実際			事前：ワークシート課題をもとに予習する。(0.5h) 事後：教育実習のしおりのポイントを押さえる。(0.5h)				
	13 回	教育実習の最終確認			事後：実習に向けての目標、課題を確認する。(1h)				
	14 回	(後期) 教育実習の自己評価							
	15 回	(後期) 実習日誌の自己評価、他者評価							
	16 回	(後期) 教育実習の振り返り(評価の開示)							
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説』								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 沖縄女子短期大学『教育実習のしおり』沖縄女子短期大学								
授業の評価方法・基準	現場で重視される取り組みの姿勢、言葉遣いやマナー、配布資料等や準備物の管理、提出期限内の課題等の提出および記録技術を総合的に評価する。								
履修条件	無断で特別な理由なしに3回欠席した場合は教育実習を取り消します。 教育実習中に中間指導に参加します。(離島は訪問指導に中間指導を含めます) A4ファイル(2穴)を必ず用意し、配布資料やワークシートを整理・管理する。毎回持参すること。								
関連科目・次のステージ	これまで受講してきた専門科目と関連付けながら講義を受講すること。後期は保育・教職実践演習につながります。								
オフィスワーク	火曜日5講目								
受講生へのメッセージ	皆さんが主体です。お互いの気持ちの良い授業をつくりましょう。								

科目区分	専門	科目名	教育心理学	担当者	渡名喜 舞衣子	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択必修	免許・資格要件等	小免選択必修						
卒業要件との関連性	・1人1人の子どものさまざまな変化や個性を敏感に捉える感性を身につける。 ・保育者・教育者として教育心理学に関連する専門知識を身につける。 ・子どもを取り巻く社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
授業の到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について教育心理学的な観点を持ち、教育活動を説明できる。さらに、習得した基礎的理論・知識について、具体的場面でどのように活用するかを主体的に考えることができる。								
授業概要	発達、学習、動機づけ、パーソナリティ、学級集団、評価などについての教育心理学における基礎理論について理解する。教育者として、幼児・児童および生徒の「主体的な学び」をどのように支え、豊かな知識や人間性を育むかについて理解を深め、具体的な学習指導や生徒指導と関連づけて考える。								
授業計画及び 時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション (教育心理学とは) 発達(1) (発達)			事後：教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				
	2回	発達(2) (人はどのように発達するのだろうか?)			事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				
	3回	発達(3) (発達を規定する要因、発達を促す教育)			事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				
	4回	学習(1) (学習、子どもの行動はどうやって身につく?)			事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				
	5回	学習(2) (記憶、知識をしっかりと身につけるには?)			事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				
	6回	動機づけ(1) (意欲とは? 意欲の「質」)			事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				
	7回	動機づけ(2) (無気力を防ぎ、意欲を高めるには?)			事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				
	8回	パーソナリティを理解する(1) (パーソナリティの理論、自分らしさとは?)			事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				
	9回	パーソナリティを理解する(2) (パーソナリティの測定)			事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				
	10回	人間関係と社会性 (人間関係の中でどのように発達する?)			事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				
	11回	学級集団(1) (学級集団、学級における教師と子どもの関係)			事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				
	12回	学級集団(2) (学級における仲間関係) 学校不適応			事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				
	13回	発達障害(1) (発達障害とは?)			事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				
	14回	発達障害(2) (知的能力の発達、発達障害のアセスメント)			事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				
	15回	学習指導と教育評価 (学習指導をどのように行う?)			事後：教育心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。				
	16回	定期試験							
テキスト	「実践につながる教育心理学」黒田祐二(編) 北樹出版								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 「月刊誌児童心理」金子書房、「キーワード動機づけ心理学」上淵寿(編) 金子書房								
授業の評価方法・基準	リアクションペーパー(15%)、課題(40%)、試験(45%)								
履修条件	初等教育コースであること。								
関連科目・次のステージ	特別支援教育概論、教育相談概論、カウンセリング概論								
オフィスアワー	月曜日午後・金曜日午前 事前に連絡してくださいと助かります。								
受講生へのメッセージ	復習および学習の深化に向けて、各自「教育心理学キーワード集」のまとめに取り組みましょう。 お互い気持ちの良い授業をつくりましょう。								

48

科目区分	専門	科目名	発達心理学	担当者	渡名喜 舞衣子	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択必修	免許・資格要件等	幼児選択必修・小免選択必修・保育士必修						
卒業要件との関連性	・1人1人の子どものさまざまな変化や個性を敏感に捉える感性を身につける。 ・保育者・教育者として発達心理学に関連する専門知識を身につける。 ・子どもを取り巻く社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につける。								
授業の到達目標	幼児、児童および生徒の心身の発達過程及び学習の過程について学び、保育・教育実践に関わる発達心理学の基礎知識を他者に説明できる。さらに、発達心理学的視点を持ち、子どもの表面的な行動だけでなく、心理的特性や行動の背景や変化の過程にも目を向けた子ども理解に基づいて、保育・教育を実践する考え方を身につけている。								
授業概要	発達心理学の基礎理論や生涯発達の観点から胎児期から青年期までの発達の過程(タテの発達)、「知・情・意」を中心とした各領域の発達の過程(ヨコの発達)について学ぶ。発達の過程や初期経験の重要性、人との相互的にかかわりを通じた発達、遊びや生活を通じた学習の過程について具体的に理解し、保育・教育実践とどのように結びつけるかを考える。								
授業計画及び 時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション 子どもの発達を理解することの意義(1) 発達とは				事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			
	2回	生涯発達の過程(1) 胎児期および新生児期の発達				事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			
	3回	生涯発達の過程(2) 乳幼児期の発達、各領域の発達(1) 身体的機能と運動機能の発達				事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			
	4回	各領域の発達(2) 情緒の発達と自我①				事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			
	5回	各領域の発達(2) 情緒の発達と自我②、人との相互的にかかわりと子どもの発達 基本的信頼感の獲得①				事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			
	6回	人との相互的にかかわりと子どもの発達(1) 基本的信頼感の獲得②、他者とのかかわり				事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			
	7回	人との相互的にかかわりと子どもの発達(2) 子ども相互の関わりおよび子ども集団、子どもの発達を理解することの意義(2) 発達の原理				事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			
	8回	子どもの発達を理解することの意義(3) 発達を規定する要因、発達課題				事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			
	9回	各領域の発達(3) 知覚と認知の発達①				事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			
	10回	各領域の発達(3) 知覚と認知の発達②、(4) ことばの発達と社会性①				事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			
	11回	各領域の発達(4) ことばの発達と社会性②、学習の過程(1) 学びのしくみと発達				事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			
	12回	学習の過程(2) 子どもの生活や遊びをととした学びの過程、子どもの学びと評価				事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			
	13回	各領域の発達(5) 性格の発達				事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			
	14回	生涯発達の過程(3) 児童期・青年期の発達の特徴①				事前：次のテキスト当該ページを読む。 事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			
	15回	生涯発達の過程(3) 児童期・青年期の発達の特徴②				事後：発達心理学のキーワードについて、自分の言葉でまとめる。			
	16回	定期試験							
テキスト	「保育の心理学Ⅰ 実践につなげる、子どもの発達理解」井戸ゆかり(編) 萌文書林								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府								
授業の評価方法・基準	リアクションペーパー(15%)、課題提出(40%)、試験(45%)								
履修条件	心理教育コース・福祉教育コースであること。								
関連科目・次のステージ	子ども理解の心理学								
オフィスアワー	月曜日午後・金曜日午前 事前に連絡してくださいと助かります。								
受講生へのメッセージ	復習および学習の深化に向けて、各自「発達心理学キーワード集」のまとめに取り組みましょう。 お互い気持ちの良い授業をつくりましょう。								

科目区分	専門	科目名	子ども理解の心理学	担当者	柳生崇志	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士資格必修						
卒業要件との関連性	児童教育学科のディプロマポリシーは4点掲げられているが、本科目はそのいずれにも関連する科目内容である。すなわち、子どもの発達と心理学の視点から、心豊かな感性、保育者・教育者としての専門性、主体的に学び続ける力、コミュニケーション能力と協働、等について考察を深め、それぞれの力をつけることを目的とする。								
授業の到達目標	子どもの心身の発達が保育場面における生活や遊びの中でどのように育まれるのかを学び、その発達過程を支援するための知識や方法を習得する。今後行われる各種実習および就職において実際に子どもと接した時に、子どもの発達の状態や過程がわかり適切な支援を行うための基礎的な力を身につけ、その力を発展させるために主体的に考え学び続けようとする態度を形成する。								
授業概要	この科目は、指定保育士養成カリキュラムの「保育の心理学Ⅱ」の教授内容に準拠した演習である。テキスト、スライド、映像教材などを用いながら、各回の授業で設定された課題(実演、ロールプレイング、ディスカッション、小レポートなど)に取り組む。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション(受講案内) 子ども理解における発達の把握			事前：子どもの発達過程についてこれまでに学んできたことを振り返る(0.5H) 事後：配布資料を読み直し、内容を十分に整理・記憶する(0.5H)				
	2回	発達の個人差に応じた保育			第2回～第14回 (通常時；当該授業の前回および当日にとくに指示のない時) 事前：該当する部分のテキストを読む(0.5H) 事後：授業ノートの整理(0.5H) *その他、授業内容・進行に応じて、ディスカッションの準備や課題(小レポートや指導案作成等)への取り組みを授業内で適宜支持する。				
	3回	身体感覚を伴う多様な経験							
	4回	環境としての保育者							
	5回	友だちとかかわり							
	6回	生きる力としての主体性							
	7回	自己主張と自己統制							
	8回	子ども集団と保育							
	9回	生活のなかの学び							
	10回	遊びのなかの学び							
	11回	基本的生活習慣の獲得							
	12回	発達課題に応じた援助とかかわり							
	13回	園児から児童へ							
	14回	地域のなかの発達							
	15回	保育の課題と保育者としての育ち			事前：該当する部分のテキストを読む(0.5H) 事後：定期試験対策計画の立案(0.5H)				
	16回	試験と講評							
テキスト	梅崎高行・柳生崇志編著『保育の心理学Ⅱ』大学図書出版								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 柳生崇志・梅崎高行編著『保育の心理学Ⅰ』大学図書出版 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、および各解説書								
授業の評価方法・基準	総合評価(成績)＝期末試験(50%)＋各種課題(複数合計40%)＋受講態度(10%)								
履修条件	子どもの育ちに関連する科目(特に「発達心理学」)の内容を十分に理解していること。								
関連科目・次のステージ	「発達心理学」「乳児保育」「心理学概論」「カウンセリング概論」など、心理学や発達に関する各科目の内容とリンクさせること。また、これらの科目で得た知識・技能・態度等は学外実習の実践に繋げること。								
オフィスアワー	月曜午後、水曜午前。その他の時間は教場にて案内します。								
受講生へのメッセージ	“Heaven helps those who help themselves.” E-mail: yagyu@owjc.ac.jp 柳生研究室：5階 5番研究室								

科目区分	専門	科目名	子どもの保健Ⅰ-A	担当者	大城・新垣・藤田	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等		保育士必修					
卒業要件との関連性	保育者・教育者としての専門知識を身につける。								
授業の到達目標	子どもが本来持っている発育・発達する能力が十分発揮されるようにするため、主に胎児期から乳幼児期までの身体発育や生理機能、運動機能ならびに精神機能の発達及び健康の概要について理解し、集団生活及び個々人の特性に合わせた適正な保健、保育能力を身につける。								
授業概要	知性豊かで愛情あふれる保育が行えるよう、人間の一生における特徴を理解し、特に子どもの成長・発達や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について具体的に理解する。								
授業計画	1回	オリエンテーション：学習目標、授業概要			事後：保育士になるための要件を考える(1H)				
	2回	子どもの健康と保健の意義			子どもの健康概念、健康課題について考える(1H)				
	3回	「健やか親子21」			事前：子どもの特徴を考える(ワークシート)(2H)				
	4回	母子保健関係法規			事後：母子保健政策の歴史、概要について調べる(2H)				
	5回	生物としての人の成り立ち			事前：受精から妊娠・出産について調べる(2H)				
	6回	出産、避妊、中絶、母親のメンタルヘルス			事後：生命誕生に関する現代的課題を考える(2H)				
	7回	発育期の区分、発育の原則			事前：身体発育の過程や発育パターン、身体的特徴を調べる(2H)				
	8回	新生児期～学童期の身体発育			事後：身体発育に影響を及ぼす因子を調べる(2H)				
	9回	思春期の身体発育、二次性徴			事前：第2次性徴とその課題について調べる(2H)				
	10回	身体発育とその評価等			事後：身体発育の評価方法についてまとめる(2H)				
	11回	生理機能の発達：呼吸器、循環器、免疫			事前：各器官の名称、位置、機能を調べる(2H)				
	12回	生理機能の発達：消化器、排泄、水分代謝			事後：排尿、排便の自立援助を考える(2H)				
	13回	生理機能の発達：体温調節、内分泌、睡眠			事前：各器官の生理機能の働きを調べる(2H)				
	14回	生理機能の発達：感覚、神経、運動機能等			事後：運動機能の発達と遊びの援助方法を調べる(2H)				
	15回	精神機能、情緒・行動発達等			事前：知能や言語の発達、その評価方法について調べる(2H) 事後：人間関係の発達について考える(2H)				
	16回	試験							
テキスト	佐藤益子/中根淳子編著「新版子どもの保健Ⅰ」ななみ書房 沖縄県小児保健協会発行「親子健康手帳」								
参考資料等	授業の中で適宜紹介								
授業の評価方法・基準	定期試験(60%)、レポート、宿題・ミニテスト(30%)、授業態度、討議への参加及び発表等(10%)								
履修条件	授業態度、討議への参加及び発表、提出物等								
関連科目・次のステージ	「乳児保育」等の関連科目を復習すること。また授業で学んだ内容を日常生活で可能な限り実践すること。さらに後期では「子どもの栄養」等につなげて学習を深めること。								
オフィスアワー	授業終了後								
受講生へのメッセージ	この講義を学ぶことにより、子供達へのよりよい関わりや自分自身及び周りの方々の健康づくりへの一助となるよう講義を進めていきますので、活発な討議をしながら共に有意義な講義を作っていきましょう。								

科目区分	専門	科目名	子どもの保健Ⅰ-B	担当者	大城・新垣・藤田	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等		保育士必修					
卒業要件との関連性	保育者・教育者としての専門知識を身につける。								
授業の到達目標	子どもの疾病及び精神保健についてその予防法及び適切な対応について理解し、さらに母体の健康が胎児に与える影響についても理解する。また、保育現場における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解し、保育現場で対応できる能力を身につける。								
授業概要	小児の健康及び疾病に関する特徴及びその時期における健康課題を理解する。特に乳幼児期においては、一人ひとりの個別性を大切にし、子どもや子どもを取り巻く環境に強い関心を持ち、保育や教育等について学び、子どもが環境との相互作用及び人々との集団の関わりの中で成長発達することを理解し、愛情あふれる保育を実践する能力を習得する。								
授業計画	1回	オリエンテーション。小児の病気の特徴。			事後：小児の病気の特徴をまとめる。自分の予防接種歴を調べる。(2H)				
	2回	感染症、予防接種等							
	3回	感染症：消化器。食中毒等			事前：自分が罹患した2つの病気について調べる(2H)				
	4回	川崎病。皮膚疾患。ペット等			事後：感染症対策について感染症対策ガイドラインを確認する(2H)				
	5回	先天性異常。遺伝性疾患、タバコの害			事前：胎児の健康に影響を与える要因について調べる(2H)				
	6回	アレルギー。皮膚病等			事後：アレルギー緊急時対応マニュアルを確認する(2H)				
	7回	病気：循環器。血液。悪性腫瘍等			事前：身体各部の名称を確認する(プリント)(2H)				
	8回	病気：神経系、泌尿器等			事後：各疾患の特徴、治療法についてまとめる(2H)				
	9回	目。耳。鼻。歯。整形外科等			事前：骨格の名称、語彙の意味を調べる(2H)				
	10回	内分泌。慢性疾患。SIDS等			事後：保育園におけるSIDSの予防法、糖尿病患児の対応について確認する(2H)				
	11回	家族関係。社会環境。			事前：現代の家族関係や社会環境の変化が子どもに与える影響を調べる(2H)				
	12回	精神発達課題(乳児、幼児、学童等)			事後：精神発達課題を達成するための方策を考える(2H)				
	13回	虐待。発達障害。			事前：躰・体罰・虐待について考える(2H)				
	14回	保育環境と衛生管理。療養援護等			事後：発達障害児の特性を理解し適切な対応を考える(2H)				
	15回	熱中症。海の危険生物等			事前：年間熱中症発生状況を調べる(2H) 事後：熱中症予防、海の危険生物についてまとめる(2H)				
	16回	試験							
テキスト	佐藤益子/中根淳子編著「新版子どもの保健Ⅰ」ななみ書房 沖縄県小児保健協会発行「親子健康手帳」								
参考資料等	授業の中で適宜紹介								
授業の評価方法・基準	定期試験(60%)、レポート、宿題・ミニテスト(30%)、授業態度、討議への参加及び発表等(10%)								
履修条件	授業態度、討議への参加及び発表、提出物等								
関連科目・次のステージ	「乳児保育」等の関連科目を復習すること。また授業で学んだ内容を日常生活で可能な限り実践すること。さらに後期では「子どもの栄養」、「障害児保育」等につなげて学習を深めること。								
オフィスアワー	授業終了後								
受講生へのメッセージ	この授業で学んだことを、自分の生活に取り入れることで健康作りに役立てるとともに、周りに伝えることで子								

科目区分	専門	科目名	ゼミナール(前期)	担当者	新垣 さき	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等							
卒業要件と関連性	社会の変化に対応し、主体的に学び続ける力を身につけ、協働できる力を身に付ける。								
授業の到達目標	本ゼミナールでは、教育機器を活用し教材作成する力、実践力、問題解決力を習得する。								
授業概要	幼稚園教育要領、新学習指導要領、沖縄県の教育等から教師としてどのような力が求められているかを考え、ゼミナール後期には各自テーマを決め、教育機器（デジタルカメラ、ビデオカメラ、録音機、iPad、パソコン等）やスマホアプリを活用し教材作成を行う。テーマの設定、調査の準備、調査方法の検討、実践、分析方法、実践方法等について、講義、ディスカッション、演習、フィールドワーク等を通し問題解決する力を身に付け、実践力を習得する。								
授業計画	1回	オリエンテーション							
	2回	幼稚園教育要領、新学習指導要領、沖縄県の教育に求められていることは？ 課題の発見①グループ討議			事前：幼稚園教育、小学校教育の課題について考える。 (各 0.5h)				
	3回	新学習指導要領、沖縄県の教育に求められていることは？ 課題の発見②グループ討議			事後：グループ討議を振り返り、教師としての役割を考える。 (各 0.5h)				
	4回	グループ編成・課題設定			事前：課題設定について資料収集する。(0.5h) 事後：課題設定の見直し。(0.5h)				
	5回	フィールドワーク①計画の立案			事前：資料収集(0.5h) 事後：計画の見直し(0.5h)				
	6回	フィールドワーク②計画の検討会			事前：検討会に向けての資料作成(0.5h) 事後：計画の見直し(0.5h)				
	7回	フィールドワーク③事前学習			事前：資料収集、作成(0.5h) 事後：役割分担等の確認(0.5h)				
	8回	フィールドワーク④実施			事前：資料の準備(0.5h) 事後：実施しての課題を考える(0.5h)				
	9回	フィールドワーク⑤振り返り			事前：実施しての課題を考える(0.5h) 事後：次への課題設定(0.5h)				
	10回	ICT教育について考える			事前：これまで受けてきたICT教育について考える。 (0.5h) 事後：ICT教育の課題と活用について振り返る。(0.5h)				
	11回	小学校プログラミング教育について考える①講義			事前：小学校プログラミング教育について資料を集める (0.5h) 事後：小学校プログラミング教育についてポイントを押さえる (0.5h)				
	12回	小学校プログラミング教育について考える②演習（ゲストスピーカーを招いて）			事前：小学校プログラミング教育についてポイントを押さえる (0.5h) 事後：演習の振り返り(0.5h)				
	13回	小学校プログラミング教育について考える③演習（ゲストスピーカーを招いて）			事前：教材作成のテーマ設定に向けて資料収集 (0.5h) 事後：演習の振り返り(0.5h)				
	14回	小学校プログラミング教育について考える④演習（ゲストスピーカーを招いて）			事前：教材作成のテーマ設定に向けて資料収集(0.5h) 事後：演習の振り返り(0.5h)				
	15回	教材制作に向けてテーマ設定			事前：教材作成のテーマ設定に向けて資料収集(0.5h) 事後：テーマの見直し(0.5h)				
	16回	前期まとめ							
テキスト	幼稚園教育要領解説、小学校学習指導要領解説								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 デジタルアーカイブ入門/編集・監修 後藤忠彦、地域文化とデジタルアーカイブ/樹村房 プログラミング教育導入の前に知っておきたい思考のアイディア/教育技術MOOK 等								
授業の評価方法・基準	①個人研究 50% ②作品 25% ③発表・態度 25% で評価する。								
履修条件	ゼミナールは後期も受講することが条件です。								
オフィスアワー	火曜日の5講目								
受講生へのメッセージ	ゼミナールはみなさんが主体です。各自課題を持って積極的に学びましょう。資料の収集や選択は時間がかかります。なるべく事前に個人研究テーマの資料収集はしておきましょう。								

科目区分	専門	科目名	ゼミナール	担当者	稲福純夫	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格等							
卒業要件との 関連性									
授業の到達 目標	幼児期から学童期の子どもが環境の中で体験活動を通じて身につける力に気づき、保育の場で実践する基礎力を身につけることができる								
授業概要	子どもは自然の中でただ遊んでいるのではなく、遊びの中で成長する力を獲得することを実践で学ぶ。								
授業計画及 び時間外学 習	1回	環境の中における子どもの発達と遊び 子どもフェスタ				事前事後学習90分シラバス通読			
	2回	保育園・幼稚園における活動について 幼稚園の1年				事前事後図書館における調べ学習			
	3回	園外活動の保育計画・安全性 危険な生物(動植物)				事前事後図書館における調べ学習			
	4回	子どもの遊びの研究1 季節と子どもの遊び こいのぼり				事前事後図書館における調べ学習			
	5回	子どもの遊びの研究2自然の中での遊び 蝉取りと好奇心				事前事後図書館における調べ学習			
	6回	子どもの遊びの研究3 植物を用いた遊び 落ち葉遊び				事前事後図書館における調べ学習			
	7回	遊びの研究4 水や土を用いた遊び 水鉄砲 種飛ばし				地域の子どもの環境を調べる。初夏			
	8回	遊びの研究5 子どもの運動量と遊び海遊びシャボン玉				地域の子どもの環境を調べる。初夏			
	9回	子どもの遊びの研究6こどもの集団遊び 缶けり ゴムだん				地域の子どもの環境を調べる。夏			
	10回	子どもの遊びの研究7 一人遊び 粘土・積み木				地域の子どもの環境を調べる。夏			
	11回	子どもの心身の発達と遊び 幼稚園・保育見学 セタ				地域の子どもの行事を調べる。夏			
	12回	自然体験活動 大学周辺 きらきらビーチ サンドアート				学外での活動の下見・時間確認			
	13回	自然体験活動 学外せせらぎ公園夕涼み会 ホタル観察				学外活動日程作成 テーマ設定			
	14回	自然体験活動学外自然の生き物見つけネーチャーゲーム				こま回しチャレンジ振り返り プリント			
	15回	環境を通しての教育 幼稚園教育要領の環境の理解				こま回しチャレンジく			
	16回	試験こま回し 手のひらの上ののせる試技 後期も行う							
テキスト	厚生労働省子ども白書 国民生活白書 幼稚園教育要領(環境・言葉・人間関係・表現・健康)								
参考資料等	季節の子ども遊びと保育活動								
授業の評価 方法・基準	演習自然体験活動 30% 活動記録演習プリント30% 活動レポート20% ゼミ課題(コマまわし)20% こま回しへのチャレンジは通年で行う。授業の予習復習をし理解を深めた主体的学びの時間								
履修条件	子どもの感性を大切に体験活動ができる意欲の高い人。活動の事前事後に活動記録ノートを提出できる人								
関連科目・次 のステージ	幼稚園実習や保育所実習で子どもたちの興味関心に気づき。保育を実践する								
オフィスア ワ ー	ゼミの前後の時間 木曜2校時								
メッセージ									

科目区分	専門科目	科目名	ゼミナール（前半）	担当者	上原 健二	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士資格 選択科目						
卒業要件との関連性	保育者・教育者としての専門的な価値・知識・技術を身につける。								
授業の到達目標	学生自身が関心のあるテーマを設定することにより、個々の学生がそれぞれの課題意識を明確化できるようになる。設定したテーマに関連する情報を必要に応じて収集・整理しつつ、客観的な情報を活用しながら、自身の主張を明確化し、周囲に対して表現できるようになる。								
授業概要	学生個人またはグループとしてテーマを設定し、情報収集・整理、調査を経て最終的にはゼミナール論文をまとめる。学生一人一人の主体的な取り組みによって、ゼミ生同士で相互に学びあいの場を作り上げる。本ゼミナールでは、主に社会福祉に関連するテーマに基づいてゼミナール活動を展開することとし、学内・学外における活動を積極的に活用しながらテーマに応じた支援の実践を学びつつ、課題の整理につなげていく。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	学科内のオリエンテーション 各ゼミナールの紹介、希望調査の実施				「ゼミナール」について理解する。			
	2回	ゼミナールのメンバー調整・確定。上原ゼミナール内のオリエンテーション				自己紹介の内容について考える。 ゼミ活動の年間計画について確認する。			
	3回	各学生の持ち寄ったテーマによる発表及び議論①				各自の関心のあるテーマに沿って、ミニレポートを作成し、個々の発表の準備を行う。			
	4回	各学生の持ち寄ったテーマによる発表及び議論②				各自の関心のあるテーマに沿って、ミニレポートを作成し、個々の発表の準備を行う。			
	5回	各学生の持ち寄ったテーマによる発表及び議論③				各自の関心のあるテーマに沿って、ミニレポートを作成し、個々の発表の準備を行う。			
	6回	各学生の持ち寄ったテーマによる発表及び議論④				各自の関心のあるテーマに沿って、ミニレポートを作成し、個々の発表の準備を行う。			
	7回	各学生の持ち寄ったテーマによる発表及び議論⑤				各自の関心のあるテーマに沿って、ミニレポートを作成し、個々の発表の準備を行う。			
	8回	社会福祉、関連分野の現場を知る（現場訪問：場所は未定）				各自の関心のあるテーマに沿って訪問したい現場を検討し、事前学習を行う。			
	9回	子どもフェスタに向けたテーマを考える。				子どもフェスタに向けて取り組みたいことを考える。			
	10回	子どもフェスタに向けたテーマに沿って、試験的に準備する。				子どもフェスタに向けて試験的に取り組む準備を進める。			
	11回	保育の教材について知る（バルーンアート）合同ゼミ				バルーンアートについて知りたいことをまとめる。			
	12回	夏の現場訪問、合宿に向けた計画を立てる。				夏の現場訪問や合宿先を検討する。			
	13回	夏の現場訪問、合宿に向けて先方と調整を行う。				夏の現場訪問や合宿先について、事前に情報を得る。			
	14回	保育者として保育・福祉現場を知る（現場訪問）				保育・福祉現場の訪問先について調べる。			
	15回	保育者としての資質を高める 沖縄の自然について知る				沖縄の自然について調べる。			
	16回	保育者としての資質を高める チームワークで料理をする				皆で協力して料理を準備する。			
テキスト	特になし								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 藤田哲也編著『大学基礎講座 改増版～充実した大学生活をおくるために～』北大路書房 2006 年 飯田良治他編『課題研究・ゼミナールの手引き』萌文書林 1988 年								
授業の評価方法・基準	ゼミナール論文 60% 小レポート 20% 受講態度 20%								
履修条件	自分自身でテーマを設定し、主体的に取り組むこと。通年科目であるため、前期の受講状況によっては後期の受講の可否に影響があることを踏まえ、積極的に取り組むこと。								
関連科目・次のステージ	前期は施設実習Ⅰを中心とした各種実習、後期は卒業後にに向けた2年間のまとめとしての取り組みを意識して取り組む。								
オフィスアワー	金曜日 5 時間目								
受講生へのメッセージ	社会で起こっている様々な話題を「社会福祉」のフィルターを通して考えてみましょう。								

科目区分	専門	科目名	ゼミナール(算数)(前期)	担当者	濱比嘉宗隆	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士資格選必						
卒業要件との関連性	卒業単位に含まれる。								
授業の到達目標	知識基盤社会と言われる現在においては、これまで習った知識（既習の知識）を活用したり、応用したり、発展させたりする能力が必要になる。本ゼミナールでは、小学1年生から中学3年生の算数の教材（体系、系統性）を調べ、教材の持つ美しさ、面白さ、楽しさを発見し、学び方を学び、児童の思考力、判断力、表現力を身に付けさせる指導法を開拓する。								
授業概要	講義、演習などの授業形式で実施する。学生の自主性を尊重し、テーマ設定から調査研究、まとめ、発表等主体的に関わらせ、実践的な学ぶ力を育成する。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	ゼミナールの進め方、研究、方法について説明・確認				事後： 所属ゼミの確認、次回の準備			
	2回	各領域について調べる				事前： シラバス及びテーマ内容等の確認 事後： 研究テーマ等の確認、次回の予習			
	3回	個別又はグループによるテーマ設定				事前： テーマの予習 事後： テーマの振り返りと予習			
	4回	個別又はグループによる調査研究①				事前： テーマの予習 事後： テーマの振り返りと予習			
	5回	個別又はグループによる調査研究②				事前： グループの役割分担、学習の進め方の確認 事後： テーマの振り返りと予習			
	6回	個別又はグループによる調査研究③				事前： グループの計画に基づいた学習 事後： グループの計画に基づいた学習			
	7回	個別又はグループ調査研究に対し、意見交換				事前： グループの計画に基づいた学習 事後： 中間発表の準備			
	8回	個別又はグループによる調査研究④				事前： 中間発表の準備 事後： 中間発表の振り返り			
	9回	個別又はグループによる調査研究　まとめ①				事前： グループの計画に基づいた学習 事後： グループの計画に基づいた学習			
	10回	個別又はグループによる調査研究　まとめ②				事前： グループの計画に基づいた学習 事後： 調査研究のまとめ			
	11回	個別又はグループによる調査研究　まとめ③				事前： 調査研究のまとめ 事後： 調査研究のまとめ			
	12回	個別又はグループによる調査研究　まとめ④				事前： 発表準備 事後： 発表準備			
	13回	個別又はグループによる意見交換①				事前： 発表準備 事後： 発表の振り返りと準備			
	14回	個別又はグループによる意見交換②				事前： 発表の振り返りと準備 事後： 発表の振り返りと準備			
	15回	研究発表①				事前： 発表の振り返りと準備 事後： 発表の振り返り			
	16回	研究発表②							
テキスト	「小学校学習指導要領解説　算数編」文部科学省、算数教科書								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 協働研究協力校指導案綴								
授業の評価方法・基準	各テーマについての調査研究・発表・まとめ 100%								
履修条件	教科専門算数								
関連科目・次のステージ	各教科等との学び、系統性と関連付ける。								
オフィスワー	月曜日の午後、金曜日の午前。事前にアポイントメントをとること。								
受講生へのメッセージ	卒業後、論文を書く時の一助になります。								

科目区分		科目名	ゼミナール	担当者	桃原亮昌	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等							
卒業要件との関連性									
授業の到達目標	「読みの世界を広げる」のテーマのもと、沖縄、日本、世界の三領域の絵本教材をグループで実践的に研究し、成果をまとめ発表する。研究したものを小学校や幼稚園で実践し、今後に生かす。また地域教育施設等を視察し図書館教育や読書教育補について学ぶ。								
授業概要	(1) 教材の読みについて、各グループで研究を行う。 (2) 読みの楽しさを学ぶとともに小学校・幼稚園において活動を行い、研究内容を実践的にまとめる。 (3) 公立図書館や公民館等の教育施設等を視察したり、読書教育実践者からの学びを通して研究をまとめる。								
授業計画及び時間外学習（時間）	1回	ゼミ概要の説明、ゼミの進め方、役割分担				ゼミナール学習についての予習及び確認			
	2回	「読みの世界に広げる」「読書の意義」について				読書の意義について調べる			
	3回	グループ編成及び教材の理論研究				絵本全体についてグループでまとめる			
	4回	研究のまとめ方について(理論研究)				理論の研究項目をまとめる			
	5回	教材の選定及び読み聞かせ実践研究				沖縄、日本、世界の絵本のよさを調べる、			
	6回	教育施設視察				視察しての学びをまとめる			
	7回	各グループの事例研究①				沖縄、日本、世界の絵本について調べる			
	8回	各グループの事例研究②				沖縄、日本、世界の絵本について調べる			
	9回	視点を踏まえた教材づくり				3領域の絵本の読み聞かせ練習			
	10回	小学校授業実践準備(読み聞かせ・レク等)				小学校実践の事前練習			
	11回	小学校での授業実践				小学校で実践しての感想をまとめる			
	12回	小学校授業実践の反省・まとめ				小学校実践を終えて成果と課題をまとめる			
	13回	幼稚園授業実践準備(読み聞かせ・レク等)				幼稚園実践の事前練習			
	14回	幼稚園での授業実践				幼稚園で実践しての感想をまとめる			
	15回	幼稚園授業実践の反省・まとめ				幼稚園実践を終えて成果と課題をまとめる			
	16回	実践のまとめ及び評価				前期のまとめと後期の展望をまとめる			
テキスト	「読書教育への招待」国立教育研究所編 東洋館出版社								
参考資料等	ゼミナールの中で適宜紹介する。								
授業の評価方法・規準	授業実践(10%)、実践記録(10%)、授業態度(10%)、ワークシートまとめ(10%)、実践研究 レポートのまとめ及び発表(60%)で評価。								
履修条件	児童教育学科初等教育クラスで読み聞かせ等、読書活動に意欲のある。								
関連科目・次のステージ	図書館の本を多く読んでおくこと。 小学校等、学校現場で実践的に生かすことができる。								
オフィスアワー	授業中に紹介及び案内等を行う。								
連絡・メッセージ									

科目区分	専門	科目名	ゼミナール（前期）	担当者	玉城哲人	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	免許・資格要件等	なし						
卒業要件との関連性	心豊かな感性、保育者・教育者としての専門知識・価値・技術、学び続ける力、共同できる力を身に付ける。								
授業の到達目標	保育の現場で、子ども達の「豊かな感性」を大事にした造形活動の実践が出来ることを到達目標とする。								
授業概要	・ 保育所、幼稚園、児童館での責任実習に生かせる講義や演習を進める ・ 講義、演習を通して、乳児及び幼児の発達や特性を学ぶ ・ 自主制作することで、表現する楽しさや面白さを体得し、豊かな感性を磨く								
授業計画及び時間外学習(時間)	1 回	オリエンテーション：ゼミナールの内容説明、受講心得、評価の方法				事後：配布資料の読み返し（0.5H）			
	2 回	造形活動の基本：準備と計画、活動の導入、活動での関わり方、活動の終え方				事前：配布資料の予習（0.5H） 事後：配布資料の読み返し（0.5H）			
	3 回	乳児・幼児期の年間造形活動カリキュラムについて				事前：配布資料の予習（0.5H） 事後：配布資料の読み返し（0.5H）			
	4 回	[0～2歳児]乳児期の生活と造形（外遊び・室内遊び）				事後：配布資料の読み返し（0.5H）			
	5 回	[3歳児]様々な素材の道具との出会い（演習1）				事後：配布資料の読み返し（0.5H）			
	6 回	[3歳児]素材や遊具で繰り返して遊ぶ（演習2）				事後：配布資料の読み返し（0.5H）			
	7 回	[4歳児]素材や道具を繰り返して遊ぶ（演習3）				事後：配布資料の読み返し（0.5H）			
	8 回	[4歳児]意識して工夫を楽しむ（演習4）				事後：配布資料の読み返し（0.5H）			
	9 回	[5歳児]目的を持って表現に取り組む活動（演習5）				事後：配布資料の読み返し（0.5H）			
	10 回	[5歳児]それぞれの思いを表現し合う活動（演習6）				事後：配布資料の読み返し（0.5H）			
	11 回	バルンアートの技能の習得（演習7）				事後：演習の復習（2H）			
	12 回	部分責任実習指導案の題材収集				事後：題材収集（1H）			
	13 回	部分責任実習指導案の作成①				事後：指導案の作成（1H）			
	14 回	部分責任実習指導案の作成②				事後：指導案の作成（1H）			
	15 回	実習へ向けての準備				事後：実習準備（3H）			
	16 回	まとめ							
テキスト	なし								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 保育園・幼稚園の「造形遊び」（成美堂出版） 「こどもの造形」（ひかりのくに）								
授業の評価方法・基準	部分責任実習指導案（保育所・幼稚園・児童館）の作成及び実践報告50％制作提出物20％、大学祭ゼミナール活動及び自主活動20％、受講態度10％、総合的に評価する								
履修条件	児童教育学科2年次、教科専門図工及び保育の表現技術図工の単位を取得した学生								
関連科目・次のステージ	ゼミナール（後期）								
オフィスワーク	月曜日 3校時、 金曜日 5校時、プレイルーム、又は玉城研究室 5階 18番								
受講生へのメッセージ	・ 保育所、幼稚園、児童館において、責任実習で造形活動に取り組める学生を希望する ・ 進度によって、授業内容を変更する場合がある								

科目区分	専門	科目名	小波津ゼミナール	担当者	小波津 美奈子	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士選必						
卒業要件との関連性	保育・教育活動の実践に即応する技能を習得する。								
授業の到達目標	①ゼミナールのテーマ音楽・表現について積極的に興味・関心をもち、自ら進んで学習し実践への意欲を高め理解する。 ②他クラスの学生との有意義なディスカッションを通して、コミュニケーション能力を高め身に付ける。								
授業概要	ゼミナールのテーマを基礎にしながら、様々な素材（保育所実習の振り返り、新聞記事、論文、フィールドワーク等）を基にグループワークを行い、自己覚知につなげる。さらに、個別の関心に基づいた調査・研究・発表・制作等を行い専門職業人としての資質をより深めていく。								
授業計画	1回	オリエンテーション（全体）ゼミナールの説明 各教員のテーマ説明			事後：オリエンテーション内容の理解復習（1H）；				
	2回	保育所実習Ⅰを振り返る(実習報告)			事前：保育所実習Ⅰの資料と共に振り返る（1H） 事後：ゼミの振り返りと実習課題を見極める（1H）				
	3回	実習から見出した課題に取り組む。①			事前：保育所における幼児の姿を探る（1H） 事後：幼児理解と音楽技術の振り返り（1H）				
	4回	実習から見出した課題に取り組む ②			事前：幼稚園児の姿を探る（1H） 事後：ゼミの振り返りと幼児理解を見直す（1H）				
	5回	実習から見出した課題に取り組む ③			事前：自己課題を見出し取り組む（1H） 事後：ゼミの振り返りと幼児理解を見直す（1H）				
	6回	課題発表			事前：自己課題に取り組む（1H） 事後：ゼミ振り返りと自己課題と向き合う（1H）				
	7回	保育園へのフィールドワーク			事前：保育園児の姿を探る（1H） 事後：幼児理解と音楽技術の振り返り（1H）				
	8回	幼稚園へのフィールドワーク			事前：幼稚園児の姿を探る（1H） 事後：幼児理解と音楽技術の振り返り（1H）				
	9回	福祉施設へのフィールドワーク			事前：福祉施設を調べる（1H） 事後：見分したことをレポートにまとめる（1H）				
	10回	児童館へのフィールドワーク			事前：利用者の姿を探る（1H） 事後：見分したことの振り返り（1H）				
	11回	各施設の振り返りと共通理解			事前：利用者の方と自分の姿を知る（1H） 事後：ゼミの振り返り（1H）				
	12回	実習へ向けての取り組み①			事前：自己課題と自分の姿を探る（1H） 事後：ゼミ振り返りと自己課題の取り組み（1H）				
	13回	実習へ向けての取り組み②			事前：実習準備（1H） 事後：ゼミ振り返りと自己課題の取り組み（1H）				
	14回	実習へ向けての取り組み③			事前：実習準備（1H） 事後：自己課題取り組み発表準備（1H）				
	15回	取り組み発表			事前：発表の準備（1H） 事後：ゼミ振り返りとその後の課題（1H）				
	16回	まとめ							

-60-

テキスト	特に指定しない
参考資料等	【購入を必須としないもの】 授業に関連する新聞・雑誌等を参考とする。
授業の評価 方法・基準	グループワークへの参加度、個々の学生の「テーマ設定」から「まとめ」に至る作業の進捗状況 30%・積極的な学習態度 30%、学習成果 40%により評価する。
履修条件	研究テーマに向かい積極的に日々向上心を持って関わろうとするもの
関連科目・次の ステージ	研究テーマに向かい技術の向上・獲得、及び課題について主体的に学ぶ。各実習施設において実習となり、後期、全専任教員が関わる「保育・教職実践演習」へと繋げる。
オフィスワー	火曜日・金曜日Ⅱ
受講生への メッセージ	常に感性に触れる機会を持ち、心豊かに沖縄の自然に敏感であれ！

科目区分	専門	科目名	ゼミナール(前半)	担当者	廣瀬真喜子	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士資格選択科目						
卒業要件との関連性	保育者・教育者としての専門知識・価値・技術を身につける								
授業の到達目標	ゼミナールは保育士資格取得のための選択必修科目の1つである。1年間のゼミ活動を通して、保育に関する様々な視点からの学びについて深め合い、自身の課題に取り組み、セミナー報告書としてまとめる。ゼミナールの教員、仲間との人間関係を通して、保育者として必要な協働することを身につける。主体的に課題に取り組む姿勢を身に付け、進路の決定へつなげることを目標とする。								
授業概要	保育に関する様々な視点からの学びを深めるために、現場訪問や教材制作など様々な活動に取り組む。計画から実行までを仲間と話し合いながら進め、協働する力を身に付ける。保育の課題について様々な視点からの考えを取り入れながら、自らの課題について自覚するとともに、進路について考える。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション(ゼミナールとは？クラス分け)				事前：ゼミ活動でやりたいことについて考える (0.5H)			
	2回	ゼミナールの年間計画の設定及び自己紹介				事前：自己紹介の内容について考える (0.5H) 事後：ゼミ活動の年間計画について確認する (0.5H)			
	3回	合同ゼミ保育の教材作成①(エプロンシアターの内容を決定する) 図書館				事前：エプロンシアターの本を図書館で探す (0.5H)。 事後：エプロンシアター作成に必要なものを揃える (0.5H)			
	4回	避難訓練の意義に関するワークショップ(外部講師をお招きして)合同ゼミ				事前：避難訓練について調べておく (0.5H) 事後：学んだ内容について、配付資料等を通して振り返る (0.5H)			
	5回	沖縄の手遊びうたについて(外部講師をお招きして)				事前：沖縄の手遊びについて調べる (0.5H) 事後：沖縄の手遊びについてまとめる (0.5H)			
	6回	保育の教材作成②(材料の準備、型紙の用意、裁断)				事前：分担をして材料の購入をする (0.5H) 事後：手分けして裁断を行う (0.5H)			
	7回	福祉に関する現場について知る(現場訪問・女性相談所) 合同ゼミ				事前：女性相談所について調べる (0.5H) 事後：配付資料等を通して振り返る (0.5H)			
	8回	保育の教材作成③(裁断と裁縫)				事前：エプロンシアター作成に必要な材料を裁断する (0.5H) 事後：裁縫をする (0.5H)			
	9回	保育の教材作成④(裁縫)、子どもフェスタ内容の決定				事前：裁縫をする (0.5H) 事後：子どもフェスタの内容について考える (0.5H)			
	10回	保育の教材について知る(パルーンアート) 合同ゼミ				事前：パルーンアートについて知りたいことをまとめる 裁縫をする (0.5H) 事後：実演の振り返りを行う (0.5H)			
	11回	保育の教材作成⑤(裁断)、夏合宿の計画を立てる				事前：夏合宿で生きたいところを調べる (0.2H) 裁縫をする (0.3H)			
	12回	保育の教材作成⑥(仕上げ)夏合宿の予約をする				事前：夏合宿の場所を調べる (0.5H) 事後：予約をする (0.5H)			
	13回	保育者としての資質を高める 季節の料理について知る				事前：子育て支援センターについて調べる (0.2H) 料理に必要な材料を用意する (0.3H)			
	14回	保育者としての資質を高める 沖縄の保育現場について知る (現場訪問)				夏合宿で子育て支援センターを訪問し、エプロンシアターを披露する (1H)			
	15回	保育者としての資質を高める 沖縄の自然について知る (川遊び)				川遊びを行う中で、学びを深める (1H)			
	16回	保育者としての資質を高める (チームワークで料理をする)				皆で協力してバーベキュー作成を行う (1H)			
テキスト	必要に応じて配布します。								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 大学基礎講座 藤田哲也(編著) 北大路書房								
授業の評価方法・基準	総合評価(成績) = 教材作成への取り組み(30%) + 発表(30%) + 学外研修(30%) + シート作成(10%)								
履修条件	主体的にゼミナール活動に関わることを条件とする。なお、前期の活動参加が不十分な場合、自動的に後期の受講もできなくなるため、ゼミナールの単位も不可となるので注意すること。								
関連科目・次のステージ	前期は保育実習指導Ⅱとの関連、後期は保育・教職実践演習との関連を意識付けて講義を行う。								

オフィスワーカー	月曜日の午前中(前期) E-mail: hirose-m@owjc.ac.jp
受講生へのメッセージ	授業時間外には、保育ボランティアや園見学などを通じた体験的学びを行ったりするなど意欲的に学習を展開すること。児童文化財の制作に関しては、場合によっては、正規のゼミナール活動時間以外にも、活動時間を設ける場合があるが、積極的に取り組むこと。

科目区分	専門	科目名	ゼミナール（前期）	担当者	砂川 麻世	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士選択必修						
卒業要件との関連性	子どもや家庭を取りまく社会環境や地域社会に関心をもち、子育て支援について考察し、保育者として必要な倫理観、専門知識、技能を習得する。								
授業の到達目標	学内外でのゼミナール活動を行う上で、企画・運営を踏まえて協働する力を身につける。さらに、活動の中で気づいたことや感想、課題等をまとめ、発表する力を身につける。また、保育者の子育て支援に関連する関心のあるテーマを見つけ、テーマに沿って調べる、まとめる、発表することができるようになる。								
授業概要	外来講話や学外活動を通して、主体的に考え、関連する内容を深める。その中で、保育者の子育て支援やソーシャルワークの観点と結びつけながら、個人またはグループ単位で関心のあるテーマを考える。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション 年間計画を検討する				事後：子育て支援等ゼミで取り組みたい内容をまとめる (0.5H)			
	2回	図書館利用				事後：配布資料を読み返し、調べる等について振り返る (0.5H)			
	3回	外来講話に向けた企画				事前：外来講話に関する関連資料を読む予習 (0.5H) 事後：企画・運営に関連して自分の課題に取り組む (0.5H)			
	4回	保育士の防災・減災について（ゲストスピーカー予定）				事前：役割分担を確認し順位をする (0.5H) 事後：配布資料等を読み返し、礼状等をまとめる (0.5H)			
	5回	防災・減災と保育者の役割について考える				事前：講演内容と保育指針との関連を調べる予習 (0.5H) 事後：配布資料を読み返す (0.5H)			
	6回	防災・減災と保育者の役割についてまとめる				事前：関連する新聞記事等をスクラップする 予習 (0.5H) 事後：資料をまとめる (0.5H)			
	7回	沖縄県女性相談所について (1)				事前：関連する資料を収集する 予習 (0.5H) 事後：配布資料を読み返す (0.5H)			
	8回	沖縄県女性相談所について (2) 現地視察予定				事前：役割分担された内容を準備する 予習 (0.5H) 事後：配布資料読み返す (0.5H)			
	9回	同 上				同 上			
	10回	沖縄県の DV 等の現状と支援内容について				事前：配布資料を読み、関心のあるテーマを考える 予習 (0.5H) 事後：資料をまとめる (0.5H)			
	11回	施設実習に関連したテーマを考える				事前：配属先の施設に関する概要をまとめる 予習 (0.5H) 事後：配布資料を読み返す (0.5H)			
	12回	保育所実習Ⅱや児童館実習に関連したテーマを考える				事前：配属先に関する実習先の概要をまとめる 予習 (0.5H) 事後：資料をまとめる (0.5H)			
	13回	子どもフェスタについて (1) ゼミのテーマを検討する				事前：関心のあるテーマを考える予習 (0.5H)			
	14回	子どもフェスタについて (2) ゼミのテーマに関して企画する				事前：前回の経過を振り返り企画案を考える 予習 (0.5H) 事後：役割分担された内容に取り組む (0.5H)			
	15回	子どもフェスタについて (3) 具体的作業①				事前：作業に必要な道具を準備する (0.5H)			
	16回	子どもフェスタについて (4) 具体的作業②							
テキスト	改正保育所保育指針、幼稚園教育要領等の解説書								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 授業中に適宜提示する。								
授業の評価方法・基準	プリント課題 40%、グループワークへの参加度 60%								
履修条件	日頃から福祉保育等に関する新聞記事等に関心をもち、情報を収集すること。また、保育現場における子育て支援をイメージしながら、関連づけて学びを深めること。								
関連科目・次のステップ	保育所実習、施設実習、児童館実習等や福祉関連科目に関連するため、実習や現場でのボランティア活動等を活用して関心のあるテーマを探す。								
オフィスアワー	月曜日 9:00～11:00、水曜日 13:00～16:00								
受講生へのメッセージ	子育て支援等に関連づけて学内外での活動を積極的に取り入れます。その際の企画・運営はゼミ生を中心に行いますので、積極的に取り組んでください。その成果については沖女祭等の機会を活用して発表を行います。								

科目区分	専門	科目名	(前期)ゼミナール	担当者	上原 勝晴	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等		保育士選必					
卒業要件との関連性	郷土に誇りを持ち、心豊かな感性を身に付ける。 教育者としての専門知識・価値・技術を身に付ける。								
授業の到達目標	本県の特徴ある自然、歴史、文化の学習、とりわけ、本学の立地する島尻地域の自然、歴史、文化を理解し、語れる力を身に付けるとともに、協働した調査活動等を通して、今後の関連科目の授業や学習支援ボランティア活動、教育実習等に生かせるようにしたい。								
授業概要	講義、演習、フィールドワークなどの授業形式で実施する。学生の自主性を尊重し、テーマ設定から調査研究、まとめ、発表等、一連の学習過程を通して実践力を育成する。また、本学図書館の歴史資料等及び県・市町村等が刊行した資料等を活用し、主体的に学ぶ力を育てたい。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	全体オリエンテーション。各ゼミの紹介、希望調査				事後：所属ゼミの確認、次回の準備(0,5H)			
	2回	本ゼミのオリエンテーション、図書館等の資料の活用				事前：シラバス及び授業内容等の確認(0,5H) 事後：研究テーマ等の確認、次回の予習(0,5H)			
	3回	本県の位置、市町村名、沖縄の自然・歴史・文化の概要(1)				事前：授業の予習(0,5H) 事後：授業の振り返りと予習(0,5H)			
	4回	沖縄の自然・歴史・文化の概要(2)、グループ編成				事前：授業に向けての予習(0,5H) 事後：授業の振り返りと予習(0,5H)			
	5回	グループによる調査研究(1)テーマ設定、活動計画等				事前：グループの役割分担、学習の進め方の確認(0,5H) 事後：授業の振り返りと予習(0,5H)			
	6回	グループによる調査研究(2)				事前：グループの計画に基づいた学習(0,5H) 事後：グループの計画に基づいた学習(0,5H)			
	7回	グループによる調査研究(3)				事前：グループの計画に基づいた学習(0,5H) 事後：中間発表の準備(0,5H)			
	8回	調査研究の進捗状況の確認、中間発表				事前：中間発表の準備(0,5H) 事後：中間発表の振り返り(0,5H)			
	9回	グループによる調査研究(4)				事前：グループの計画に基づいた学習(0,5H) 事後：グループの計画に基づいた学習(0,5H)			
	10回	グループによる調査研究(5)				事前：グループの計画に基づいた学習(0,5H) 事後：調査研究のまとめ(0,5H)			
	11回	グループによる調査研究のまとめ(1)				事前：調査研究のまとめ(0,5H) 事後：調査研究のまとめ(0,5H)			
	12回	グループによる調査研究のまとめ(2)				事前：発表準備(0,5H) 事後：発表準備(0,5H)			
	13回	調査研究の発表(1)				事前：発表準備(0,5H) 事後：発表の振り返りと準備(0,5H)			
	14回	調査研究の発表(2)				事前：発表の振り返りと準備(0,5H) 事後：発表の振り返りと準備(0,5H)			
	15回	調査研究の発表(3)				事前：発表の振り返りと準備(0,5H) 事後：発表の振り返り、試験の準備(0,5H)			
	16回	前期のまとめと試験				なし			
テキスト	特に指定しない。								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 「これだけは知っておきたい琉球・沖縄のこと 新訂版」新城俊昭著。市町村教育委員会編の補助教材(副読本)								
授業の評価方法・基準	定期試験 30%、調査研究取組の評価(発表、まとめ) 70%								
履修条件	沖縄の自然・歴史・文化調査活動に主体的に取り組むこと。								
関連科目・次のステージ	小学校社会、小学校生活科の学習に生かすこと。学習ボランティア、教育実習に生かすこと。								
オフィスアワー	原則としてゼミの授業前後。その他必要に応じて設定する。事前にアポイントをとること。								
受講生へのメッセージ	沖縄の自然・歴史・文化を理解し、誇りを持とう。卒業後の生活に生かすことができるようにしよう。								

科目区分	専門	科目名	特別支援教育概論	担当者	嘉数 睦	授業形態	講義	単位数	1 単位
卒業要件	選択	免許・資格要件等							
卒業要件との関連性									
授業の到達目標	特殊教育の歴史、特別支援教育の理念、制度、教育課程、障害児の理解や支援のあり方を概括的に理解できる。障害の特性や特別支援教育の基礎用語及び基礎的知識を理解している。特別支援学校・学級の目的と教育課程を理解している。自ら課題意識を持って学習し、自分の考えを説明できる力を身につけ、組織的な対応、実践につなげる態度を身につけている。								
授業概要	この授業では、到達目標の達成のため、我が国の特別支援教育までの変遷と障害のある子とない子が可能な限り共に学ぶインクルーシブ教育システムの構築を目指して歩み始めた現状と課題を概説する。特別支援教育の理念、制度、教育課程、基本知識と様々な障害の理解と支援の方法、保護者や関係機関との連携など、実践例を交えながら授業を進める。授業では、視聴覚教材等補助資料を用いて授業内容を理解しやすいよう工夫する。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1 回	オリエンテーション、障害のある子の出生と家族				事後：配布資料(授業計画)の読み返し、課題レポート作成(0.5H)			
	2 回	特殊教育から特別支援教育の歴史、特別支援教育の理念と制度				事前：教科書第1章「特別支援教育の制度と現状」予習(0.5H) 事後：配布資料の読み返しと用語の違いの確認(0.5H)			
	3 回	インクルーシブ教育システム、就学の手続き				事前：教科書第5章「就学までの支援の仕組みとその実際」予習(0.5H) 事後：配布資料の読み返し、就学の流れの確認(0.5H)			
	4 回	小・中学校における特別支援教育の仕組み				事前：教科書第2章「小中学校における特別支援教育の仕組み」3章「特別支援学級、通級による指導の仕組み」予習(0.5H) 事後：配布資料の読み返し、教育課程の違い確認(0.5H)			
	5 回	特別支援学校における教育の仕組み(教育課程、学級編制)				事前：教科書第4章「特別支援学校における教育の仕組み」教科書「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」予習(0.5H) 事後：配布資料の読み返し、教育課程の特色確認(0.5H)			
	6 回	注意欠陥多動性障害、学習障害の理解と支援				事前：教科書第6, 7章「注意欠陥多動性障害、学習障害の理解と支援」予習(0.5H) 事後：配布資料の読み返し、定義の確認(0.5H)			
	7 回	自閉症、情緒障害の理解と支援の実際				事前：教科書第8章「自閉症の理解と支援」、第9章「情緒障害の理解と支援」予習(0.5H) 事後：配布資料の読み返し、課題レポート作成(0.5H)			
	8 回	視覚障害の理解と支援、支援学校の特色				事前：第11章「視覚障害の理解と支援」予習(0.5H)			
	9 回	〃 (予定：県立沖縄盲学校見学)				事後：配布資料の読み返し、課題レポート作成(1H)			
	10 回	聴覚障害、言語障害の理解と支援				事前：教科書第12章「聴覚障害の理解と支援」、第10章言語障害の理解と支援」予習0.5H) 事後：配布資料の読み返し、障害名と特色の確認(0.5H)			
	11 回	肢体不自由の理解と支援				事前：第13章「肢体不自由の理解と支援」予習(0.5H) 事後：配布資料の読み返し、定義の確認(0.5H)			
	12 回	病弱・身体虚弱の理解と支援				事前：教科書第14章「病弱・身体虚弱の理解と支援」予習(0.5H) 事後：配布資料の読み返し、身体障害者手帳とは(0.5H)			
	13 回	知的障害の理解と支援				事前：第15章「知的障害の理解と支援」予習(0.5H) 事後：配布資料の読み返し、療育手帳の確認(0.5H)			
	14 回	途切れない支援の実際				事前：教科書第2章「特別支援教育を支える仕組み」予習(0.5H) 事後：配布資料の読み返し、課題レポート作成(0.5H)			
	15 回	途切れない支援(個別の教育支援計画作成のグループワーク)				事後：ワークシートのまとめ(1H)			
	16 回	定期試験				事前：教科書、配布資料の読み返し(1H) 事後：なし			

テキスト	・大塚 玲編著『インクルーシブ教育時代の教員を目指すための特別支援教育入門』（萌文書林、2015） ・文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』（海文堂出版、2009）
参考資料等	【購入を必須としないもの】 ・尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編 『よくわかる障害児保育』（ミネルヴァ書房 2013）
授業の評価 方法・基準	・定期試験60%、レポート（ショート及び課題）40%で評価。 ・ショートレポートはフィードバックする。ただし、試験及びレポート（課題）はなし。
履修条件	なし
関連科目・次の ステージ	関連科目「障がい児保育Ⅰ，Ⅱ」 授業での知識を活かし、主体的に学ぶ機会として特別支援学校での積極的なボランティア活動を勧める
オフィスワ ーク	授業の前後
受講生への メッセージ	・授業の振り返りと復習、学びの共有のため、毎授業後ショートレポート提出、そして次回にそのまとめ資料を配布する。 ・可能な限り、学校見学等特別支援教育の実際の機会を持つので日常的に特別支援教育に関する情報に関心を持つこと。 ・課題の提出期限は厳守すること。

科目区分	専門	科目名	特別活動の指導法	担当者	仲西 起實	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等		小学校二種選必					
卒業要件との関連性									
・ 小学校「特別活動」について理解を深め、授業者としての知識、資質を高める									
授業の到達目標	「集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団活動の意義等を理解し、行動の仕方を身に付け、話し合いで合意形成や意思決定ができ、生き方を深く考え、自己実現を図っていく児童を育む」特別活動の理解を深める。								
授業概要	・ 内容：特別活動の目標、内容、基本的な性格等について理解を深め、併せて実践事例からも実感する。 ・ 内容：授業の進め方はワークシートを活用し、毎回学級づくりのゲームを行う。								
授業計画及び時間外学習（時間）	1回	オリエンテーション、自己紹介			事後：資料の読み直し				
	2回	教育法規との関連、学習指導要領の改定、特別活動の改訂			事前：「学習指導要領」等の背景を調べる（0.5h） 事後：「学習指導要領」理解を深める（0.5h）				
	3回	特別活動の目標、特別活動の基本的な性格と教育的意義			事前：「特別活動の改訂」を調べる（0.5h） 事後：「特別活動の改訂」理解を深める（0.5h）				
	4回	特別活動と各教科、道徳等との関連			事前：「各教科等との関連」を予習する（0.5h） 事後：「各教科等との関連」理解を深める（0.5h）				
	5回	特別活動と生徒指導との関連 【いじめについて】			事前：「生徒指導との関連」を予習する（0.5h） 事後：「生徒指導との関連」理解を深める（0.5h）				
	6回	学級活動の目標と内容 【(3) キャリア形成と自己実現】			事前：「学級活動の目標内容」等予習する（0.5h） 事後：「学級活動の内容」等理解を深める（0.5h）				
	7回	学級活動の指導計画			事前：「各教科等との関連」を予習する（0.5h） 事後：「各教科等との関連」理解を深める（0.5h）				
	8回	話し合い活動の実際（映像等）の視聴、感想・意見交換			事前：「話し合い活動」を思い出しまとめる（0.5h） 事後：「話し合い活動」理解を深める（0.5h）				
	9回	児童会、クラブ活動の目標と内容			事前：「児童会、クラブ活動」を思い出す（0.5h） 事後：「児童会、クラブ活動」理解を深める（0.5h）				
	10回	学校行事の目標と内容、指導計画			事前：「学校行事」を思い出しまとめる（0.5h） 事後：「学校行事」理解を深める（0.5h）				
	11回	学校行事（文化的行事）実践			事前：「文化的行事」を思い出しまとめる（0.5h） 事後：「学習発表会」等行事の理解を深める（0.5h）				
	12回	教育課程全体で取り組む特別活動の指導 【障がい児対応、カウンセリング】			事前：「教育課程」を予習する（0.5h） 事後：「教育課程」の理解を深める（0.5h）				
	13回	学校行事の実際（映像等）視聴、感想・意見交換			事前：「学校行事」を思い出しまとめる（0.5h） 事後：「5つの学校行事」の理解を深める（0.5h）				
	14回	家庭・地域住民や関係機関との連携			事前：「地域や家庭等」連携を思い出しまとめる（0.5h） 事後：「地域や家庭等」との連携の理解を深める（0.5h）				
	15回	特別活動の全体計画の具体的案の作成			事前：小学校の「全体計画」を見てまとめる（0.5h）				
	16回	まとめと最終テスト			事後：「全体計画の一部」具体的案を作成する（0.5h） 【振り返りと再確認】				
テキスト	「小学校学習指導要領解説 特別活動編」 文部科学省著								
参考資料等	【購入を必要としないもの】 図書館の雑誌等、適宜紹介する								
授業の評価方法・基準	定期試験（60％）、ミニテスト（20％）、提出物（）、発表等（態度）は加点とする。 特別の理由がない遅刻は減点とする。								
履修条件	テキストを購入しておく。								
関連科目・次のステージ	前もってテキストを読み、疑問や意見を持って（メモ）授業に参加する。 豆テストが返された日に間違い箇所を訂正し、再理解する。								
オフアワー	授業終了後								
受講生へのメッセージ	質問や意見など発表し合い、みんなで授業をつくっていきましょう。								

-68-

科目区分	専門	科目名	教育制度論	担当者	上原 勝晴	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状						
卒業要件との関連性	保育者・教育者としての専門的知識、技能を身に付ける。								
授業の到達目標	現在の教育制度について、学校教育、幼児期の教育、社会教育等に関する教育法規の基礎的な知識を身に付け、教員や保育者としての資質能力を育成する。また、今日の教育問題にも関心を持ち、その解決に向け、努力していく態度を育成する。								
授業概要	学校の教育制度を中心に日本国憲法や教育基本法等の教育法規を基に、学校教育法、学校教育法施行規則、地方公務員法及び教育公務員特例法等の関連法令を中心に授業を進める。また、必要に応じて、教育判例や新聞記事等を活用し理解を深めるとともに、本県教育の課題や今日的な教育問題についても考えさせたい。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション、学校制度を学習する意義等				事後：シラバスの確認、資料の読み返し(0,5H)			
	2回	教育の基本に関する法規(1)日本国憲法				事前：教育法規の用語の確認等及び復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	3回	教育の基本に関する法規(2)教育基本法①				事前：日本国憲法の読返しと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	4回	教育の基本に関する法規(3)教育基本法②				事前：教育基本法を読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	5回	学校教育の制度(1)学校の範囲・設置・目的				事前：学校教育法の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	6回	学校教育の制度(2)学習指導要領の意義、教育課程の規定				事前：関係法規の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	7回	学校教育の制度(3)教育課程の編成、教科書制度				事前：関係法規の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	8回	学校教育の制度(4)児童生徒の管理①(就学義務、懲戒)				事前：関係法規の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	9回	学校教育の制度(5)児童生徒の管理②(いじめ防止)				事前：いじめ防止対策推進法の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	10回	学校教育の制度(6)児童生徒の管理③(学校保健安全、給食)				事前：学校保健安全法等の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	11回	教職員の制度(1)教員の資格、任用、職務				事前：関係法規の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	12回	教職員の制度(2)教員の服務、懲戒				事前：関係法規の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	13回	教職員の制度(3)教員の研修、校務分掌、職員会議				事前：関係法規の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	14回	社会教育の制度(1)社会教育及び生涯学習				事前：社会教育法の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	15回	教育行政の制度(1)教育委員会の組織、本県教育の目標				事前：なし 事後：試験準備(1H)			
	16回	試験							
テキスト	特に指定はしない。参考資料等の教育制度に関する資料を授業中に適宜提示する。								
参考資料等	【購入を必須としないもの】・「教育関係法令集」沖縄女子大学 津留健二 著 ・「教育小六法」学陽書房・三省堂、・「教育制度論」高妻紳二郎 編著 ミネルブア書房								
授業の評価方法・基準	試験 80%、豆テスト・プリント課題 20%								
履修条件	日常的に学校教育や保育に関する情報に関心をもつこと。								
関連科目・次のステージ	日本国憲法や教師論及び教育課程にかかる関連科目について学習すること。学んだことを教育実習やインターンシップ等で生かすこと。								
オフィスアワー	金曜日の 14:00～17:00、水曜日 15:00～17:00 その他必要に応じて設定する。事前にアポイントをとること。								
受講生へのメッセージ	教師を目指す皆さん、この授業をととして、学校教育が法令等を基に運営されていること、不祥事の防止と自分の身を守るためにも法令遵守(コンプライアンス)に徹することの大切さなどの学びを通して、教育法規の基礎的な知識を習得しましょう。								

科目区分	専門	科目名	家庭支援論	担当者	垣花	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等		保育士必修、児童厚生2級指導員必修					
授業の到達目標	○少子化や核家族化など、現代の家庭の現状と課題を明確にし、子ども・親・家庭に対する支援について学ぶ。 ○子育て家庭の生活に直接影響を及ぼす様々な社会情勢について学び、保護者の抱える課題とその背景を理解することで、保護者支援の基礎理解を身に付ける。 ○保育現場で実際に支援する際の子ども及び保護者対応の基礎を学ぶとともに、必要に応じて専門機関や地域の社会資源と連携・協力を図り適切な支援を実施するための知識を身に付ける。								
授業の概要	○家族とは何か？家庭とは何か？子育てにおいて家庭・家族の役割を整理し理解する。 ○現代社会における子育てをめぐる問題と課題、その背景について理解する。 ○現代社会における家庭支援の基本的視点を学び、支援を必要としている家庭に対し個々のケースに応じて適切に支援する、又は支援に繋げるための留意点について学ぶ。								
授業計画	1回	オリエンテーション							
	2回	子育てと家族と家庭の歴史と現在							
	3回	沖縄の子育て世帯の現状と課題							
	4回	子育て意識の変化と困難な子育て							
	5回	ひとり親家庭の子育ての現状と課題							
	6回	子どもの貧困と居場所の現状							
	7回	子育て家庭支援の政策動向と展望							
	8回	子ども・子育て支援新制度の現状と課題							
	9回	沖縄県の子育て支援の現状と課題							
	10回	相談・援助者の役割と基本的な態度							
	11回	子育て家庭支援のあり方							
	12回	保育園に通う家庭の支援							
	13回	特別なニーズを持つ家庭と援助							
	14回	児童虐待に対する子ども及び家庭支援							
	15回	デンマークの家庭支援							
	16回	テスト							
テキスト	特になし								
参考書 参考資料等	沖縄子どもの貧困白書【かもがわ出版】 講義ごとに適宜紹介します。								
授業の評価 方法・基準	授業への取り組み状況（10%）、レポート（20%）、テスト（70%）								
履修条件	特になし								
事前・事後 の学習	授業で取り上げた内容について、沖縄県や住んでいる市町村の現状はどのようなになっているのかを新聞等から情報収集を行い、全国・沖縄県・市町村の子育て支援の現状と課題を深める。								
オフィスアワー	講義終了後								
連絡 メッセージ	子育て家庭を取り巻く現状と課題を学びあい、支援者としての保育者の役割について一緒に考えていきましょう！								

科目区分	専門	科目名	児童家庭福祉	担当者	宮本晋一	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士必						
卒業要件との関連性	保育活動の実際に即する知識を習得する。								
授業の到達目標	現代社会における児童・家庭や社会環境、それらを支援するための制度・サービス、相談援助の方法を理解することができる。								
授業概要	この科目では、児童家庭福祉の意義と歴史的背景を基に法制度実施体制、児童家庭福祉施策の現状と課題、児童家庭福祉の専門職・実施者の現状と課題、保育・教育・医療・保健との連携などについて学び、さらに虐待児への取り組みや地域の子育て支援、子どもの食育（子ども食堂）、児童の権利保障などについて事例をもとにして学習する。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション 保育における児童福祉とは何かを考える				事後：児童福祉法について興味と理解を深める			
	2回	保育における児童福祉 社会経済情勢の変容と地域社会の変容				事前：少子高齢化について予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認			
	3回	現代社会と児童・家庭 家庭の質の変容について				事前：児童の福祉ニーズの把握と把握方法予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認			
	4回	児童家庭福祉の意義とその歴史的展開 児童福祉の概念と理念 児童福祉の歩み				事前：児童福祉の理念と意義を予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認			
	5回	児童家庭福祉の意義とその歴史的展開 変化を続ける児童福祉法の歴史的展開と現状 子供観の変遷				事前：児童福祉法の歴史について予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認			
	6回	児童家庭福祉に関する法制度と実施体制 児童福祉の法体系と実施体制				事前：子どもの権利条約と子どもの権利について予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認			
	7回	児童家庭福祉に関する法制度と実施体制 児童福祉の行財政と費用等の保護者負担				事前：専門職及びその連携のあり方について予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認			
	8回	児童家庭福祉施策の現状と課題 少子化と子育て支援サービス				事前：民間サービスの社会的意味を予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認			
	9回	児童家庭福祉施策の現状と課題 母子保健 保育				事前：児童福祉施設の役割を予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認			
	10回	児童家庭福祉施策の現状と課題 児童虐待防止 DV				事前：社会情勢と福祉需要について予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認			
	11回	児童家庭福祉施策の現状と課題 障害児の地域支援 少年非行・情緒障害				事前：情緒障害について予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認			
	12回	児童家庭福祉援助活動の実際 多様な保育ニーズへの対応 相談援助				事前：保育ニーズについて予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認			
	13回	児童家庭福祉援助活動の実際 入所児童の自立支援				事前：少年院と自立支援施設について予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認			
	14回	児童家庭福祉援助活動の実際 次世代育成支援 ひとり親家庭の支援、貧困への対応				事前：子ども食堂について予習 事後：講義資料及びノートの読み返しと確認			
	15回	児童家庭福祉援助技術の活用のためのネットワークづくり 保育・教育・療育・保健・医療との連携				事前：地域社会におけるネットワーク調査 事後：定期試験の確認と試験対策			
	16回	児童家庭福祉サービスを支える人の理解と諸外国の動向 試験							
テキスト	吉田眞理 児童の福祉を支える 児童家庭福祉 萌文書林								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 講義の際に紹介する。								
授業の評価方法・基準	試験、レポート、出席状況等で総合的に判断する。 「秀」（100～90）「優」（89～80）「良」（79～70）「可」（69～60）「不可」（59 以下）								
履修条件	特にありません。								
関連科目・次のステージ	社会福祉と関連づけて復讐すること。								
オフィスアワー	授業終了後に教室で質問を受ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。								
受講生へのメッセージ	この講義を通じて各種実習と進路選択に備えられるように、学びを深めて行きましょう。								

科目区分	専門	科目名	児童家庭福祉	担当者	竹藤 登	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等			保育士必修、児童厚生2級指導員必修				
卒業要件との関連性	保育活動の実際に即応する基礎的理論を習得する。								
授業の到達目標	現代社会における児童家庭福祉の概念を理解する。 児童・家庭福祉の諸制度について理解する。 児童・家庭福祉の具体的な支援方法を理解する。								
授業概要	この科目では、社会福祉の概念、歴史的背景と意義をふまえ、子ども家庭福祉の課題を明らかにし、それに対応する福祉制度サービスの仕組みについて学び、またそれらに対する具体的な支援方法について事例等を通して学習する。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション 現代社会の福祉の概念					事後	資料の整理(0.5)	
	2回	子ども家庭福祉の基礎概念					事後	資料の整理(0.5)	
	3回	子ども家庭福祉を取り巻く状況					事後	資料の整理(0.5)	
	4回	子どもの権利保障					事後	資料の整理(0.5)	
	5回	こどもの家庭福祉の展開					事後	資料の整理(0.5)	
	6回	子ども家庭福祉にかかわる法制度 実施体制					事後	資料の整理(0.5)	
	7回	子ども家庭福祉行政の仕組み					事後	資料の整理(0.5)	
	8回	子ども家庭等機関					事後	資料の整理(0.5)	
	9回	子ども家庭福祉サービスの施設 ①					事後	資料の整理(0.5)	
	10回	子ども家庭福祉サービスの施設 ②					事後	資料の整理(0.5)	
	11回	在宅児童を対象とした子ども家庭福祉サービスの実際 ①					事後	資料の整理(0.5)	
	12回	在宅児童を対象とした子ども家庭福祉サービスの実際 ②					事後	資料の整理(0.5)	
	13回	子ども家庭福祉に関連する地域活動					事後	資料の整理(0.5)	
	14回	子ども家庭福祉サービスを支える人 ①					事後	資料の整理(0.5)	
	15回	子ども家庭福祉サービスを支える人 ②					事後	資料の整理(0.5)	
	16回	テスト							
テキスト	よくわかる子ども家庭福祉 山縣文治編 ミネルバ書房								
参考資料等	【購入を必要としないもの】 毎回プリントを配布する。								
授業の評価方法・基準	期末試験 40% 毎回の授業後のレポートの評価 45% その他授業態度（他の人に迷惑をかけるおしゃべりは不可）及び取組み状況 15%などを評価する。								
履修条件	日常的に、福祉・特に児童福祉に関する情報に関心を持つこと。								
関連科目・次のステージ	社会福祉や児童家庭福祉等で学んだ理論を実際の保育活動に活かせるよう可能な限り実践すること。								
オフィスアワー	授業終了後								
受講生へのメッセージ	理論だけではなく、具体的な現場の状況などの事例を交えて講義します。授業をよく聴くことで理解できるように授業を構成しているので、授業中の無駄なおしゃべりはつつしむようにして下さい。他の人がめいわくします。他の人を気遣える人を目指しましょう。								

科目区分	専門	科目名	児童家庭福祉	担当者	垣花	授業形態	講義	単位	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等		保育士必修					
授業の到達目標	①保育の根拠法である子どもの権利条約や児童福祉法の基礎的な知識を学習し、子ども支援の専門職に求められる資質や役割について学ぶ。 ②支援対象者となる子どもと保護者を取り巻く社会状況を把握し、現在の制度において活用できる社会資源並びに支援事業等について学ぶことで、支援内容に応じた適切な情報提供を行うとともに、専門機関等との連携・協力が円滑に図られるよう知識を身につける。								
授業の概要	①子どもの権利条約や児童福祉法の理念及び趣旨について理解を深める。 ②児童家庭福祉と現代の子どもを取り巻く社会環境との相関について理解を深める。 ③子ども・子育て支援新制度など子どもに関する法制度と実施体制について理解を深める。 ④児童家庭福祉に関わる施設や支援事業について学ぶ。 ⑤沖縄県の子ども・子育て支援の実態と課題についての理解を深める。								
授業計画	1回	オリエンテーション							
	2回	児童家庭福祉の理念と概念							
	3回	子どもと子育て家庭を取り巻く現状と課題							
	4回	児童の権利に関する条約と子ども観①							
	5回	児童の権利に関する条約と子ども観②							
	6回	児童家庭福祉と児童福祉① 日本の児童福祉の理念と歩み							
	7回	児童家庭福祉と児童福祉② 沖縄の児童福祉の歩み							
	8回	子ども・子育て支援新制度① 保育所・認定こども園・幼稚園と地域型保育事業について							
	9回	子ども・子育て支援新制度② 地域子ども・子育て支援事業について							
	10回	子どもの貧困と居場所							
	11回	児童家庭福祉の現状と課題① 児童虐待・DV・少年非行について							
	12回	児童家庭福祉の現状と課題② 障がい児・発達障がい児に対する支援について							
	13回	地域社会における子育て支援							
	14回	沖縄の子どもと子育て支援の現状と課題							
	15回	世界の児童福祉、子ども・子育て支援							
	16回	テスト							
テキスト	特になし								
参考資料等	○沖縄の保育・子育て問題【浅井春夫・吉葉研司 編著】 ○沖縄子どもの貧困白書【沖縄子ども総合研究所編 かもがわ出版】 ○その他講義ごとに適宜紹介します。								
授業の評価方法・基準	授業への取り組み状況（10%）レポート（20%）、テスト（70%）								
履修条件	特になし								
事前・事後の学習	授業で取り上げた内容について、沖縄県や住んでいる市町村の現状はどのようなになっているのかを新聞等から情報収集を行い、全国・沖縄県・市町村の子育て支援の現状と課題を深める。								
オフィスアワー	授業終了後								
連絡メッセージ	現代の子どもと家庭を取り巻く社会の問題や課題について一緒に考えていきましょう！								

科目区分	専門	科目名	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	担当者	長若 道代	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	児童厚生2級指導員資格 必修						
卒業要件との関連性	対人援助の専門職である児童厚生員等の専門性の向上に資するとともに、地域における児童館や放課後児童クラブの役割を踏まえてその学びが社会を捉える新しい視点となることで、社会の変化を理解し対応できる力を身につける。								
授業の到達目標	児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れ、行事などの企画立案等を学ぶ。放課後のこどもの居場所としての機能や役割を学び、利用者への対応、地域との関わりについて知り、児童館・放課後児童クラブの育成支援者としての仕事内容を学ぶ。								
授業概要	・年間活動計画の立て方、日常の活動、行事等の企画立案、実践方法。 ・子ども参画の行事についてグループで作成し発表、現場実習に役立つ資料作成。 ・児童館・児童クラブの現場視察・ボランティア活動のレポート提出。 ・現場で活かせるパペットや教材作り、遊びのワークショップ								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション 講義概要説明				子どもと初めて出会うとき、あなたができることは？			
	2回	児童館・児童クラブの活動のねらいと流れ、計画の立て方				実践例に基づく資料 遊びのワーク			
	3回	遊びの環境構成(施設・遊具・スペース)				遊びの環境の整え方 遊具・教材の紹介			
	4回	遊びを通した育成支援活動の実践例(計画・展開・支援の在り方)				資料・実践例 遊びのワーク			
	5回	プレイワーカー(遊びを支援するもの)について				子どもの支援者としての役割と心得 遊びのワーク			
	6回	育成支援の場におけるグループワーク(集団援助)				集団レク・ 遊びのワーク レシピ集			
	7回	育成支援の場におけるケースワーク(個別援助)				課題のあるケースについて			
	8回	子どもの居場所について				様々な子どもの居場所について 遊びのワーク			
	9回	子育て支援活動				乳幼児の親子支援 遊びのワーク			
	10回	ボランティアの育成・支援(子どもの居場所のボランティア)				ボランティアについて 遊びのワーク			
	11回	生活・学習支援・保護者支援				現場の活動紹介 遊びのワーク			
	12回	保護者・学校・地域との連携				現場の活動紹介 遊びのレシピ集			
	13回	行事・イベントの企画立案作成				グループワーク *職員チーム力を高めるワーク・企画力			
	14回	企画発表会・講評				実践できる内容か、など全員で評価し、共有する			
	15回	テスト・レポート提出							
	16回	まとめと振り返り「現場で求められる実習生とは」				遊びのワーク			
テキスト	・『児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ① 健全育成論』一般財団法人 児童健全育成推進財団編 平成26年9月 ・『児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ② 児童館論』一般財団法人 児童健全育成推進財団編 平成27年8月								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 *教師用指導書 随時								
授業の評価方法・基準	受講姿勢・出席状況・レポート・テストに基づき総合的に行う テスト50%レポート・遊びのワーク30% 授業参加度20% *子ども観、遊びの企画力を重視する。								
履修条件	児童厚生2級指導員資格を希望する者 0～18歳の児童健全育成に関心のある者								
関連科目・次のステージ	・前期は児童館が中心となるが、後期は放課後児童クラブの現場、子どもの居場所についても触れていきたい。 ・後期は健全育成論・法的根拠を学び、児童館・児童クラブの役割と機能をさらに学び、実践者を育成したい。								
オフィスアワー	授業の前後								
受講生へのメッセージ	・子どもは遊びで育つ、遊びの支援者や素敵な大人たちに出会うことによって輝きます。 - 遊び・学び・集いあう子どもの居場所について学んでみませんか、								

科目区分	専門科目	科目名	社会福祉	担当者	上原 健二	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	必修	免許・資格要件等	保育士資格 必修 ・ 小学校教諭二種免許状 選択必修						
卒業要件との関連性	「社会福祉」では、福祉的な価値・理念、歴史、制度、各種サービスを学ぶ。これらは対人援助職である保育者・教育者の専門性の向上に資するとともに、その学びが社会を捉える新しい視点となることで、社会の変化を理解し対応できる力を身につけることにつながる。								
授業の到達目標	社会福祉の概要を理解し、保育（児童福祉）・教育で求められる専門的視点（価値・知識）を身につける。また、わが国における社会福祉の法制度に基づいた実際の運営・展開の状況について理解し、他者に説明できるようになる。								
授業概要	社会福祉の視点を踏まえて現代社会における様々な福祉のニーズを捉え、理解する。理論的な枠組みから社会における社会福祉の役割を捉えながら、歴史の変遷を踏まえて培われてきた理念的な価値を学ぶ。その上で、実際のわが国における法制度、実施体系などの実態を学ぶ。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1 回	オリエンテーション、“社会福祉”についての理解について			事後：社会福祉のイメージの整理と身近な生活からの情報収集。				
	2 回	社会福祉における基本的な視点・考え方			事前：前回配付されたワークシートの記入 事後：授業の振り返りとまとめ				
	3 回	社会福祉の基本的枠組みと価値観・理念			事前：テキスト P10～P11 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ				
	4 回	福祉ニーズの把握の仕方と支援の意義（援助の 4 つの理論的枠組み①：制度政策論）			事前：テキスト P11～P13 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ				
	5 回	福祉ニーズの把握の仕方と支援の意義（援助の 4 つの理論的枠組み②：方法機能論）			事前：テキスト P11～P13 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ				
	6 回	福祉ニーズの把握の仕方と支援の意義（援助の 4 つの理論的枠組み③：その他の理論）、自助・互助・公助・共助			事前：テキスト P13～P16 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ				
	7 回	社会福祉の基本的理念①（ノーマライゼーション、自立生活運動、他）			事前：テキスト P16～P18 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ				
	8 回	社会福祉の基本的理念①（バリアフリー、ユニバーサルデザイン、ウェルビーイング、ソーシャルインクルージョン、他）			事前：テキスト P19～P21 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ				
	9 回	社会福祉の歴史の変遷（欧米を中心に）			事前：テキスト P26～P30 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ				
	10 回	社会福祉の歴史の変遷（日本を中心に、戦後の歩み）			事前：テキスト P34～P37 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ				
	11 回	社会福祉の歴史の変遷（日本を中心に、社会福祉基礎構造改革以降）			事前：テキスト P38～P40 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ				
	12 回	社会福祉の法的枠組み（日本国憲法、社会福祉六法、他）			事前：テキスト P62～P66 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ				
	13 回	社会福祉の法制度（社会福祉法、社会福祉六法、他）			事前：テキスト P66～P75 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ				
	14 回	社会福祉の法制度と実施体系・実施機関			事前：テキスト P77～P88 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ				
	15 回	社会福祉の財源と供給体制			事前：テキスト P89～P97 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ、テスト勉強。				
	16 回	テスト			テスト勉強をする				
テキスト	・『改訂 2 版 新保育士養成講座第 4 巻 社会福祉 / 社会福祉と相談援助』 新保育士養成講座編纂委員会編 全国社会福祉協議会 2015 年 3 月 ・『社会福祉小六法 2018（平成 30 年版）』 ミネルヴァ書房編集部編 ミネルヴァ書房 2018 年 4 月								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 『国民の福祉と介護の動向 2017/2018 年（第 64 巻第 10 号）』厚生労働統計学会 2017 年 9 月 4 日								
授業の評価方法・基準	事前：テキスト P2～P8 の予習 事後：授業の振り返りとまとめ								
履修条件	特になし								
関連科目・次のステージ	社会福祉領域の科目としては、同時期に「児童家庭福祉」が開講されているので平行して学ぶことができる（関連科目）。1 年後期以降には「相談援助」「障がい児保育Ⅰ・Ⅱ」「社会的養護」「社会的養護内容」「家庭支援論」「保育相談支援」などの科目でより具体的な学習につながる（上位科目・関連科目）。また、初等教育コースでは 1 年次夏期に「介護等体験」、心理教育・福祉教育コースでは 2 年次夏期に「施設実習Ⅰ」が予定されており、それぞれの事前学習とも本科目は連動している（上位科目）。日々の生活において、自分の身近な生活やマスコミなどの情報に触れて、社会で起こっている様々な話題を「社会福祉」のフィルターを通して考えてみよう。								

オフィスアワー	金曜日 5 時間目
受講生への メッセージ	皆さんの「社会福祉」に対するイメージはどのようなものですか？この授業で学ぶことで再確認したり、新たな発見があることでしょう。保育や教育と社会福祉がどのように社会でつながり、連携していくのかを学ぶことができればうれしいです。

科目区分	専門	科目名	社会的養護	担当者	砂川 麻世	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	保育士必修						
卒業要件との関連性	子どもや家庭を取りまく社会環境に関心を持ち、特に社会的養護下にある子どもの権利を擁護するために保育者として必要な倫理観、専門知識、技能を習得する。								
授業の到達目標	現代社会における子どもや家庭を取り巻く背景から社会的養護に関する課題を捉え、そこに求められる機能と役割、サービス提供の仕組みを理解し他者に説明できるようになる。また、社会的養護の場面における保育者の役割を理解し他者に説明できるようになる。								
授業概要	児童養護を形成してきた歴史的変遷から現代におけるその意義を確認し、権利擁護の視点から実際の社会的養護の仕組みについてその機能や役割を理解する。また、児童養護と社会的養護の位置づけを明確に捉え、現代社会における社会的養護のニーズと対応する支援体制と保育者の役割について理解する。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション、社会的養護の範囲等について			事後：教科書第1章「社会的養護の理念」復習(2H)				
	2回	児童家庭福祉と社会的養護の関連について			事前：第3章「児童家庭福祉の一分野としての社会的養護」予習(2H) 事後：配布資料を読み返す(2H)				
	3回	児童の権利擁護・日常生活支援・自立支援と社会的養護について			事前：第4章「児童の権利擁護と社会的養護」予習(2H) 事後：配布資料を読み返す(2H)				
	4回	子どもの権利の捉え方について(ゲストスピーカー予定)			事前：2030SDGsについて調べる(2H) 事後：配布資料等を読み返す(2H)				
	5回	子どもの養護の歴史的展開について			事前：第2章「社会的養護の歴史」予習(2H) 事後：配布資料を読み返す(2H)				
	6回	現代社会に暮らす子ども・家庭と社会的養護について			事前：関連する新聞記事等をスクラップする 予習(2H) 事後：配布資料を読み返す(2H)				
	7回	社会的養護の制度と実施大系について			事前：第6章「社会的養護の仕組みと実施体系」予習(2H) 事後：配布資料を読み返す(2H)				
	8回	社会的養護における施設養護、家庭的養護について			事前：第7章「家庭養護と施設養護」予習(2H) 事後：配布資料読み返す(2H)				
	9回	社会的養護の専門職・実施者、専門職の倫理の確立について			事前：第8章「社会的養護の専門職」予習(2H) 事後：配布資料を読み返す(2H)				
	10回	施設養護の特質と基本原理・施設(集団)で暮らすことについて			事前：第9章「施設養護の基本原理」予習(2H) 事後：配布資料を読み返す(2H)				
	11回	施設養護の実際(日常生活・自立支援・家族再統合・地域支援)について ※DVD視聴予定			事前：第10章「施設養護の実際」予習(2H) 事後：DVD視聴に関するワークシートのまとめ(2H)				
	12回	施設養護の実際(治療的・支援的援助)について			事前：同上(2H) 事後：配布資料を読み返す(2H)				
	13回	施設養護とソーシャルワークについて			事前：第11章「施設養護とソーシャルワーク」予習(2H) 事後：章に関連する事例問題を考える(2H)				
	14回	社会的養護の現状(施設等の運営管理、被措置児童等の虐待防止)について			事前：第12章「施設等の運営管理」予習(2H) 事後：社会福祉小六法の関連内容を確認(2H)				
	15回	定期テスト							
	16回	定期テストの解説・総括			事前：定期テストに関する振り返りをする(2H)				
テキスト	『保育実践と社会的養護』井村圭壮・相澤譲治編、勁草書房 最新版								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 保育所保育指針解説書、教育・保育要領、その他授業中に適宜提示する。								
授業の評価方法・基準	テスト 50%、プリント課題 20%、グループワークへの参加度 30%								
履修条件	日頃から福祉保育等に関する新聞記事等に関心を持ち、情報を収集すること。また、施設実習をイメージしながら、関連づけて学びを深めること。								
関連科目・次のステージ	施設実習や児童館実習等と関連するため、学習成果を実習先での子ども理解や実習生の役割に関連づけ実践できるようにして下さい。								
オフィスアワー	月曜日 9:00～11:00、水曜日 13:00～16:00								
受講生へのメッセージ	授業終了後には、施設実習や児童館実習を控えています。そのことをイメージしながら、施設を利用する子ども達の背景、福祉的な支援と保育者の役割とは何かに関心を持ち、実習に役立てられるよう共に学んでいきましょう。								

科目区分	専門	科目名	教科専門 音楽(幼保)	担当者	小波津	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	必修	免許・資格要件等		幼稚園教諭選必、小学校選必					
卒業要件との関連性	幼稚園教育活動の実際に即応する基礎知識と技能を習得する。								
授業の到達目標	将来、教育者として必要な音楽の基礎知識と、それに基づく即戦力を身に付け、広い視野を持ちながら豊かな感性を養う。授業は小学校、及び幼稚園とクラス別に行い内容を深め身に付けていく。								
授業概要	教師に必要な音楽の知識と教養を深め、音楽的感受性と的確な技能を修得する為に、鍵盤楽器（ピアノ）や声楽等を通して、理論と実技を学習し深めていく。								
授業計画	1回	オリエンテーション、学園歌歌唱指導、音楽科の内容・講義方法			事後：学園歌復唱とオリエンテーション内容の理解復讐（1H）				
	2回	幼稚園教育要領における音楽の位置づけ、及びあり方			事前：幼稚園教育要領解説の予習（1H） 事後：授業の振り返りと解説書の理解（1H）				
	3回	幼稚園音楽科が求めるもの			事前：幼稚園児の姿を探る（1H） 事後：幼児理解と音楽技術の振り返り（1H）				
	4回	小学校音楽科が求めるもの（低学年）			事前：要領解説における各学年目標内容予習（1H） 事後：授業の振り返りと音楽技術習得の練習（1H）				
	5回	幼稚園・小学校連携における音楽の役割			事前：幼児期の音楽との接点を探す（1H） 事後：授業の振り返りと音楽技術習得の練習（1H）				
	6回	音楽の持つ可能性			事前：8回目を見据えた可能性を探る（1H） 事後：授業振り返りと音楽技術習得の練習（1H）				
	7回	自己表現の題材作成（歌、楽器、踊り、その他） 発表			事前：2オクターブ技術獲得への練習（1H） 事後：授業の振り返りと音楽技術習得の練習（1H）				
	8回	発表（3分間パフォーマンス）			事前：3分間パフォーマンスへむけての練習（1H） 事後：授業の振り返りと音楽技術習得の練習（1H）				
	9回	体験と音楽（生活科・美術科・体育科をも見据えて）			事前：他教科連携の予習（1H） 事後：授業の振り返りと音楽技術習得の練習（1H）				
	10回	発声法（教壇上・歌唱上）と呼吸表現法			事前：教壇発声と歌唱発声技術を考える（1H） 事後：授業振り返りと音楽技術習得の練習（1H）				
	11回	唱歌を通して見る幼稚園の指導法① （おはようのうた、先生とお友だち、ちょうちょう）			事前：各楽曲を調べ、練習してみる。（1H） 事後：授業の振り返りと音楽技術習得の練習（1H）				
	12回	唱歌を通して見る幼稚園の指導法② （たんじょう日、あくしゅでこんにちは、おかえりのうた）			事前：各楽曲を調べ、練習してみる。（1H） 事後：授業の振り返りと音楽技術習得の練習（1H）				
	13回	唱歌を通して見る幼稚園の指導法③ （かたつむり、線路は続くよどこまでも、とんぼのめがね）			事前：各楽曲を調べ、練習してみる。（1H） 事後：授業の振り返りと音楽技術習得の練習（1H）				
	14回	小学校音楽を見据えた幼児期の音楽の必要性			事前：幼児期に習った音楽を考える（1H） 事後：授業の振り返りと音楽技術習得の練習（1H）				
	15回	胎教から始まる 声、言葉、音楽			事前：自分の出生を聞き取る（1H） 事後：授業の振り返りと音楽技術習得の練習（1H）				

	16 回	テスト 及び、テスト内容の分析、 総括	
テキスト	うたえる・ひけるピアノ曲集Ⅰ、Ⅱ		
参考資料等	【購入を必須としないもの】 幼稚園教育要領 幼児のための音楽教育（教育芸術社）		
授業の評価 方法・基準	基礎技術の習得は、個人差もあるが、日々繰り返し練習と積極性が結果へと導かれる。 テスト 50%、発表 30%、提出物及び積極的な受講態度 20%、以上を評価の基準とする。		
履修条件	幼稚園の資格を取得希望すること。毎日の練習、技術獲得に積極的に係わること		
関連科目・次の ステージ	「教科専門図工」「教科専門体育」等の音・図・体の表現系科目の関係性について復讐すること。また、授業で学んだこと内容を日常生活で可能な限り実践すること。後期では「保育の表現技術Ⅰ（音楽）」を履修することとなる。		
オフィスアワー	月曜日Ⅱ・Ⅲ・金曜日Ⅲ・Ⅳ		
受講生への メッセージ	自分自身の感性に目覚め、自然に敏感であれ！常にチャイルドウォッチングを!!		

科目区分	専門	科目名	教科専門図工	担当者	玉城哲人	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	小学校教諭、幼稚園教諭選必						
卒業要件との関連性	教育者としての専門知識・価値・技術を身に付ける。								
授業の到達目標	小学校学習指導要領図画工作科の主旨を理解し、児童が造形活動を通して豊かな感性を育み創造的に生きる資質や能力を育成するための理論や基礎知識・技術を習得し、郷土の自然と文化に誇りを持って主体的に学び続けることを身につける。								
授業概要	・造形的表現活動の知識や技能の基礎・基本・技術を学ぶ。 ・自ら表現する楽しさや面白さを発見し、児童への豊かな感性を育むことの意味を体得する。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション・講義概要の説明、実技演習のねらい、受講心得、評価の方法等				事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	2回	絵の秘密				事後：描画表現4つ視点のまとめ (1H)			
	3回	児童の造形的表現の発達と特性				事前：配布資料の予習 (0.5H) 事後：造形表現の発達と特性の確認 (0.5H)			
	4回	小学校学習指導要領① (目標及び内容、各学年の目標及び内容等)				事前：小学校学習指導要領図画工作科についての予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	5回	小学校学習指導要領② (指導計画の作成と内容の取り扱い等)				事前：小学校学習指導要領図画工作科についての予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	6回	描写の指導について				事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	7回	色彩の指導について、レポートの作成について				事前：配布資料の予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H))			
	8回	工作・鑑賞の指導について				事前：配布資料の予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H))			
	9回	教材研究 (低学年の目標と内容をおさえて)				事後：制作レポート (1H)			
	10回	教材研究 (中学年の目標と内容をおさえて)				事後：制作レポート (1H)			
	11回	教材研究 (高学年の目標と内容をおさえて)				事後：制作レポート (1H)			
	12回	モダンテクニック① (にじみ、ドリップング、デカルコマニー)				事後：制作レポート (1H)			
	13回	モダンテクニック③ (スクラッチ、フロッターージュ、マーブリング)				事後：制作レポート (1H)			
	14回	学習指導計画と指導案、観点別評価について				事前：配布資料の予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	15回	講義とレポートの総括				事前：配布資料の予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	16回	試験							
テキスト	小学校学習指導要領解説図画工作編								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 「ポイントと授業づくり図画工作」 (東洋館出版社) 「造形教育の手法」 (萌文書林) 「造形教育における授業デザインと授業分析」 (東洋館出版社)								
授業の評価方法・基準	レポート40%、テスト20%、提出物 (制作作品) 30%、受講態度10%をもって総合的に評価する。								
履修条件	小学校教諭2種免許の取得を希望する者								
関連科目・次のステージ									
オフィスアワー	月曜日 3校時、 金曜日 5校時、プレイルーム、又は玉城研究室 5階 18番								
受講生へのメッセージ	・小学校の現場では、子どもの「感性」を豊かに育てることを大切にしています。子ども達の感性に寄り添うには「教育者自身の感性も大事」です。 ・進度によっては内容を変更することもあります。								

-80-

科目区分	専門	科目名	教科専門 体育	担当者	山入端恵子・石垣愛一郎	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	必修	免許・資格要件等	保育士資格・幼稚園教諭2種免許・児童厚生員2種免許						
卒業要件との関連性	本授業は他の授業参加者とコミュニケーションをとり、協働することで幼児体育の基礎を感性豊かに楽しく習得する。								
授業の到達目標	幼児期における基礎的な身体能力を伸ばすための 運動あそびを知る。さらに運動あそびを深めるために子どもの立場で考え、同時に先生役としての提供の仕方、場作り、安全確認等に必要な指導方法や知識・技能を意欲的に学ぶ。								
授業概要	前半は、フォークダンスや郷土の踊り、表現遊びの授業を通して、世界や郷土の運動文化に対する興味・関心を深め、身体表現の楽しさを知る。後半は、幼児期の発達の特性に即した各種の運動あそびや身体表現を展開し、理論と実技を学習する。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション→講義概要・講義の進め方、からだつくり運動の理論と実際(山入端)				事後：シラバスの読み返しと初授業の振り返りおよび時間割の確認(0.5H)			
	2回	フォークダンス→基本的なステップ・幼児が楽しく踊れるフォークダンスの実践(山入端)				事前：時間割(前後授業含む)の確認と体育着の所持確認(0.5H) 事後：基本ステップと幼児が楽しく踊るとは振り返る(0.5H)			
	3回	フォークダンス→幼児が楽しく踊れるフォークダンスの実践(山入端)				事前：学んだフォークダンスの振り返り(0.5H) 事後：学んだフォークダンスの振り返り(0.5H)			
	4回	郷土の踊り→講義(歴史・分類等) 代表的な所作・カチャーシー(山入端)				事前：郷土の歴史を事前学習(0.5H) 事後：カチャーシーの練習を実践的に振り返る(0.5H)			
	5回	郷土の踊り→手具を使用した踊り(山入端)				踊りの振り返り、グループの話し合い、振り付け練習			
	6回	郷土の踊り→特徴的な所作を使った振り付け(山入端)							
	7回	表現遊び→いろいろな動き・振り付け(山入端)							
	8回	表現遊び→振り付け(山入端)							
	9回	オリエンテーション及び幼児体育の意味、基礎、基本の実践(石垣)				事後：これから8週間の流れを確認(0.5H)			
	10回	用具を使わないあそび、身体を使ったあそび、じゃんけんあそび(石垣)				事前：時間割(前後授業含む)の確認と体育着の所持確認(0.5H) 事後：様々なじゃんけんあそびの振り返り(0.5H)			
	11回	集団あそび【鬼ごっこあそび】(石垣)				事後：記録ノートを使ってあそびレパートリーを考える(0.5H)			
	12回	小型遊具のあそび【ボールあそび】(石垣)				事後：記録ノートを使ってあそびレパートリーを考える(0.5H)			
	13回	集団あそび【ボールゲーム】(石垣)				事後：記録ノートを使ってあそびレパートリーを考える(0.5H)			
	14回	小型遊具のあそび【短縄あそび】(石垣)				事後：記録ノートを使ってあそびレパートリーを考える(0.5H)			
	15回	小型遊具のあそび【長縄あそび】(石垣)				事後：記録ノートを使ってあそびレパートリーを考える(0.5H)			
	16回	小型遊具のあそび【フープあそび】(石垣)				事後：記録ノートを使ってあそびレパートリーを考える(0.5H)			
テキスト	なし								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 「幼児体育」 応用編 山口智之著 タイケン出版 「幼児期のためのティーボール遊び」 前橋明著 大学教育出版 その他								
授業の評価方法・基準	活動状況や小テスト、レポートなどを総合して評価する(山入端) 記録ノートの提出、積極的かつ創意工夫の態度、協力体制を総合的に評価する(石垣)								
履修条件	確実に出席した上で、個々の身体能力に関わらず、楽しみながら「少し頑張れば出来ること」にこだわり、さらに「もっと楽しくするためには、」という姿勢・態度を創造、実行につなげる。								
関連科目・次のステージ	本授業終了後は「子どもと体育表現Ⅱ」の授業につながる。また5領域の中の保育内容「表現」のあり方、考え方にも通じる共通項がある。								
オフィスアワー	事前に打ち合わせをした上で、空いている時間すべてをオフィスアワーとする。(石垣) 石垣研究室：5階 13番 研究室								
受講生へのメッセージ	体育授業ならではの学びをクラスメートとコミュニケーションを取りながら学びましょう！								

科目区分	専門	科目名	教科専門体育	担当者	仲西 起實	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	小学校二種選必						
卒業要件との関連性	・小学校体育について理解を深め、授業者としての知識、資質を高める。								
授業の到達目標	小学校体育科の学習指導要領の内容を理解するとともに、「課題解決の学習を通して、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する指導のあり方」などについて話し合い、理解を深める。								
授業概要	・内容：小学校体育の目標、各学年目標、各運動領域の内容及び指導の在り方、保健領域の学習等 ・方法：内容や実践等のイメージをテキストや事例（写真）で確かめ、話し合いで理解を深める。								
授業計画及び時間外学習（時間）	1回	オリエンテーション、自己紹介			事後：資料の読み直し				
	2回	「学習指導要領」は何を目指しているか。			事前：「学習指導要領」改訂の背景等調べる。 事後：「学習指導要領」について理解を深める。				
	3回	「体育科の改訂」目標及び内容を理解する。			事前：「体育の改訂」を調べる。 事後：「体育の改訂」について理解を深める。				
	4回	「体ほぐしの運動」ってどんな運動？			事前：「体ほぐし」を予習する。 事後：「体ほぐし」について理解を深める。				
	5回	「体づくりの運動」ってどんな運動？			事前：「体づくりの運動」を予習する。 事後：「体づくりの運動」について理解を深める。				
	6回	「マット運動と鉄棒運動」（器械運動）で気を付けることはどんなこと【系統性】			事前：「マット」「鉄棒」を予習する。 事後：「マット」「鉄棒」について理解を深める。				
	7回	「跳び箱運動」（器械運動）で気を付けることはどんなこと【系統性】			事前：「跳び箱」を予習する。 事後：「跳び箱」について理解を深める。				
	8回	「陸上運動」を誰でも楽しめるようにするにはどうすればいいの【グループ競争】			事前：「陸上運動」を予習する。 事後：「陸上運動」について理解を深める。				
	9回	「水泳」の安全で泳力を向上させるにはD峰すればいいの【段階指導】			事前：「水泳」を予習する。 事後：「水泳」について理解を深める。				
	10回	「ネット型」「ベースボール型」のボール運動を全員が楽しむ工夫【簡易化されたゲーム】			事前：「ネット型」「ベースボール型」を予習する。 事後：「ネット型」「ベースボール型」の理解を深める。				
	11回	「ゴール型」のボール運動を全員が楽しむ工夫【簡易化されたゲーム】			事前：「ゴール型」を予習する。 事後：「ゴール型」について理解を深める。				
	12回	・表現の面白さ、フォクダンスやエイサーをより楽しめるようにするには【4つのくずし】			事前：「表現」「フォークダンス」を予習する。 事後：「表現」「フォークダンス」の理解を深める。				
	13回	3年、4年の「保健」、5年、6年の「保健」の学習内容を理解し、実践力を高める工夫			事前：中学年、高学年の「保健」を予習する。 事後：中学年、高学年の「保健」の理解を深める。				
	14回	「単元計画」について理解し、実際に手順よく作成する【運動内容と環境】			事前：「単元計画」について予習する。 事後：「単元計画」作成の仕方の理解を深める。				
	15回	「授業計画」について理解し、実際に手順よく作成する。【場、用具、規則等】			事前：「授業計画」について予習する。 事後：「授業計画」作成の仕方の理解を深める。				
	16回	本講義のまとめと最終テスト			【振り返りと再確認】				
テキスト	「小学校学習指導要領解説 体育編」 文部科学省著								
参考資料等	【購入を必要としないもの】 「小学校体育まるわかりハンドブック 高学年」								
授業の評価方法・基準	定期試験（50％）、ミニテスト（20％）、提出物（30）、発表等（態度）は加点とする。 特別の理由がない遅刻は減点とする。								
履修条件	テキストを購入しておく。								
関連科目・次のステージ	前もってテキストを読み、疑問や意見を持って（メモ）授業に参加する。 豆テストが返された日に間違い箇所を訂正し、再理解する。								
オフィスアワー	授業終了後								
受講生へのメッセージ	質問や意見など発表し合い、みんなで授業をつくっていきましょう。								

科目区分	専門	科目名	教科専門 家庭	担当者	新垣さき	授業形態	講義・演習	単位数	2
卒業要件	選択必修	免許・資格要件等	小学校教諭二種免許状：選択必修						
卒業要件との関連性	小学校家庭科の専門的知識と技能を習得し、実践できる力をつける。								
授業の到達目標	小学校家庭科の果たす教育的役割、取り扱う内容とその指導方法を理解し、家庭科の指導に必要な事項を習得する。								
授業概要	教科の目標や内容をはじめ、学習指導、指導計画、評価、指導案作成等を取り上げる。実践的・体験的な活動として、手縫いやミシンの直線縫いで小物製作、ご飯とみそ汁作りの調理実習を行い家庭科に必要な指導方法を習得し児童に指導できるようにする								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	小学校家庭科の概論 家庭科で育てる資質・能力とは何かを学ぶ			事後：家庭科で育てる資質・能力について復習する。(2h)				
	2回	小学校家庭科の目標及び内容を理解する			事前：学習指導要領の目標及び内容について予習する。(2h) 事後：学習指導要領の目標及び内容のポイントを押さえる。(2h)				
	3回	内容A「家族・家庭生活」について理解する			事前：学習指導要領の内容Aについて予習する。(2h) 事後：学習指導要領の内容Aについてポイントを押さえる。(2h)				
	4回	内容C「消費生活・環境」について理解する			事前：学習指導要領の内容Cについて予習する。(2h) 事後：学習指導要領の内容Cについてポイントを押さえる。(2h)				
	5回	内容B「衣食住の生活」について理解する			事前：学習指導要領の内容Bについて予習する。(2h) 事後：学習指導要領の内容Bについてポイントを押さえる(2h)。				
	6回	内容B「衣食住の生活」の布を用いた製作の内容について理解し、計画と実践を行う			事前：わたしたちの家庭科小学校5・6を参考に製作する作品を考え、必要な材料を調べる。(2h) 事後：製作実習の配慮事項について復習しておく。(2h)				
	7回	実習（基礎縫い：なみ縫い、半返し縫い、本返し縫い、ボタン付け、ミシン）			事前：わたしたちの家庭科小学校5・6を読み、基本的な縫い方を確認する。(2h) 事後：基本的な縫い方を復習する。(2h)				
	8回	実習 小物製作を通して基礎的な縫い方を習得し、児童に指導できるようにする			事前：作品に必要な材料の収集、必要な道具の確認をしておく(2h)。 事後：児童に指導する際の配慮事項について復習する。(2h)				
	9回	内容B「衣食住の生活」の食事の役割や日常の食事について理解し、調理実習の計画を行う			事前：学習指導要領の内容B、わたしたちの家庭科小学校5・6の食事の役割、栄養素について予習する。(2h) 事後：調理実習の配慮事項について復習する。(2h)				
	10回	調理実習（ごはんのみそ汁）			事前：材料の分量、配慮事項について確認する。(2h) 事後：調理実習の振り返りシートで復習する。(2h)				
	11回	調理実習（ゆでる）			事前：材料の分量、配慮事項について確認する。(2h) 事後：調理実習の振り返りシートで復習する。(2h)				
	12回	学習指導、指導方法、評価について理解する			事前：学習指導要領の評価について読む。(2h) 事後：学習指導要領と配布資料をもとに学習指導、指導方法、評価のポイントを押さえる。(2h)				
	13回	学習指導案の書き方と指導案を作成する			事前：図書館で小学校家庭科の指導書を見ておく。(2h) 事後：指導案作成のポイントを押さえる。(2h)				
	14回	指導案作成、指導案検討			事前：指導案作成。(2h) 事後：指導案検討の振り返りを行い、修正版の作成。(2h)				
	15回	総論			事前：学習指導要領、実習、評価等のポイント整理をすること。(2h) 事後：配布するワークシートでポイントを整理し理解を深める。(2h)				
	16回	試験							
テキスト	文部科学省「小学校学習指導要領解説 家庭編」/東洋館出版 開隆堂「わたしたちの家庭科小学校5・6」								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 平成29年改訂小学校教育課程実践講座家庭/岡陽子、鈴木明子/ぎょうせい								
授業の評価方法・基準	① 試験 60% ②作品 10% ③レポート 10% ④指導案 10% ⑤発表・実習 10% で総合的に評価する。								
履修条件	小学校二種免許状取得を目指す者（選択必修）								
関連科目・次のステージ	家庭科は身近な生活習慣に繋がる教科です。講義で学んだことを、自分自身の生活で実践し、小学校で指導する時の指導方法について考えましょう。								
オフィスアワー	火曜日の5講目								
受講生へのメッセージ	学習指導要領や小学校で使用している教科書を予習復習するようにしましょう。家庭科は様々な場面で安全配慮が必要になります。指導する時のことを想定しながら受講するようにしましょう。								

科目区分	専門	科目名	障がい児保育Ⅰ (ABCD 共通)	担当者	羽地知香	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	必須	免許・資格要件等	保育士資格						
卒業要件との関連性	保育士免許取得の為に必須教科のため								
授業の到達目標	障がいのある子どもを支える保育・教育について学ぶ。実践的な学習を通して、障がい児の理解や障がい児保育に必要な環境構成、具体的な支援方法や学校教育との連携について学ぶ。								
授業概要	障害の特性についての調べ学習と障がい児保育の現場でのエピソードをもとにして、障がい特性や障がい児保育・早期の発見と支援・移行支援の実践について、講義、体験学習、グループワークなども用いて学びをより深めていく。								
P	1 回	オリエンテーション、障がいってなに？障がいの捉え方の変化				事後：講義に関する配布資料の読み返しをする。テキスト第 1 部 障害児保育の概論「Ⅰ 障がい児保育とは何か」P2～P5 の読み返し (0.5H)			
	2 回	障がい児保育とは？保育士としての障がい児保育の基礎を知る				事前：テキスト第 1 部 障害児保育の概論「Ⅰ 障がい児保育とは何か」P6～P11 の予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5)			
	3 回	早期の発見と早期の支援についての重要性 (制度と専門性)				事前：テキスト第 1 部 障害児保育の概論「Ⅰ 障がい児保育とは何か」P20～P35 の予習 (0.5H) 事後：用語や授業に出てきた支援システムの確認 (0.5H)			
	4 回	保育の場で出会う障害とその特徴 ①				(1H)			
	5 回	保育の場で出会う障害とその特徴 ②				・図書館での調べ学習 (グループワーク) (1H)			
	6 回	保育の場で出会う障害とその特徴 グループ発表				・調べた結果をまとめてから発表 (1H)			
	7 回	保育の場で出会う障害とその特徴 グループ発表				・発表後の各自のまとめ学習 (1H)			
	8 回	保育の場で出会う障害とその特徴 まとめ				(1H)			
	9 回	乳幼児期の後半の発達とことば (乳幼児健診の重要性)				事前：テキスト第 1 部 障害児保育の概論「Ⅰ 障がい児保育とは何か」P20～P29 の予習 (0.5H) 事後：配布資料の読み返し (0.5H)			
	10 回	自我の芽生えからの発達段階と障害の関係				事前テキスト第 1 部 障害児保育の概論「Ⅰ 障がい児保育とは何か」P30～P35 の予習 (0.5H) 事後：用語の確認・配布資料の確認 (0.5H)			
	11 回	知的障害とダウン症児の特徴と保育への支援 (障がいの特性と支援)				事前：テキスト第 2 部 障害児の特徴と保育の実際「Ⅲ 知的障害児の特徴と保育での支援」P44～P49 の予習 (0.5H) 事後：知的障害・ダウン症の障害の特性について確認 (0.5H)			
	12 回	自閉症の特徴と保育への支援 (自閉症・発達障害)				事前：テキスト第 2 部 障害児の特徴と保育の実際「Ⅲ 知的障害児の特徴と保育での支援」P54～P55 の予習 (0.5H) 事後：テキスト代 2 部 障害児の特徴と保育の実際「Ⅳ 自閉症の特徴と保育での支援」P56～P57 確認 (0.5H)			
	13 回	自閉症の特徴と保育への支援の実際 (演習)				事前：事後：テキスト代 2 部 障害児の特徴と保育の実際「Ⅳ 自閉症の特徴と保育での支援」P56～P57 を再度確認 (0.5H) 事後：配布資料の確認 (0.5H)			
	14 回	自閉症のこどもの社会性や問題行動について (発達への願い)				事事前：事後：テキスト代 2 部 障害児の特徴と保育の実際「Ⅳ 自閉症の特徴と保育での支援」P62～P63・P134～P135 を確認 (0.5H) 事後：配布資料の確認 (0.5H)			
	15 回	まとめ・試験範囲の提示と試験範囲の質疑応答				事前：特になし 事後：試験範囲の確認			
	16 回	試験							
テキスト	「よくわかる障害児保育」尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編 ミネルヴァ書房								
参考資料等	【購入を必須としないもの】 「子どものねがい・子どものなやみ乳幼児の発達と子育て(改訂増補版)」白石正久著 クリエイツかものがわ								
授業の評価方法・基準	毎回の提出用紙、課題、テストをもとにして総合的に評価する。(テスト60%課題20%小テスト20%)								
履修条件	子どもに関する事や福祉に関係する事、地域での子どもを取り巻く環境に興味を持つこと。また、実習Ⅰを終えていることが望ま								

	しい。
関連科目・次のステージ	身近な地域環境に目を向け、障がい児・者に出会う機会を持つようなボランティア活動などに可能な限り参加し、学んだことを実践していくこと。
オフィスアワー	授業の前後
受講生へのメッセージ	障がい児保育の講義を通して、保育の大切さや基本、障がい児、支援の必要な子どもたちへの具体的な支援の方法と一緒に学びます。現役の保育士でもあるので、保育のエピソードを交えてなるべくわかりやすい授業にするように心がけます。一緒に子どもの未来をつくりましょう。

科目区分	専門	科目名	乳児保育1	担当者	神山・大石	授業形態	演習	単位数	1
卒業要件	選択	免許・資格要件等		保育士必須					
卒業要件との関連性		保育活動の実際に即応する技能を修得する。							
授業の到達目標		0・1・2歳児の発達を理解して、基礎理論を踏まえた養護・教育の適切な援助ができる。 保育所や乳児院で行われる乳児保育の必要性和意義、及び保護者支援について学び、乳児保育に求められる役割を認識し、課題意識をもつことができる。							
授業概要		乳児保育の理念と歴史的変遷を踏まえ、乳児保育の役割、機能を理解する。 DVD等の視聴やグループ学習を通して乳児の基本的生活の援助の方法を学ぶ。 授乳の仕方やおむつ交換など乳児独自の保育について実習を通して学ぶ。							
授業計画及び 時間外学習 (時間)	1回	オリエンテーション 授業概要の説明				事後：レポート及び発表について確認			
	2回	保育所・乳児院の役割 DVD「乳児院の一日」				事前：乳児保育が行われる施設について予習 事後：DVD視聴、配布資料で施設の確認			
	3回	乳児保育の制度・意義・発展経緯				事前：教科書第1章「乳児保育の制度・課題」予習 事後：配布資料で確認			
	4回	乳児保育の基本 DVD「乳児保育の実際」乳児期前半				事前：教科書第2章「乳児保育の基本」予習 事後：教科書「理論と実践の統合」で確認			
	5回	乳児保育の基本 DVD「乳児保育の実際」乳児期後半 課題探し（食事・睡眠・着脱・清潔・排泄）グループ分け				事前：教科書「理論と実践の統合」を予習 事後：乳児期後半の生活や遊びについて理解			
	6回	乳児の発達と保育内容				事前：保育所保育指針第2章を予習 事後：教科書、保育所保育指針で確認			
	7回	1歳3ヶ月～3歳未満の発達と保育内容				事前：保育所保育指針第2章を予習 事後：教科書、保育所保育指針で確認			
	8回	低年齢児の保育 DVD「1歳児編」・関わりの視点				事前：教科書第6期・第7期「発達の過程」予習 事後：生活や遊びについて記録・確認			
	9回	低年齢児の保育 DVD「2歳児編」・関わりの視点				事前：教科書第8期・第9期「発達の過程」予習 事後：生活や遊びについて記録・確認			
	10回	グループ課題発表 「食事」・「睡眠」・「着脱」（演習）				事前：課題に沿った予習 事後：グループ発表の課題について理解			
	11回	グループ課題発表 「排泄」・「清潔」（演習）				事前：課題に沿った予習 事後：グループ発表の課題について理解			
	12回	「調乳」・「授乳」（実習）				事前：教科書「援助の実際」調乳について予習 事後：実習を通して調乳・授乳について確認			
	13回	離乳食・食事援助の実際（演習）				事前：教科書「援助の実際」離乳食について予習 事後：食事援助の実際について教科書で確認			
	14回	援助の実際「おむつ交換」・「排泄」（演習）				事前：教科書「援助の実際」排泄について予習 事後：演習を通して排泄について確認			
	15回	援助の実際「着脱」「睡眠」（演習）				事前：教科書「援助の実際」着脱について予習 事後：演習を通して着脱・睡眠について確認			
	16回	テスト							
テキスト	見る・考える・創りだす乳児保育 CHS 子育て文化研究所 萌文書林（¥1,800+税）・保育所保育指針解説書								
参考資料等	【購入を必要としないもの】 講義の中で適宜紹介する。プリント配布・その他DVD								

授業の評価 方法・基準	課題への取り組み 20%、受講態度・演習態度 10%、レポート 20%、テスト 50% 総合的に評価する。
履修条件	日常的に福祉や保育に関する情報に関心を持つ
関連科目・次の ステージ	「子どもと保健」や「子どもの食と栄養」などの関連科目について復習する。また授業で学んだ内容を日常生活で そのつど実践する。
オフィスアワ	講義の前後で調整する。
受講生への メッセージ	身近な環境で生活する 3 歳未満児や、保育関連の情報等に興味関心を持ち、授業につなげていきましょう。

科目区分	専門	科目名	教材研究国語	担当者	桃原亮昌	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等		小学校二種必修					
卒業要件との関連性									
授業の到達目標	「教科専門国語」で修得した内容を踏まえ、学習指導要領を基本とした学習指導案を作成し、学習指導案に基づいた模擬授業を行い、一人一人が国語科での授業実践力を身につけることをめざす。								
授業概要	各学年の教科書教材及び自主教材を、内容面から徹底して研究し、児童との関わりに置いて学習課題を設定できるようににする。また、授業の中核となる学習指導案作成の手順をしっかりと学び、自力で学習指導案の作成ができるようにする。さらに、模擬授業を通して、指導力及び授業力を育成する								
授業計画及び時間外学習（時間）	1回	オリエンテーション、国語科教材とは				国語科教材について調べまとめる			
	2回	国語科学習指導要領の改訂ねねらいと目標				学習指導要領国語編を調べまとめる			
	3回	教材研究の意義				なぜ教材研究をするのかまとめる			
	4回	3領域の教材研究の進め方				3領域を中核に教材研究の意義をまとめる			
	5回	授業実践に向けた指導法及び評価				指導と評価の一貫性についてまとめる			
	6回	指導案作成の手順、指導細案と指導略案				指導案の役割を調べまとめる			
	7回	指導案作成（発問・板書計画・ワークシート等）				指導案基本項目をもとに指導案を作成する			
	8回	学校現場の授業実践から学ぶ				国語科教諭の授業からの学びをまとめる			
	9回	模擬授業グループ学習、（同学年・同教材使用）				模擬授業から授業展開の仕方等をまとめる			
	10回	模擬授業実施①（1・2年）				模擬授業から低学年の指導方法をまとめる			
	11回	模擬授業実施②（3・4年）				模擬授業から中学年の指導方法をまとめる			
	12回	模擬授業実施④（5・6年）				模擬授業から高学年の指導方法をまとめる			
	13回	模擬授業実践⑤（代表）				模範模擬授業から総括指導方法をまとめる			
	14回	模擬授業の総括				本質的な授業展開・指導方法をまとめる			
	15回	学習指導計画と学習指導案の提出				学習指導案の細案・略案を作成しまとめる			
	16回	まとめのテスト及びファイル提出、							
テキスト	小学校学習指導要領解説（国語編）、小学校国語指導書、国語教科書（1年～6年）								
参考資料等	『国語科授業研究』 田近洵一・大熊徹・塚田泰彦編 教育出版 その他、授業中に随時紹介する。								
授業の評価方法・規準	提出物（5 %）、テスト（70 %）、学習指導案（5 %）、模擬授業（5 %）、ファイルのまとめ（10 %）、学習態度（5 %）等で評価する。								
履修条件	児童教育学科初等教育クラスで小学校教諭を希望する。								
関連科目・次のステージ	小学校学習指導要領解説の国語編を熟読すること。 小学校の教育実習に生かすことができる。								
オフィスアワー	授業中に紹介及び案内等を行う。								
連絡・メッセージ									

科目区分	専門	科目名	教材研究算数		担当者	濱比嘉宗隆、富永佳代子		授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等		小学校教諭二種免許状選必							
卒業要件との関連性	教育者としての豊かな教養・専門知識・指導技術を身につけ、実際に即応する力をつける。										
授業の到達目標	教師として実際に教壇に立った時、授業をどう組み立てていくのか、具体的な4領域の指導案を基に学習し、グループで模擬授業を通し教材研究のあり方、課題の見つけ方等を理解し、授業実践力を身に付ける。										
授業概要	教壇実践を行うための理論と技術を知るため、算数の4領域の指導内容を知り、実際に模擬授業をし、指導案の書き方、教具の工夫、課題の見つけ方、体系的に教材内容が関連していること等を学習する。										
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	算数の指導案の形式と授業の流れについて				事後：算数の目標・指導過程・指導案について					
	2回	「数と計算」についての指導過程・系統性について				事前：数と計算の内容と系統の概観予習 事後：数と計算の学ばせ方について復習					
	3回	「図形」についての指導過程・系統性について				事前：図形の内容と系統の概観予習 事後：図形の指導過程と指導案の作成について復習					
	4回	「測定」についての指導過程・系統性について				事前：測定の内容と系統の概観予習 事後：測定の指導過程と指導案の作成					
	5回	「変化と関係」についての指導過程・系統性について				事前：変化と関係の内容と系統の概観 事後：変化と関係の指導過程と指導案の作成					
	6回	「データの活用」についての指導過程・系統性について				事前：データの活用の内容と系統の概観 事後：データの活用の指導過程と指導案の作成					
	7回	模擬授業と話し合い1、模擬授業と話し合い2				事前：算数指導案作り 事後：目標と評価について（まとめ）					
	8回	模擬授業と話し合い3、模擬授業と話し合い4				事前：算数指導案作り 事後：目標と評価について（まとめ）					
	9回	模擬授業の課題と反省				事前：算数指導案作り 事後：目標と評価について（まとめ）					
	10回	模擬授業と話し合い5、模擬授業と話し合い6（担当：富永佳代子）				事前：算数指導案作り 事後：課題設定について（まとめ）					
	11回	模擬授業と話し合い7、模擬授業と話し合い8（担当：富永佳代子）				事前：算数指導案作り 事後：比較検討について（まとめ）					
	12回	模擬授業と話し合い9、模擬授業と話し合い10（担当：富永佳代子）				事前：算数指導案作り 事後：まとめのあり方について（まとめ）					
	13回	模擬授業の振り返りと考察				事前：算数授業と深い学びについて予習 事後：数学的学びと系統性について復習					
	14回	授業のあり方、教材研究のあり方				事前：算数授業と深い学びについて予習 事後：数学的学びと系統性について復習					
	15回	これからの算数授業のあり方を考える				事前：わかる授業とはについて予習 事後：深い学びについて復習					
	16回	定期試験									
テキスト	「小学校学習指導要領解説 算数編」文部科学省、算数教科書										
参考資料等	【購入を必須としないもの】 随時提供、協働研究協力校指導案綴										
授業の評価方法・基準	評価テスト50%、模擬授業・指導案30%、積極的授業参加20%										
履修条件	教科専門算数を受講した学生。										
関連科目・次のステージ	各教科の指導方法・学ばせ方と関連。										
オフィスアワー	月曜日の午後、金曜日の午前。事前にアポイントメントをとること。										
受講生へのメッセージ	基礎・基本とは、学ばせ方、共に考えましょう。										

科目区分	専門	科目名	教材研究社会	担当者	上原 勝晴	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状						
卒業要件との関連性	保育者・教育者としての専門的知識、技能を身に付ける。								
授業の到達目標	現在の教育制度について、学校教育、幼児期の教育、社会教育等に関する教育法規の基礎的な知識を身に付け、教員や保育者としての資質能力を育成する。また、今日の教育問題にも関心を持ち、その解決に向け、努力していく態度を育成する。								
授業概要	学校の教育制度を中心に日本国憲法や教育基本法等の教育法規を基に、学校教育法、学校教育法施行規則、地方公務員法及び教育公務員特例法等の関連法令を中心に授業を進める。また、必要に応じて、教育判例や新聞記事等を活用し理解を深めるとともに、本県教育の課題や今日的な教育問題についても考えさせたい。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション、学校制度を学習する意義等				事後：シラバスの確認、資料の読み返し(0,5H)			
	2回	教育の基本に関する法規(1)日本国憲法				事前：教育法規の用語の確認等及び復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	3回	教育の基本に関する法規(2)教育基本法①				事前：日本国憲法の読返しと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	4回	教育の基本に関する法規(3)教育基本法②				事前：教育基本法を読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	5回	学校教育の制度(1)学校の範囲・設置・目的				事前：学校教育法の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	6回	学校教育の制度(2)学習指導要領の意義、教育課程の規定				事前：関係法規の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	7回	学校教育の制度(3)教育課程の編成、教科書制度				事前：関係法規の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	8回	学校教育の制度(4)児童生徒の管理①(就学義務、懲戒)				事前：関係法規の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	9回	学校教育の制度(5)児童生徒の管理②(いじめ防止)				事前：いじめ防止対策推進法の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	10回	学校教育の制度(6)児童生徒の管理③(学校保健安全、給食)				事前：学校保健安全法等の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	11回	教職員の制度(1)教員の資格、任用、職務				事前：関係法規の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	12回	教職員の制度(2)教員の服務、懲戒				事前：関係法規の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	13回	教職員の制度(3)教員の研修、校務分掌、職員会議				事前：関係法規の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	14回	社会教育の制度(1)社会教育及び生涯学習				事前：社会教育法の読みと復習(0,5H) 事後：ワークシートや配布資料で復習(0,5H)			
	15回	教育行政の制度(1)教育委員会の組織、本県教育の目標				事前：なし 事後：試験準備(1H)			
	16回	試験							
テキスト	特に指定はしない。参考資料等の教育制度に関する資料を授業中に適宜提示する。								
参考資料等	【購入を必須としないもの】・「教育関係法令集」沖縄女子大学 津留健二 著 ・「教育小六法」学陽書房・三省堂、 ・「教育制度論」高妻紳二郎 編著 ミネルブ7書房								
授業の評価方法・基準	試験 80%、豆テスト・プリント課題 20%								
履修条件	日常的に学校教育や保育に関する情報に関心をもつこと。								
関連科目・次のステージ	日本国憲法や教師論及び教育課程にかかる関連科目について学習すること。学んだことを教育実習やインターンシップ等で生かすこと。								
オフィスアワー	金曜日の 14:00～17:00、水曜日 15:00～17:00 その他必要に応じて設定する。事前にアポイントをとること。								

科目区分	専門	科目名	教材研究 音楽		担当者	小波津	授業形態	演習	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等		小免選択						
卒業要件との関連性	小学校教育活動の実際に即応する基礎知識と技能及び教材を研究し習得する。									
授業の到達目標	学習指導要領にある「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感情を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな感性を養う」という第1目標をしっかりと見据え、教師として、教材の発掘や選択、研究を深め理解する。									
授業概要	音楽科の教科、及び各学年の目標、指導内容を研究、検討し、新学習指導要領の理解と認識、共通事項を生かした各学年に適した授業展開の為の具体的な指導技術について、理論や実践を研究し習得する。									
授業計画	1回	科目登録、音楽教育概要 音楽科学習指導要領の解説				事後：科目登録内容、及び音楽科指導要領の理解と復讐（1H）				
	2回	指導内容の解説、表現（主に「冬げしき」「越天楽今様」の歌唱と弾き歌い）				事前：学習指導要領解説内容の予習（1H） 事後：授業の振り返りと解説書の理解（1H）				
	3回	指導内容の解説、表現（リコーダー「ふるさと」を通して、器楽・鑑賞及び創作等）				事前：リコーダー音階練習（1H） 事後：授業振り返りと教材の振り返り（1H）				
	4回	学習指導と授業の構成、音楽科学習指導案の作成方法、グループ分				事前：指導案作成に関する項目の予習（1H） 事後：授業の振り返りと音楽技術習得の練習（1H）				
	5回	教材研究と実技 その①：身体表現（リズム遊び、ふし遊び等）				事前：教材研究①身体表現についての予習（1H） 事後：授業の振り返りと音楽技術習得の練習（1H）				
	6回	教材研究と実技 その②：踊りの音楽（バレエ：クラシック&モダン・アフリカ・日舞・琉舞）				事前：教材研究②踊りの音楽についての予習（1H） 事後：授業の振り返りと模擬授業計画①（1H）				
	7回	教材研究と実技 その③：楽器を使って（リコーダー・管楽器・弦楽器・パーカッション等）				事前：教材研究③楽器の種類について予習（1H） 事後：授業の振り返りと模擬授業計画②（1H）				
	8回	教材研究と実技 その④：アンサンブルの楽しさ（合唱・合奏・朗読と音楽）				事前：教材研究④アンサンブルとは？の予習（1H） 事後：授業の振り返りと模擬授業計画③（1H）				
	9回	教材研究と実技 その⑤：鑑賞の魅力に迫る（オーケストラ・オペラ・ミュージカル等）				事前：教材研究⑤小学校の鑑賞教材の予習（1H） 事後：模擬授業指導案提出にむけて（1H）				
	10回	教材研究と実技 その⑥：郷土（沖縄）の音楽の魅力に迫る（三線・三板・太鼓等）				事前：指導案の見直しとグループ討議（1H） 事後：授業の振り返りと音楽技術習得の練習（1H）				
	11回	模擬授業と研究討論（低学年）				事前：プレ模擬授業の演習と練習（1H） 事後：授業の振り返りと低学年授業のまとめ（1H）				
	12回	模擬授業と研究討論（中学年）				事前：プレ模擬授業の演習と練習（1H） 事後：授業の振り返りと中学年授業のまとめ（1H）				
	13回	模擬授業と研究討論（高学年）				事前：プレ模擬授業の演習と練習（1H） 事後：授業の振り返りと高学年授業のまとめ（1H）				
	14回	模擬授業の総括と質疑応答				事前：模擬授業での質問等のグループ討議（1H） 事後：模擬授業総括の振り返り（1H）				
	15回	テスト 及び、テストの内容分析								
	16回	教育実習に向けての音楽科留意点と総まとめ				事前：自己課題や問題点の確認と実習について				

	め	事後：実習に向けての再確認（1H）
テキスト	小学校学習指導要領 新音楽の授業づくり（教育芸術社）	
参考資料等	小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり「音楽」（東洋館出版社）	
授業の評価 方法・基準	テスト 40%、発表 40%、提出物及び積極的な授業態度 20% 以上を評価の基準とする。	
履修条件	小学校の資格を取得希望すること。毎日の練習、技術獲得に積極的に係り、グループ学習においては楽しくコミュニケーションを積極的に取り、授業づくりに創造的に係わる。	
関連科目・ 次のスケー ジ	各教科の教材研究における指導案計画作りについて復讐すること。また、授業で学んだ内容を日常生活で可能な限り実践すること。教育実習に向けて取り組むこと。	
オフィスアワー	月曜Ⅱ・Ⅲ 金曜Ⅲ・Ⅳ	
受講生への メッセージ	自分自身の感性に目覚め、自然に敏感であれ！ボランティアに積極的に係わり、常にチャイルドウォッチングを！！	

科目区分	専門	科目名	教師論	担当者	桃原亮昌	授業形態	講義	単位数	2
卒業要件	選択	免許・資格要件等	小学校二種必修						
卒業要件との関連性									
授業の到達目標	教師論を学び、教職の意義、教師の資質及び専門性を身につけ、自らの教師像を確立することができることを目指す。								
授業概要	人間教師を目指して、教員養成教育の全体理念を基に、教職の意義・役割、職務内容、教職として取り組む内容(地域貢献を含む)等について、自らの教師像を構築できるようにする。								
授業計画及び時間外学習(時間)	1回	オリエンテーション、教職とは何か等				教職についての調べる			
	2回	教職観と理想の教師像				個人の理想教師像をまとめる			
	3回	教育実習の内容と成果について学ぶ				教育実習経験者からの学びをまとめる			
	4回	教師の任用と服務				特に教師の服務を法規を基にまとめる			
	5回	教師の役割と仕事				教師の一日の仕事内容をまとめる			
	6回	教師の学校内外の連携				学校内外の連携を調べてまとめる			
	7回	教師の職場環境				出身学校を中核に職場環境をまとめる			
	8回	教師の資質向上と研修				教師の資質7項目を調べてまとめる			
	9回	教師の学校危機管理				日常の危機管理体制についてまとめる			
	10回	教師のリーダー性				本質的なリーダーに4項目ついてまとめる			
	11回	学級経営の在り方				教科指導生徒指導両面からまとめる			
	12回	授業実践について模擬授業を通して学ぶ				模擬授業から授業展開方法をまとめる			
	13回	本県の教育目標及び教育課題				沖縄県教育委員会施策方針等をまとめる			
	14回	教育実習の意義と心得				教育実習の事前学習をまとめる			
	15回	教職への進路選択と教員採用選考				教員採用試験概要を調べ予習する			
	16回	まとめのテスト及びファイル提出							
テキスト	「教職概論」教師を目指す人のために 佐藤晴雄著 学陽書房								
参考資料等	[購入を必須としないもの] 授業中に随時紹介する。								
授業の評価方法・規準	テスト、受講態度、提出物、学習ファイルのまとめ等で評価する。								
履修条件	児童教育学科初等教育クラスで小学校教諭を希望する。								
関連科目・次のステージ	「教育実習を終えて」の冊子を熟読すること。								
オフィスアワー	授業中に紹介及び案内等を行う。								
連絡・メッセージ									